

THE PHILATELIST MAGAZINE

フィラテリスト

スタンペディア日本版機関誌

Magazine

2021

AUTUMN ISSUE
STAMPEDIA INC.



フィラテリスト Magazine の読み方・使い方

当誌の位置づけ

フィラテリスト Magazine は無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
Stamperia 社が運営する「スタンペディア日本版」の会員向け機関誌です。年会費を納めた会員には、冊子（フルカラー 約 160 頁）が、発行の都度郵送されるほか、「マイスタンペディア」（右図）より冊子到着前にダウンロードして閲覧していただくサービスを提供しています。 <http://my.stampedia.net>

冊子の提供サイズ

機関紙（通常号）は A5 判と A4 判を用意しており、年間を通じて予めご指定頂きます。特に指定ない場合は A5 判を購読するものとして取り扱います。年途中での A4 判へのサイズ変更は、差額のお支払が必要ですが承ります。

PDF の活用方法（見る）

ダウンロードした PDF は、パソコンやスマホに保存できます。一旦保存するとそれ以降はいつでも好きな時に PDF 版をご覧ください。

万一、ダウンロードした PDF が見つからなくなっても、会費を継続して支払っている期間は、入会以来全ての PDF を再度「マイスタンペディア」からダウンロードできます。

PDF 版は Adobe Reader 等の PDF 閲覧アプリでご覧頂くことを推奨いたします。ブラウザ（インターネットエクスプローラー等）での閲覧は不安定であり、勧めません。

PDF には目次がついています。目次表示機能付き PDF 閲覧アプリでは読みたい記事を簡単に探すことが可能です。

また機関紙の「目次」（原則として 4-5 ページ）で記事タイトルをクリックすると、読みたいページにジャンプします。

PDF の活用方法（印刷する）

ダウンロードした PDF は、個人の利用に限り、いつでも好きな時に繰り返し印刷することが許可されています。各号に用意された目次を参考にして興味ある記事を見つけ、印刷を行ってください。なお当誌では表紙を 1 ページ目としてページの割り付けを行っておりますので、印刷に指定するページ番号も目次のページ番号と一致しています。（ページ番号は各ページのフッタに表示しています）

なお本誌 PDF は快適なダウンロードの為、ファイルサイズをコンパクトにしています。この為、弊社で製本してお届けする冊子と比較すると印刷結果のクオリティは落ちます。

当誌の編集方針

現代のフィラテリーは古今東西の幅広い収集対象に対して深く研究が行われると共に、収集方法も多岐に分かれています。このような幅広い興味・関心を満たす郵趣雑誌は、多くのページ数を持ち、掲載が特定の分野に偏らない存在であることが理想的です。

この理想を実現するために、フィラテリスト Magazine はページ数に制限の少ない PDF で閲覧されることを前提に編集しています。まだ新しい、このようなスタイルの郵趣雑誌を提供することにより、郵趣の世界に元気を与えたいと考えています。



定期購読されている方には、機関紙と共に、「スタンペディア日本版 2022年会費 更新のご案内」パンフレットを同梱しています。同パンフレットをご覧の上、お早めの更新手続きをお勧めします。

お得な早期特典 あります

スタンペディア日本版

2022 年会費 更新のご案内

機関誌「フィラテリストマガジン」は
来年12月に、創刊9周年を迎えます

更新
手続
きを

お早めにどうぞ

スタンペディア日本版機関紙



フィラテリスト Magazine

第32号

目次



当誌の読み方・使い方		2
目次		4
郵趣界重大ニュース		6
郵趣カレンダー		10
国際切手展の開催動向		14
HELVETIA 2022		15
スタンペックスジャパン2022		16
第8回ヨーロッパ切手展		22
第4回 南方占領地のフィラテリー展		23
サブスク購読できる郵趣雑誌の発行者等を応援するページ		24
私の発見・私の報告		
昭和40年の24時間型櫛型印にシャチハタ印？	行徳 国宏	26
都内速達 丸速センサス update		27
Classic Philately 連載 クラシック切手		
(14) レユニオン 1852 The First Issue 30 Centimes		28
寄稿記事・郵趣論文		
旧中国紅印花郵票収集入門 壹分ラージボックスのポジション	猫山 ねこ	30
日本版蟠龍票伍角黒緑の変種	猫山 ねこ	36
江戸時代の国際郵便(3) 万延元年・フランス共和国	吉田 敬	38
ハワイからのスタンプレスカバー2題について	山崎 文雄	40
自衛隊海外派遣と郵便	大岩 信行	46
戦後の欧文櫛型印(9) C欄 JAPAN・後発グループ(下)	神宝 浩	54
自動押印機に使用する印肉類の色	行徳 国宏	63
琉球の航空郵便(6) ハト航空 16円	木戸 裕介	70
琉球記念切手「琉球政府成立記念」完全シート	猫山 ねこ	74
和欧文機械印トピックス	水谷 行秀	76
偽造と変造	安藤 源成	86
嫌われる「フィラテリックカバー」	安藤 源成	91

郵趣活動の記録

切手コレクション紹介 植物切手の魅力	石田 徹	94
切手コレクション紹介 <支那> 加刷・大正白紙切手	柳川 英幸	96
切手コレクション紹介 スイス不足料 1883-1910	有吉伸人	98

郵趣振興協会 活動報告

郵趣振興協会 100

PHILANIPPON2021 競争展示特集

102

オリンピックと私	山田 祐司	104
ゼネラル収集の末に	吉田 敬	105
感謝を込めて	有吉 伸人	106
目標の大金銀賞を獲得できて	虎頭 雄彦	111
PHILA NIPPON 2021 に出品して	丹羽 昭夫	112
国際展初出品を振り返って	水谷 行秀	114
大満足の結果に終わった PHILANIPPON2021	重山 優	116
望外の喜び 初出品で予想以上の賞をいただきました	藤本 博嗣	118
初出品の国際切手展まで	飯澤 達男	120
久方ぶりの全面見直しに取り組んで	小岩 明彦	122
国際展に日本の現代郵趣を展示できて	虎頭 雄彦	129
フィラニッポンへの色々な思い	長谷川 純	130
富士鹿・風景で国際展金賞	吉田 敬	133
日本国際切手展 2021 競争部門 審査結果		134
パルマレスの記録		137

その他の郵趣活動の記録

国内競争切手展 受賞結果抜粋等 全日本切手展 2021		139
全日展 2021 参観記	長野行洋	140

オークションレポート

ジャパンスタンプオークショニアレポート	鯛 道治	143
スタンペディアオークション セールレポート・落札結果等		150

あとがき

163

広告一覧

フィラサーチ [P.35]
 スタンペディアオークション株式会社 [P.164]
 スタンプショウ=ヒロシマ実行委員会 [P.12,13]
 HELVETIA2022 日本コミッショナー [P.45]

付録	
付録1	植物切手の魅力 <支那>加刷・大正白紙切手
付録2	スイス不足料 1883-1910

郵趣界重大ニュース

2021年6月～2021年9月

1 Post Office 1d 単貼カバー、英領ギアナ暫定 1c を遥かに超える 10.7 億円で落札！



1847 Mauritius Post Office 1d, internal usage

6月26日に、独クリストフ・ガートナー (Christoph Gärtner) のオークションで、モーリシャスが1847年に発行した Post Office 1d を貼ったカバーが競売にかけられ、8,100,000 EUR で落札されました。日本円で10.7億円でそれとは別に購入手数料がかかります。

この価格は同月8日にNYのサザビーズで開催されたセールで成約した英領ギアナ暫定 1c の落札価格 7,000,000 USD (+ 購入手数料) を遥かに超える金額で、郵趣マテリアルの成約値としてはギネスと思われます。

同ロットのセールは前向上に30分近く費やした後、400万ユーロから始まり、始まった当初はもたもたしていたのですが、その後はほぼ止まることなく、ずーっと値段が上がり、最後は810万ユーロで成約しました。

サザビーズに比べて一般向けのプロモーション力の弱い切手専門オークションによる競売であり、英領ギアナに比べると一般マスコミでは騒がれておらず、その為に日本のブログなどにも滅多に掲載されていませんが、ビッド参加者も多く、入手を願うフィラテリストへの周知は十分だった様です。

郵趣価値も英領ギアナに負けず劣らず高く、投資目的かもしれないませんが、フィラテリーの可能性を大きく感じることもできるセールだったと思います。

For the 3rd
For the 2nd
On the 1st
Hall 8,100,000 EUR
Hall 8,050,000 EUR
On the 1st
Hall 8,000,000 EUR
Hall 7,950,000 EUR
On the 1st
Hall 7,900,000 EUR
Hall 7,850,000 EUR
On the 1st
Hall 7,800,000 EUR
Hall 7,750,000 EUR
On the 1st

刻み値の上がっていく様子

2 万国郵便連合 (UPU) の国際事務局長に目時政彦氏 (日本郵便株式会社執行役員) が当選

国際機関の主要ポストに日本人がほとんどいない反省から、政府は国連など国際機関の主要ポストの獲得に向け取り組みを強化しています。収集家に馴染みの深い万国郵便連合 (UPU) は、15の国連専門機関の1つですが、その国際事務局長選挙に、日本郵便株式会社執行役員の日時政彦氏を候補者として擁立しましたが、8月25日の投票で無事選出されました。就任は2022年1月1日です。



万国郵便連合本部 (スイス、ベルン)

3 現行切手の話題

日本郵便は4月1日に、はがきや手紙、ゆうメールの土曜日配達を10月から休止することや、速達料金を値下げすることなどを発表していましたが、新しい速達料金に当たる新料額の260円切手が料金値下げのひと月前の9月1日に発行されました。

10月1日の値下げまでのひと月間は必要のない切手であるため、郵便局の窓口には置いていない局もあるほどでこのひと月間の使用例は少ないと思いますので、現行切手にご関心のある方は意識的に集めてみてはいかがでしょうか? (図参照)

また、4月13日に「〒」マークを特殊印刷した切手4種(94円、100円、120円、140円)の発行が発表されましたが、6月頃から登場し始めている様です(右図は7/2)。



消印では、東京五輪・パラリンピックの開催に伴い、「東京中央・東京2020選手村」「東京中央・東京2020IBC/MPC」などの臨時分室が設置され、郵頼を受け付けた為、使用済がマーケットに登場しています。

7月26日には、東京中央郵便局にセルフ証紙発行機が登場し稼働開始しました。利用者により、新しい意匠のメータースタンプ(右図)を購入することができます。



速達葉書 神奈川西→海事ビル内 3.9.1 (初日)

速達料は 9/30 まで 290円。

受取人から不足金額 30円を徴収

4 公財) 日本郵趣協会 2020年度決算発表、会員減少数はマイナス 365 人にとどめる。

公益財団法人日本郵趣協会は、6月下旬に、2020 年度事業報告を発表しました。この公開情報を分析したところ、会員数は当誌の分析による推定 (*1) で 6,674 人から 6,309 人へと 365 名減少 (-5.5%) したことがわかりました。

*1 公益財団法人日本郵趣協会は、2015 年度事業報告までは、「正味財産増減計算書補足説明」で会員数の実数を掲載してきましたが、会員数減少が明示されてしまう事もあり、会員力増強キャンペーンを開始する中で、2016 年度事業報告より、これらの情報を非掲載としました。したがって、ここに掲載された会員数などは、公開 PL 及び会費単価等から当誌が独自に分析して算出したデータとなります。

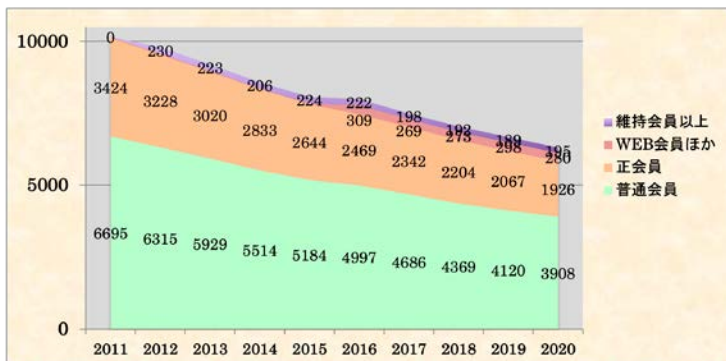
2013 年度以降の会員減少率は、WEB 会員制度を開始した 2016 年度に一度マイナス 1% を記録した以外は、毎年平均 6.3% の減少が続きました。しかし池原都夫氏が理事長に就任するとマイナス率が大幅に改善し 2019 年度は 5.2% の減少、2020 年度も 5.5% の減少にとどめています。分母となる会員数も以前より少ない為、2020 年度の会員数の減少数も 365 名に止まり、毎年 500 名以上退会していた時期に比べて大幅な改善が見られています。

ただし、これまでの予想では、会員数 5,000 人台への突入は、日本郵便が 150 周年を迎える 2021 年度と予想されていましたが、2020 年度の状況は若干悪くなっており、その時期を 2022 年度以降に先延ばしできる目処はまだ立っていません。

もっとも決算発表で示す数値から除外した事から分かる通り、現在の日本郵趣協会にとって会員数は重要度の高くない数値です。安価な年会費の WEB 会員 (3,600 円 / 年) を新設した 2016 年度に 300 人の会員集めに成功した様に、将来、千円や二千円の年会費を設定したり、さらには無料の会員枠を新設すれば、会員数の増加が可能な事が経験済みであり、会員数と金額の二要素の内、現在重視されているのは後者の金額に移っており、低いランクに位置付けられている既存会員のランクアップ (正会員から維持会員へ等) や寄付金集めなどに力が入れられます。実際、維持会員数は 119 名から 125 名に増加した見込みです。

この観点から 2020 年度財務諸表を見ると、経常収益における「受取会費」が 5,762 万円と減少 (2018 年度 6,565 万円、2019 年度 6,096 万円) した点は予定通りですが、それ以上に寄付金が 455 万円に減少 (2018 年度 569 万円、2019 年度 1,066 万円) している点は予定と大きく異なった点と考えられますが、これは COVID-19 の流行で催事の開催機会が減少した影響ですが、その一方で経常費用も大幅に減少したため、単年度黒字の確保には影響しませんでした。もっとも、日本郵趣協会の会員数や経常収益の規模は欧米の大規模郵趣組織と比肩しても突出した規模であり、この金額が現在の半分や 3 分の 1 の規模に縮小しても、経営上の問題はないと分析しています。

(本誌のスタンス) 日本郵趣協会は、法人の存立や各種施策の予算確保という点で、今後も「JPS の会員数」と「JPS の受取会費総額」の増強をはかると宣言しています。一方この運動には、フィラテリスト個人個人が抛出したお金を合計する巨額な金額が動きます。公益財団法人には、商法上の株式会社のような株主総会はない為、スタンベディアは、日本のフィラテリーの健全な発展のために、今後も、この活動を分析し報道してまいります。



JPS 会員数 (概数) の推移 (2011 年 ~ 2020 年) 参照: 公益財団法人 日本郵趣協会 決算報告書。当誌分析。

5 3回目の緊急事態宣言の発出下だが、各種郵便催事は復活へ

第27号以来、毎号取り上げている、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴う国内の郵便催事の記録を掲載します。

郵便団体・法人の開催する催事の内、飲食を伴わないものについては、政府の要請に従い、感染リスクの高い場面に絞り効果的・重点的な対策が徹底される様になり、2021年1-3月期にほぼ復活した後、4月25日の緊急事態宣言発出で公共団体の運営する施設で開催される催事を中心に中止・延期が相次ぐことになりました。

同宣言は6月20日に解除されましたが、感染状況の悪化により、7月12日には4回目の緊急事態宣言が発出され、本稿執筆の9月7日も継続しています。ただ、以前の宣言と比べて活動範囲の制限は少なく、まず東京五輪・パラリンピックが開催されました。また、多くの自治体で博物館・美術館の開館が認められているほか、公共団体の運営する施設も必ずしも閉鎖されているわけでもないため、飲食を伴わない郵便催事は徐々に復活してきています。

結果としては、公共団体の運営施設を使用しかつその施設が閉鎖された場合を除き、大半の郵便催事が、感染リスクの高い場面に絞り効果的・重点的な対策が徹底された上で開催されるようになってきています。

時期	展覧会、WEB セミナー等	即売会・フリマ・例会	五大オークション他
6月	1. PHILANIPPON 2021 組織委員会、世界展をアジア展に変更すること等を発表 1. 郵政博物館（押上）再開。 8. 郵博 特別切手コレクション展、郵政博物館での展示を再開（郷土の郵便の歴史展）。 25. 鳴美、全日本切手展 2021 を開催。	5. 切手市場、名古屋切手フリマ、JSDA 有楽町催事等全て開催。 切手催事はほぼ元通りに開催できる状態に戻る	27. 鳴美、全日展会場でフロアセールを開催
7月	12 第4回目の緊急事態宣言が発出されるが、公共団体の運営施設を使用し閉鎖された場合を除き、大半の催事が、対策を徹底して開催される。		18. タカハスタンプフロアオークション開催 25. 日フィラフロアオークション開催
8月	14. 郵便連合、2022年5月の世界展 HELVETIA2022 への派遣コミッショナーを決定する。 25. パシフィコ横浜で PHILANIPPON 2021 が開催される。 30. PHILANIPPON 2021 飲食を伴わないパルマレスを開催。	7-8. 切手倉庫 名古屋マーケット 開催	
9月	11-12. スタンプショウ＝ヒロシマ 2021、展覧会及び講演会を開催（予定）		

番外編 PHILANIPPON2021 の真横で、ソニーが恐竜科学博を開催

7/17-9/12 までソニー特別協賛で、恐竜科学博が開催されましたが、その場所は PHILANIPPON の真横でした。こちら入場無料に対して、こちらは入場料 2,800 円！でもどこかの切手展と比べて HP の情報発信も完璧で、さすがソニー。入場したフィラテリストに感想をうかがうと、「初心者にも分かる構成になっていてよかった。有料の音声ガイドダンスを聴くと更に理解できる。かわいいしオススメ」とのことでした。



郵趣カレンダー

2021 年 9 月中旬以降に開催される郵趣イベント

今後予定されている催事は、季節・時期・地域を問わず急遽中止・変更される可能性があります。
ご来場にあたっては、各主催者が提供する一次情報（ホームページや代表電話）を確認の上、お越しください。

国際郵趣連盟の規則に基づいて審査が行われる競争切手展

開催日	切手展名称	会場	分類	出品 枚切
2021/11/5-7	JAPEX2021	都立産業貿易センター台東館（浅草）	日	9/21
2022/2/19-26	LONDON2022	BusinessDesignCenter（英、ロンドン）	世	締切済
2022/3/26-28	スタンベックスジャパン 2022	郵政博物館（押上・スカイツリー）	日	12/21
2022/3/31-4/3	HUNFILEX2022	ハンガリー、ブダペスト	世	締切済
2022/5/6-10	TAIPEI2022	TaipeiWorldTradeCenter（台湾、台北）	ア	未発表
2022/5/18-22	HELVETIA2022	スイス、ルガーノ	世	9/15
2022/8/4-9	WSC INDONESIA2022	TheIndonesianParliamentComplex（インドネシア、ジャカルタ）	世	締切済
2022/9/8-11	MELBOURNE2022	CaulfieldRacecourse（豪、メルボルン）	ア	未発表
2022/11/8-12	CAPE TOWN2022	InternationalConventionCenter（南ア、ケープタウン）	世	未発表
2023/5/25-28	IBRA2023	MesseEssen,Hall1+2（独エッセン）	世	未発表
2026/5/23-30	BOSTON2026	BostonConventionandExhibitionCenter（米ボストン）	世	未発表

分類世：世界切手展ア：アジア国際切手展日：日本の全国切手展

一般切手展

開催日	地域	切手展名称	会場
2021/9/11-12	広島	スタンプショウ=ヒロシマ 2021	県立広島産業会館・東展示館
2021/9/23-11/28	東京	スポーツ切手展 & from 1896 to 2016	郵政博物館
2021/9/25-26	東京	第8回ヨーロッパ切手展	郵政博物館+クラウド展示（10/24 まで）
2021/10/1-3	東京	第18回震災切手と震災郵趣展	切手の博物館（目白）
2021/11/12-14	東京	稲門フィラテリー 20 周年記念切手展	切手の博物館（目白）
2021/11/20-21	東京	第4回南方占領地フィラテリー展	郵政博物館+クラウド展示（12/23 まで）
2021/12/28-2022/1/11	東京	富士鹿切手発行百年記念展	郵政博物館

※郵政博物館の開場時間は 10:00-17:30 ですが、9/1 現在 10:30-16:30 に短縮されています。感染症の影響で今後、変更される可能性がありますので、ご来場にあたってはホームページでご確認ください。なお、いずれの場合も最終入場時刻は閉館時刻の 30 分前です。

※郵政博物館で開催される切手展の初日の開場時刻が 13:00 になるケースがありますので、ホームページでご確認ください。http://kitte.com/

主要なオークション

開催日	主催者	回	会場
9/19	タカハシ・スタンプ・オークション	660	タカハシスタンプ
9/29	日本フィラテリックセンター	789	メール
10/2	スタンペディアオークション	19	綿商会館
10/17	タカハシ・スタンプ・オークション	661	タカハシスタンプ
10/29	スタンペディアオークション	秋の文献	メール
11/6	JPS オークション	536	都立産業貿易センター台東館
11/7	ジャパNSTAMPオークション	119	大阪駅前第3ビル
11/21	タカハシ・スタンプ・オークション	662	タカハシスタンプ
11/24	日本フィラテリックセンター	790	メール
12/4	ジャパNSTAMPオークション	120	大阪駅前第3ビル
12/19	タカハシ・スタンプ・オークション	663	タカハシスタンプ

*メールオークションとして開催される場合は、開催日が入札締切日となります。

*当社提携会社が運営するスタンペディアオークションへの出品締切は下記の通りです。

第20回セール：2021/10/15、文献セール：2021/11/15

切手フリマ・即売会

開催日	地域	名称	回	会場	開催時間
9月11日	名古屋	名古屋切手フリマ in 大須	9	第1アメ横ビル 4F	10:00-16:00
10月2日	東京	切手市場	199	綿商会館	9:00-17:00
11月7日	東京	切手市場	200	綿商会館	9:00-17:00
11月27日	名古屋	名古屋切手フリマ in 大須	10	第1アメ横ビル 4F	10:00-16:00
12月4日	東京	切手市場	201	綿商会館	9:00-17:00

綿商会館：東京都中央区日本橋富沢町 8-10

第1アメ横ビル：名古屋市中区大須 3-30-8

主なオンライン郵趣例会

切手サークル名	代表者	使用アプリ	参加費用	オンライン例会開催日
日本切手研究会	横山裕三	ZOOM	無料	第2,4日曜日 21時 9/12,26,10/10,24 11/14,28,12/12,26
昭和切手研究会	斎享	ZOOM	無料	第3日曜日 21時 9/19,10/17,11/21,12/19
外国切手研究会	榎原晃二	ZOOM	無料	第1,3土曜日 20時 9/4,18,10/2,16 11/6,20,12/4,18
南方占領地切手コレクターズクラブ	守川環	ZOOM	無料	第4水曜日 20時 9/22,10/27,11/24,12/22

〈スタンプショウ=ヒロシマ〉2021 特別講演会

「全世界ゼネラル収集と国際切手展の作品づくり」

講師：特定非営利活動法人郵趣振興協会代表理事 吉田 敬 氏



吉田 敬氏

1967年生まれ。スタンペディアプロジェクト・ファウンダー。1840年から2005年までに発行された世界の切手50万種類を未使用で1種1枚ずつ 収集中。1960年以前は99%に到達。国際切手展での上位入賞多数。

- 日時：9月11日(土)18:10~20:00
- 会場：広島市南区民文化センター(県立広島産業会館西展示館)
3階大会議室A
(JR「広島駅」路面電車5番線のりば「比治山下経由広島港(宇品)行き」乗車、「南区役所前」下車)
※スタンプショウ=ヒロシマの会場は、
県立広島産業会館東展示館

- 関連作品の展示・解説あり
- 参加費：無料(要事前申込)
- 問&申込：楨原晃二(スタンプショウ=ヒロシマ実行委員会)

TEL:090-8711-1127

Eメール：k-makihara@arion.ocn.ne.jp



スタンプショウ=ヒロシマ
実行委員会



広島市南区民文化センター 3階
(県立広島産業会館西展示館)

特定非営利活動法人
郵趣振興協会
Society for
Promoting Philately

西日本最大の切手展

スタンプショウ =ヒロシマ 2021



9/11(土)・12(日)
10:00~17:00 9:00~15:00

入場無料

会場

県立広島産業会館 東展示館第2展示場

TEL 082-253-8111 広島市南区比治山本町 12-18



企画展：
東京 2020
オリンピック

◆全国切手展・地元収集家の
多彩な作品を多数展示！

◆切手なんでも鑑定・
相談コーナー

◆「笑い文字」コーナー

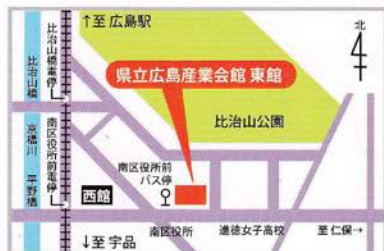


♡切手女子コーナー
で可愛い切手を無料
配布、手紙グッズなど
の販売



有名切手商ブース (5社)

アオヤマスタンプ、
パインスタンプ、アベノスタンプ、
福岡スタンプ、ツインズランド



【交通案内】

バス：紙屋町県庁前から広島バス(23番)、
または八丁堀から広島バス(26番)

→「南区役所前」下車

電車：JR 広島駅 5 番線のりばより

「比治山下經由広島港(宇品)行き」乗車

→「南区役所前」下車



主催：〈スタンプショウ=ヒロシマ〉実行委員会 公益財団法人 日本郵趣協会 中国・四国地方本部

後援：日本郵便株式会社中国支社 特定非営利活動法人 郵趣振興協会

お問い合わせ先：〈スタンプショウ=ヒロシマ〉実行委員会 TEL 082-299-7192 (横原)

国際切手展の開催動向

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

国際郵趣連盟および大陸別の郵趣連盟が公認する競争切手展（以下「国際切手展」と略す）の実行委員会は、2020年6月以降も、暫時延期をアナウンスしています。当協会ではホームページ（<http://kitte.com>）で速報を行っておりますが、以下でまとめてご案内します。

切手展の当初の名称	開催地	分類	当初 開催予定期間	現 開催予定期間
NZ 2020	ニュージーランド、オークランド	ア	2020/3/19-22	国際展は中止
LONDON 2020	英、ロンドン	世	2020/5/2-9	2022/2/19-26
WSC<INDONESIA2020>	インドネシア、ジャカルタ	世	2020/8/6-11	2022/8/4-9
TAIPEI 2020	台湾、台北	ア	2020/10/23-27	2022/5/6-10
MELBOURNE 2021	豪、メルボルン	ア	2021/2/11-14	2022/9/8-11
CAPE TOWN 2021	南ア、ケープタウン	世	2021/3/17-20	2022/11/8-12
IBRA 2021	独 エッセン	世	2021/5/6-9	2023/5/25-28
PHILANIPPON 2021	日、パシフィコ横浜	世	2021/8/25-30	アジア展に変更して開催
HUNFILEX 2022	ハンガリー ブダペスト	世	2022/3/31-4/3	2022/3/31-4/3
HELVETIA 2022	スイス、ルガーノ	世	2022/5/18-22	2022/5/18-22

■:2020年開催 ■:2021年開催 ■:2022年開催 ■:2023年開催

この3ヶ月間の世界の注目は世界切手展として PHILANIPPON 2021 が開催できるかでした。情報発信が正月から6月まで止まったままで参観者はもちろん出品者・ブース出展者の多くに心配されていましたが、6/1に、一部郵趣家・郵趣サークルに対して、同展覧会をアジア展に変更して開催する旨通知を行い、その時点で開催の可能性が限りなく100%に近づきました。

もちろんアジア展に変更されたことで、残念ながら欧米からの注目は失いましたが、それでも大規模な切手展が開催されたのは久々であり、今後英文での報道があれば、世界中の展覧会主催者に注目されると思います。

この次の国際展は、英国・ハンガリー・スイスで来年前半に開催されるヨーロッパの3つの切手展で、各実行委員会とも開催に向けて準備を進めており、情報発信も行われているため、現時点で中止は考えられていないものの、実際の開幕までまだまだ紆余曲折が予想されます。

アジア・オセアニア地域で開催される台湾（5月）・インドネシア（8月）の展覧会については、ホームページすら更新されていません。ただ、アジア展の情報発信は、概して欧米のそれに劣ることが多く、これは主催者の目線が参観者や出品者よりもスポンサーである国や郵政に向いている構造的な原因であり、情報発信がない＝展覧会が開催されない、という事でもないと思います。日本でのアジア展で同様のことをお感じになった方も多いと思いますが、それでも開催はされましたので。

一方、同地域で来年後半に開催されるオーストラリア（9月）・南アフリカ（11月）は開催に向けての情報発信をしています。一年後の開催であれば感染症の流行状況が改善している可能性もあるでしょうが、不確実性は現在とあまり変わらないとも言えます。

それ以外の展覧会は上の表に記載あるものに加えて、「UAE 2022 (FIP, 2022/1/19-23)」「THAILAND 2022 (FIP, 2022/10/-)」がアジア郵趣連盟のホームページには掲載されていますが、4ヶ月後の展覧会であるにも関わらず詳細は分かっていません。アジア郵趣連盟のホームページに掲載された国際展情報は過去にも多くの開催されない展覧会を掲載していたため、あくまで「そのような企画もある」という参考情報としてご覧いただければと思います。

Specialized World Stamp Championship Exhibition

HELVETIA 2022

日本コミッショナー 吉田 敬

HELVETIA 2022 は、2022 年 5 月 18-22 日に、FIP Partonage で開催される特別世界展 (specialized World Stamp Championship exhibition) です。同展覧会への出品希望者は、同展覧会の特別規則 (PDF 9 ページ) を熟読した上で、**国内出品締切日の 9/15** までにコミッショナーまで申請依頼書類を送信してください (電子メール yoshida@kitte.com)。なお、概要に関しては出品者以外も関心があると思いますので、便宜上必要部分の抜粋を日本語で掲載します。

HELVETIA 2022 特別規則 (全 17 条)

第 1 条 目的 省略

第 2 条 開催団体・場所・時期・規模 省略

第 3 条 適用される諸規則など 省略

第 4 条 出品資格

第 5 条で示される出品クラスのうち、class 2~6 については、スタンベックスジャパン、全日本切手展、JAPEX などの全国切手展で金銀賞以上を獲得している事が必要です。class 8 については同様に 70 点以上の獲得が必要です。class 7 については要件の追加はありません。class 1 及び非競争部門への出品をお考えの方は原文をご覧ください。

第 5 条 出品クラス

競争部門の出品クラスは 8 つに分かれています。

クラス 1 World Stamp Championship

クラス 2 伝統郵趣

クラス 3 郵便史

クラス 4 ポスタルステーションナリー

クラス 5 航空郵趣

クラス 6 テーマティク

クラス 7 郵趣文献

クラス 8 ワンフレーム

伝統郵趣と郵便史のクラスはさらに 1 (スイス) 2 (欧州) 3 (アメリカ) 4 (アジア、オセアニア、アフリカ) に細分されています。

テーマティクはさらに A (Nature) B (Culture) C (Technology) に細分類されています。

郵趣文献にも細分類があります。原文をご覧ください。

第 6 条 展示物の審査および賞について

当然ですが、競争出品については、国際郵趣連盟の審査員により審査されます。審査にあたり、一般規則および本展覧会の特別規則に示された内容が適用されます。事前に国際郵趣連盟の役員会の承認がない限りは、これらのルールを逸脱する審査方法は認められません。

第 7 条 フレームサイズと割り当て

1 項 フレームサイズは 97cm*120cm で、どのフレームも 4 列 4 段の合計 16 リーフを展示できます。この場合のリーフサイズは保護ラップ込みで最大で 23cm*30cm です。レターサイズ (216*280mm) や A4 (210*297mm) がこれらには含まれます。これよりも大きなリーフの展示にあたっては、他のリーフと重なっても良いのであれば展示ができますが、実行委員会はその結果、リーフやマテリアルが傷いても責任はとりません。2 項以降は省略します。

第 8 条 出品申し込みと出品許諾について

1 項 出品申し込みを行う者は、一作品につき一枚の出品申込用紙を、各国コミッショナーを通じて提出すること

2 項 実行委員会は出品の可否について決定する。ただし、その理由は開示しない。

3、4、7、9 項 省略

5 項 出品可否の連絡は、2021.11.15 までに各国コミッショナーに通知予定である。

項 出品料はコミッショナーを通じて、2022.1.15 までに実行委員会に納めること。

8 項 展示作品のタイトル変更の場合の処理について

第 9 条 出品料

1 項 非競争部門は無料

2 項 競争部門の出品料は、class 7,8 を除き、フレームあたり 80 フラン。

3、4 項 class 7, 8 は一作品 100 ドル。

*なお、当項目は実行委員会への支払金額のみであり、コミッショナーによる運搬を依頼する場合は別途費用が発生します。

第 10 条 展示物の取り扱い

1 項 遅延もしくは不適格展示物については展示されず出品料も返却しない

2 項 リーフには保護ラップをかけ、右下にナンバリングすること

3 項 実行委員会は展示作品の受取証を発行すること

4 項 実行委員会は作品を入れる封筒と内容物記載フォームを事前に送付すること

5 項 出品物は、1 フレームごとに上記封筒一枚にいでて提出すること等

6 項 コミッショナー以外による運搬は出品者本人であっても、認められない

7 項 文献出品について、1 点ずつ送付すること。返却はしない。2022/1/31 必着で提出すること。

第 11 条 展示物の展示および撤去 省略

第 12 条 税関規則 省略

第 13 条 セキュリティについて

1 項 実行委員会が会期中に相応のセキュリティ対策を講じる旨が記載されていますが、それ以外の期間は責任を追わない旨が記載されています。

2 項 また、そもそもすべての期間において、出品物への保険については出品者個人の責任と負担においてかけるものと明記されています。(日本コミッショナーも一切の責任を負いません。)

第 14 条 エキスパート・グループ 省略

第 15 条 実行委員会の権利

すべての出品者は当特別規則を受け入れなければならない旨などが記載されています。以下省略。

第 16 条 当規則の承認について

出品申し込み書にサインして提出することで、当特別規則を受け入れたことになる旨が記載されています。以下省略。

第 17 条 省略

(以上)

STAMPEX JAPAN 2022

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI



全国切手展 スタンペックスジャパン 3年連続の開催が決定

競争切手展は、欧州のフィラテリーから生まれ、世界の様々な国籍・人種のフィラテリストが参加する国際郵趣連盟(以下、F I P)の規範作りの下、永年に渡り進化し続けてきたフィラテリーの文化であり、審査競技です。

全国切手展「スタンペックスジャパン2022」は、この審査競技を適切に運用する競争切手展で、審査員の人選はじめ、我が国で開催される競争切手展の中で、F I Pの審査基準に最も準拠する度合いが高く、審査結果が世界的に通用する競争切手展です。また、出品者への適切なフィードバックを通じてコレクションの発展に寄与することを目指すことも、本展覧会の特徴の一つです。

(以上、スタンペックスジャパン2022のIREXより)

国内展で高評価を得た作品を国際切手展に出品し、思いがけない結果に落胆された経験をお持ちの方もおられるのではないのでしょうか？出品されるのであればそのような失望を防ぐ意味でも世界切手展基準の作品を準備したいものです。

全国切手展「スタンペックスジャパン 2022」では、審査及びクリティークを通じて、世界的に通用する作品を作る方法をご案内します。なお、綿密なクリティークを運営するため、展示作品は90フレーム程度に限定させていただいております。昨年よりも1割ほど少ない総量になりますので、国際展本番同様に、出品申込時点からご出品作品のアピールをお願いいたします。また、クリティークに参加しない場合は、本展覧会のメリットは半減します。スケジュールを今からご調整ください。



郵政博物館
POSTAL MUSEUM JAPAN

特定非営利活動法人

郵趣振興協会
Society for
Promoting Philately

STAMPEX JAPAN 2022

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

展覧会の概要

名称：スタンペックスジャパン2022

会期：2022年3月26日(土)~28日(月) [3日間]

会場：郵政博物館 企画展示室（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：90 フレーム

主催：（特非）郵趣振興協会 /（公財）通信文化協会（郵政博物館）

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、切手市場、

（一社）全日本郵趣連合、（公財）日本郵趣協会（申請中）

開催日時

3月26日(土) 10:30-16:30

3月27日(日) 10:30-16:30

3月28日(月) 10:30-16:30

*最終入場時刻：閉場時刻の30分前

主要スケジュール(予定)

(2021年)

12月21日 出品申込締切

12月27日 展示作品選定結果を出品申込者に郵送

12月27日 事前審査の開始

(2022年)

1月 1日 展示作品選定結果の発表(HP等)

2月 1日 出品料の振込期限

2月10日 搬入・搬出案内の送付(出品封筒・入場券の送付)

3月19日 作品搬入予定日

3月23日 設営開始(24日まで)

3月25日 審査

3月26日 結果発表

3月27日 クリティーク(午前中)

3月29日 撤去・作品返却



郵政博物館
POSTAL MUSEUM JAPAN

特定非営利活動法人

郵趣振興協会
Society for
Promoting Philately



主催者・審査委員長からのご挨拶

郵政博物館長 藤本 栄助

(公益財団法人 通信文化協会)

「STAMPEX JAPAN 2022」が開催となります。本年、新型コロナウイルス感染流行の中、新たな展示会のかたちを模索しつつ、「STAMPEX JAPAN2021」を開催いたしました。

開催当日までは、郵政博物館の企画展示室では狭すぎて物足りないのではないかと考えていましたが、ふたを開けてみれば、ちょうどいいフレーム数で見やすいという意見を数多くいただき、安心した次第でございます。

現在、切手展や展示会が開催されるようになりましたが、従前のような形のイベントと共に華々しく開催することは難しく、どこの団体も手探り状態での運営を余儀なくされています。今後はコロナ禍を見据えた切手展の開催を求められるのかもしれませんが。

「STAMPEX JAPAN」が未永く皆様に愛される切手展になるよう努力していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



スタンベックスジャパン2022 審査委員長 佐藤 浩一

「PHILANIPPON 2021」の開催決定を契機に、「スタンベックスジャパン」は国内収集家の出品作品を国際的に通用するよう啓蒙することを目的に企画されました。

審査は主として FIP 登録審査員によるものとし、FIP 基準で審査される全国切手展として位置づけられており、クリティークを通して詳細なアドバイスを出品者に還元することとしています。

今年の開催は新型コロナウイルス感染拡大の影響のなかで十分な感染予防対策の基で開催され、「PHILANIPPON 2021」への出品作品の準備に役立つことができたものと考えております。来年まで新型コロナウイルス感染の影響が残るかは不明ですが、いずれにしても十分に感染予防の対策を取りながら「スタンベックスジャパン2022」を開催できるものと期待しています。

来年にはこれまでに延期されていた国際展が数多く開催される予定となっております。「PHILANIPPON 2021」の結果に満足できた方は更に上位のメダルを目指し、改善の余地ありとされた方は作品を改良され積極的に国際切手展に出品されるよう、「スタンベックスジャパン2022」への出品を有効に利用していただき、出品作品の最終調整を行う一助となるようお願いしております。

「スタンベックスジャパン」審査チームの目標は、出品作品が国際展でも同レベルの評価を得られるよう指導させていただくことですので、是非積極的に「スタンベックスジャパン2022」にご出品ください。



スタンペックスジャパン2022 実行委員長 斎 享

コロナ過において PHILANIPPON2021 は関係者方々の並々らぬ努力のおかげで、アジア国際展として開催され、成功裏に閉会いたしました。

ここ数年、郵趣の世界も変化しております。郵趣品を入手するのは、以前は国内オークション誌が主体でしたが、パソコンの普及によりヤフーオークションやオンラインオークションが定着しました。海外の業者からも、Philasearch や ebay などを通じて、切手が入手しやすくなりました。

とはいえ、当然のことながら入手品だよりでは十分ではありません。国際切手展への出品には、展示技術が必要です。しかし、どのようにすべきか悩み、出品を尻込みする方も多いのではないのでしょうか。

スタンペックスジャパン 2022 は、今年も郵政博物館で開催されます。国際展審査員による対話、講評があり、納得するまで指導を受けることができます。国際展でレベルアップするための早道となり得る切手展ですので、参加する意義は大きいと思います。

私も MACAO 2018、CHINA2019 を通じて国際展に初めて参加しましたが、世界の収集家が一堂に集まり、これまでに経験したことのない世界が広がり、特別な時間を過ごすことができました。美味しい食事やショーを楽しむ表彰式では、仲間ができ、世界が平和になるように感じられ、素晴らしい切手展でした。

若い収集家や初めて出品する方には、国際展でより良い賞を取るための登竜門としてスタンペックスジャパンをお考えいただきたいと思います。是非この機会を利用し、国際展へ参加、参観することにより、コレクションの質を上げていただきたいと思います。



審査員 Jury



審査委員長 佐藤 浩一
Mr. SATO Koichi
FIP Jury, Jury President



審査員 設楽 光弘
Mr. SHITARA Mitsuhiro
FIP Jury



審査員 山崎 文雄
Mr. YAMASAKI Fumio
FIP Jury



審査員 吉田 敬
Mr. YOSHIDA Takashi

なお、本展覧会では、その趣旨を鑑み、クリティークについては FIP Jury より行います。



出品者への適切なフィードバックを通じて、コレクションの発展に寄与する 全国切手展「スタンベックスジャパン2022」作品募集要綱

(特非) 郵趣振興協会 / (公財) 通信文化協会 (郵政博物館)

競争切手展は、欧州のフィラテリーから生まれ、世界の様々な国籍・人種のフィラテリストが参加する国際郵趣連盟(以下、F I P)の規範作りの下、永年に渡り進化し続けてきたフィラテリーの文化であり、審査競技です。

全国切手展「スタンベックスジャパン2022(以下、本展覧会)」は、この審査競技を適切に運用する競争切手展で、審査員の人選はじめ、我が国で開催される競争切手展の中で、F I Pの審査基準に最も準拠する度合いが高く、審査結果が世界的に通用する競争切手展です。また、出品者への適切なフィードバックを通じてコレクションの発展に寄与することを目指すことも、本展覧会の特徴の一つです。

つきましては、以下の要領により、皆様からの競争出品を募集いたしますので、ふるってご応募ください。

1. 実施

会期: 2022年3月26日(土)～28日(月) (3日間)
会場: 郵政博物館(東京都墨田区・東京スカイツリータウン内)
規模: 90フレーム
主催: (特非) 郵趣振興協会 / (公財) 通信文化協会 (郵政博物館)
協賛: スタンベディアプロジェクト
後援: カルトールセキュリティプリンティング社、切手市場、(一社) 全日本郵趣連合、
(公財) 日本郵趣協会(いずれも申請中)

2. 審査体制

審査は、F I Pの定める国際切手展の審査基準(以下 F I Pルール*1)に準拠して行い、各出品作品に得点を与えます。これを実現する為に、主催者は、世界的に通用する F I Pルールの理解と運用に優れた人物を審査委員長として招聘することに注力する事とします。また、審査委員長が決定した後は、審査業務ならびに審査員の選任は後述する審査委員会に一任し、審査業務に関する、審査委員会の独立を妨げないものとします。

審査委員長は、第4項の部門の審査資格を持つ F I P登録審査員を中心に、審査員の人選を行い、審査委員会を組織します。審査の方式、賞の決定については、現在の世界での競争切手展の潮流に従ったものとなる前提で、審査委員長がその運用を決定します。

なお、現在世界で開催されている国際切手展の出品資格の1つは、『F I Pルールに準拠して開催される全国切手展で75点以上を獲得すること』です。本展覧会で75点以上を獲得した作品は、それに該当することとなり、国際切手展への出品資格を獲得します

*1 本展においては、以下の規則になります。

GREX, SREV 伝統郵趣, SREV 郵便史, SREV ステーションナリー

3. 授賞の概要

審査得点に応じて、それぞれ、大金(90点以上)、金(85点以上)、大金銀(80点以上)、金銀(75点以上)、大銀(70点以上)、銀(65点以上)、銀銅(60点以上)、銅(55点以上)の各賞を授与します。

また、大金賞受賞作品の内の一作品にグランプリを授与することがある他、特に優秀な出品作品には特別賞を授与することがあります。

4. 出品部門

- 第1部門 伝統郵趣
- 第2部門 郵便史
- 第3部門 ステーションナリー

5. フレームの割当数と出品料およびリーフサイズ

- ・フレームの割当数: 5または8フレームです。
- ・出品料は、1フレームあたり3,000円です。
- ・(特非) 郵趣振興協会の2021年度賛助会員には1フレームあたり1,700円の特別出品料が適用されます。
- ・第7項で後述する展示作品の決定後、出品料支払いの詳細を連絡します。なお、支払期限は2月1日です。
- ・リーフサイズは自由ですが、切手コレクション展示パネルの1フレームの大きさは横98cm×縦123cmですので、その範囲におさまるように作品を作成してください。

6. 出品規約と出品申込

出品申込に際しては、所定の出品申込書に必要事項を記載の上、タイトルリーフを含む2リーフをカラーコピーもしくはメール添付画像と共に、本展覧会の出品申込書の送付先にお送りください。

出品申込書の送付先 (各種お問合せ先)

- ・電子メール info@kitte.com
- ・ファクス 03-6700-1585
- ・郵便 102-0083 海事ビル内郵便局留置
郵趣振興協会

なお出品申込書に記載の通り、出品申込書の提出を以て、本作品募集要項の記載内容に従うことを承諾したものと見なします。

出品申込の受付期間は2021年11月1日(月)～2021年12月21日(火)です。

7. 展示作品の選定および選定結果の通知

本展覧会の規模は90フレームと小さい為、出品申込された作品を、全て展示することは困難な可能性が高いと思われます。この為、実行委員会では、出品申込の受付期間終了後に、出品申込時に提出された書類等を下し、展示作品の選定を行います。

展示作品の選定結果は、2022年1月1日に当協会のホームページで発表しますが、それに先立ち、全ての出品申込者に郵便等で結果をご連絡します。

なお、選定の結果展示いただけない作品に対する理由開示は、一切行いません。また、出品申込が受理された場合の展示キャンセルは、原則として受け付けません。

定期購読されている方には、機関紙と共に、「スタンベックスジャパン2022」出品用紙を同梱してまいります。作品募集要綱をご覧ください。

8. 展示作品の搬入と展示作業および展示作品のセキュリティ

- ・第7項で展示が認められた出品申込者には、本展覧会専用の出品物提出用の封筒(以下、出品封筒)を送付します。出品物は、この封筒に入れて提出してください。
- ・出品物に取り外し可能な保護カバーをつけ、各リーフの表面右下に展示順の番号を記してください。
- ・作品の搬入は、郵送と郵政博物館への持参で受け付けます。詳細は出品封筒の送付時にご案内申し上げますが、現時点では、以下の通り予定しております。

郵送による作品の送付(予定)

2022年3月19日(土) 午前中を配達指定日時とし
日本郵便のゆうパックにてお送りください

持参による作品の搬入(予定)

2022年3月19日(土) 午前中にご持参ください

送付先・持参先

131-8139 墨田区押上1-1-2
東京スカイツリータウン・ソラマチ9階
郵政博物館 スタンパックス係

- ・会期中の作品のセキュリティについて相応の対策を講じますが、作品の輸送時、保管時、会期中の展示・撤去の際のマテリアルの紛失・汚損などについては責任を負いません。出品物の保険については出品者個人の責任と負担において付保するものとします。
- ・物理的に切手コレクション展示パネルに格納できない作品(厚すぎるリーフ含めて)やFIPルール上禁止されている黒色ないしは濃色のリーフが含まれている作品は、その一部もしくは全部の展示を中止します。なお、これ以外にも主催者は理由を開示することなく、出品作品の展示を拒否する等の権限を有しますが、展示されなかった場合も出品料は返却されません。
- ・グレイを過ぎて到着した作品は審査の対象外となります。作品未着の場合、出品料は返金されません。

9. 作品の返却

作品は、3月29日夕方に返却します。予め引取を希望された方以外は、実行委員会指定の梱包で着払いセキュリティゆうパックにて出品者指定の郵送先に返送します。搬入時の出品用封筒以外の個人的な梱包等は、主催者の判断により廃棄することがあります。

10. 審査結果の発表と授賞式

展示作品は、審査委員会が会期前に審査を行った上で、開場までに賞を各作品の第1フレーム左上に表示致します。

枝点を含めた審査結果は、同会場で配布すると共に、ホームページで発表します。

授賞式は、現時点では予定しておりません。

11. クリエーティブ

クリエイティブは『審査員との対話』と和訳されることもあります。出品者が本展覧会に競争出品した作品に関し、直接、審査員から個別に今後の改善点等について助言を受ける機会です。

『出品者への適切なフィードバックを通じ、コレクションの発展に寄与することを目指す本展覧会では、このクリエイティブを最も重要な行事の一つと考えています。

クリエイティブは会期2日目の開場時刻30分後に開始することが現時点で決定しています。会場へお越しいただけない出品者に対しては、ビデオ会議サービスを通じたクリエイティブも提供予定ですので、全ての出品者に、必ずご参加いただきたいと考えています。

クリエイティブでは『世界で開催されるFIP登録審査員により審査される国際切手展で上位の賞を獲得できる為に、どのような点を改善すれば良いか』について、審査委員会より、国際展の潮流を踏まえてお話ししていただきます。

この点を踏まえた上での質問・相談に対しては審査員は、原則として、時間を限定せずに対応いたしますので、疑問点などは予め準備して臨むことをおすすめいたします。

クリエイティブは、出品者以外の参観も許可しますが審査員が認める場合を除き私語を禁止します。また、主催者以外によるクリエイティブの動画撮影は禁止します。

なお、クリエイティブは、原則として会場で対面を実施を計画しておりますが、感染症の流行状況に応じて、ビデオ会議サービスや書面等に代替することがあります事をご了承ください。

12. 出品者の個人情報の取扱、作品の撮影・掲載

出品者の個人情報、法令により開示を求められた場合を除き、出品者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。ただし、出品目録ならびに受賞リスト等には、審査結果に加えて、氏名・住所(都道府県名まで)を掲載しますので、ご了承ください。

世界の競争切手展において、フラッシュを使用しない作品の撮影は、参観者に許されており、本展覧会もその運用を踏襲します。また、出品受付時にご提出いただいたタイトルリーフを含むページのコピーは、展覧会のPRを目的として、本展覧会の目録等に掲載すると共に、ホームページを通じて、主催者以外の方がダウンロードしご利用いただけるようにします。

会期中には、ご来場いただけない方を対象に、オンライン会議サービスや動画配信サービスを利用した、作品紹介を行います。この用途に供する為、展示作品は全ページを撮影・スキャンします。PDFダウンロードなどのサービスは提供しませんが、オンライン会議サービスでは全ページが紹介されますので、ご了解ください。

13. COVID-19の流行に伴い開催を中止した場合の対応

COVID-19の流行状況によっては、主催者は、本展覧会の一部ないし全部について、中止の決定を行うことがあります。

展覧会の開催を中止した場合の出品料の取り扱いについては下記の通りとします。(1)FIP登録審査員による審査並びに書面等によるクリエイティブまでを主催者が提供でき、出品者がそれを希望する場合:20%返金。(2)前二項を主催者が提供できない場合、もしくはそれを希望しない出品者への対応:100%返金

Q&A よくある質問

Q1 スタンパックスジャパンへの出品物の記述言語は英語でなければダメですか?

A1 日本語だけで記述して頂いた作品もご出品を歓迎します。

Q2 スタンパックスジャパンに出品し、初めて金銀賞以上の審査結果を得た場合、国際展への出品資格を得られますか?

A2 はい。スタンパックスジャパンは全国切手展ですので金銀賞以上の作品は資格を得ます。

Q3 スタンパックスジャパン2021の開催時に、国際展向けのリーフ作りに関してWEBセミナーを行ったと伺いました。今年もセミナーは予定していますか?

A3 前回行ったWEBセミナーの内、普遍性のあるプログラムについては、近日スタンパックスジャパンへのご出品をお考えの方にご提供予定です。詳細はホームページでご案内申し上げます。

2021 年度 第2回 郵博特別切手コレクション展

第8回ヨーロッパ切手展

ヨーロッパ切手展実行委員会

ヨーロッパ切手展は、2013年に始まった、ヨーロッパの切手を展示する無競争公募切手展で、毎年一つその年にふさわしいテーマを決めています。

第8回ヨーロッパ切手展は、当初、2020年12月12-13日に開催予定でしたが、COVID-19の流行を鑑みて、2021年に延期されたものです。

延期に伴い、テーマ選定を改めて行い、日独国交成立160周年を記念し「ドイツ」に決定しました。ドイツに関わる各種郵便作品を展示しておりますので、是非ご覧ください。

第8回ヨーロッパ切手展

郵政博物館における展示期間：2021-9-25（土）- 2021-9-26（日）

クラウド展示の開催期間：2021-9-25（土）- 2021-10-24（日）

展示作品（予定）

作品名称	F	作品オーナー
Notopfer Berlin 1948-1956	1	虎頭 雄彦
Germany Definitives 1941-1942	3	木戸 裕介
Soviet zone 1945-1949	3	木戸 裕介
Germany under Allied occupation 1946-1948	3	木戸 裕介
Germany United states and British zone 1945-1948	3	木戸 裕介
Kingdom of PRUSSIA 1850-1867	8	吉田 敬
Thurn & Taxis 1852-1866	5	吉田 敬
Small OX stamps issued in Grand Duchy of MECKLENBURG-SCHWERIN	1	吉田 敬
Bavaria 1849-1870	3	吉田 敬
独占領チャネル諸島の切手	1	吉田 敬

展示作品は現時点の予定であり変更の可能性があります。展示は博物館もしくはクラウドで行います。



2021 年度 第3回 郵博特別切手コレクション展

第4回 南方占領地のフィラテリー展

南方占領地切手コレクターズクラブ

南方占領地のフィラテリー展は、2018年に始まった年一度の専門切手展（非競争）で、今年で4年目を迎えます。本年は、無競争公募切手展として開催し、会員に限定せず、南方切手収集家であればどなたでも出品できる展覧会としました。クラウド展示も行いますので、どうぞご参観ください。

第4回 南方占領地のフィラテリー展

郵政博物館における展示期間：2021-11-20（土）- 2021-11-21（日）

クラウド展示の開催期間：2021-11-20（土）- 2021-12-23（木）

展示作品（予定）

作品名称	作品オーナー
フィリピン	若園 泰三
ゲリラ	鍋木 顕
加刷バライティ	比留間 晃則
自由インド仮政府	田中 雅史
南方占領地における郵便関連物	三木 和也
ビルマ	谷口 詔彦
ビルマ	三宅 広和
ビルマ農耕	木戸 裕介
インドネシアボロブドゥール	田尾 美能留
マライの郵便印	上遠野 義久
Postal Money Order of Sumatra under Japanese Occupation	守川 環

展示作品は現時点の予定であり変更の可能性があります。展示は博物館もしくはクラウドで行います。



2021年度 第3回 郵博特別切手コレクション展

第4回 南方占領地のフィラテリー展

2021
11月20日土 → **12月23日木**

郵政博物館における展示期間：11/20・21（土日）

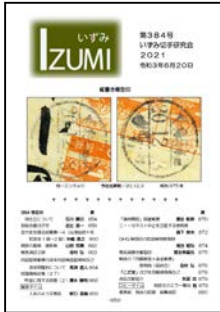
PHILATELIC EXHIBITION OF POSTAL MUSEUM JAPAN

サブスク購読できる

郵趣雑誌の発行者等を応援するページ

2021年6月～2021年8月

IZUMI (発行：いずみ切手研究会)



384号を発行(6/20)別仕立について(石川 勝己)加貼五厘はがき(近辻 喜一)近代史を語る記念絵葉書-4(矢嶋 基之)朝鮮の離島 絶影島(山田 克興)報告消印2題(志村 弘)内容証明郵便の謄本内容検査証明及び謄本閲覧料について(馬淵 直人)貯金に関する標語(2)(清水 勝利)「満洲開拓」関連郵便(濱谷 彰彦)二・一ゼネスト中止を立証する使用例(森下 幹夫)GHQ 検閲印の放送閲覧使用例(尾台 昭弘)ほか

「いずみ切手研究会」例会案内	
例会開催日	原則として第3日曜日 午前9時-12時
会場	練馬区立勤労福祉会館(大泉学園駅近)
向こう三ヶ月の例会日	9/19, 10/17, 11/21, 12/19
例会参加資格	会員限定(ダウンロード権利のみでは参加できません)

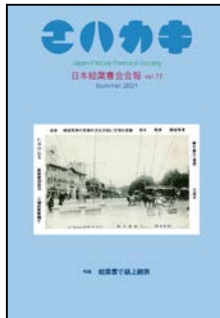
最近の情報 (発行：小判振舞処)



202号を発行(6/15)長崎開港地間便エンタイヤに疑問(佐々木 義郎)二重丸の中点(2)「KG」(近辻 喜一)外国郵便の書留について(2)(城野 隆三)長門蔵小田村渡場局の丸一印(岡藤 政人)美作桑村郵便局の毎日 日付印取帳(水口 公秀)サンフランシスコの思い出-18(長谷川 純)ほか

203号を発行(8/15)残念なエンタイヤ(記番印子45号最後期使用)(城野 隆三)(報告)新小判50銭に「点」を見つけました(原 和生)オマケが凄かった東京支局拇太(平尾 勉)、二重丸の中点(3)「KB2」(近辻 喜一)(報告)静岡 KG 安部型最新使用例更新(長田 伊玖雄)丸一印のなれの果て?(水口 公秀)ほか

エハカキ (発行：日本絵葉書会)



77号を発行(6/25)特集 絵葉書で路上観察(林 丈二)絵葉書をより楽しむために(十三)(高尾 均)私の小早川秋聲(十)(松竹 京子)石橋(五)(林 丈二)ほか

郵便仙台（発行：仙台郵便会）



248号を発行(6/13)鉄郵印が押された菊4銭貼高山外国人避暑地の絵葉書(横山 裕三)切手に登場した歴史上の女たち(15)(中島 斉)詩と音楽(15)(佐々木 克夫)第1次国立公園切手(21)(池田 駿介)宮城県の記番印ー4 コー四号〜一九号鈴木紀男氏のコレクションから(小関 幸生)二つ折りはがき(6)脇付きはがき その3(斎 享)ほか

249号を発行(8/8)旧海軍の松島航空基地からの葉書(横山 裕三)切手に登場した歴史上の女たち(16)(中島 斉)詩と音楽(16)(佐々木 克夫)グリーンランド切手の話題(その1)(小野寺 剛)第1次国立公園切手(22)(池田 駿介)宮城県の記番印ー5 コニ〇号〜二二号 鈴木紀男氏のコレクションから(小関 幸生)二つ折りはがき(7)脇付きはがき その4(斎 享)ほか

「仙台郵便会」例会案内	
例会開催日時	COVID-19の影響もあり、会場や時間が定まりません。参加希望者は torusai2@yahoo.co.jp までお問い合わせください。
会場	
向こう三ヶ月の例会日	
例会参加資格	会員限定(ダウンロード会員も参加できます)

切手の友会報（発行：切手の友）



6月号を発行(6/13)イトーヨーカドー 100周年記念切手(飯野 明)貯金の絵文字入り局名印の収集(17)(竹之内 康雄)郵便会「切手の友」と「切手の友」会報の疑問(友田 淳治)偽物と本物：飯野明さんによる詳、消印の都道府県名の表示 ほか

7月号を発行(7/11)貯金の絵文字入り局名印の収集(18)(竹之内 康雄)郵便局の駐車券(飯野 明)全日本切手展 2021(友田 淳治)米国の友人から届いたもの(1)(友田 淳治)ほか

8月号を発行(8/8)切手の友 創立 75周年を祝す(竹之内 康雄)切手の友創立 75周年を迎えて(会員の所感)切手の友 75周年に寄せて(祝辞)東京オリンピック 2020+1with COVID-19 開会の日が最終日(飯野 明)定額小為替証書及び受領証書(1)(竹之内 康雄)ほか



「切手の友」より創立
75周年記念カバー
を頂戴しました

予定されている催事は、季節・時期・地域を問わず、全て急遽中止・変更される可能性があります。ご参加にあたっては、各主催者が提供する一次情報（ホームページや代表電話）を確認の上、ご参加ください。

私の発見・私の報告

昭和 40 年の 24 時間型楕型印にシャチハタ印？

行徳 国宏

昭和 40 年から一部の局で使用が開始された 24 時間型 楕型日付印について、過去には各局別の初期使用データが発表されている。発表された局名から使用地域が推定されているが、札幌郵政局管内では、根室、北見、日高、後志、北海道を冠にした使用局が発表されている。

そのような中、今回報告するのは「十勝・美生」であるが、C 欄時刻表示の 12-18 の数活字がシャチハタ製のように見える。

24 時間型楕型日付印についてシャチハタ製が採用されたかは発表されていないようだが、C 欄時刻表示の数活字から見てみると、局名活字もシャチハタ製ではないかと疑わしく思えてくる。

同時期の札幌郵政局管内の他局の使用例・使用済をお持ちの方は一度ご確認いただけないだろうか。印類へのシャチハタ製採用についてもご意見をいただければ幸いである。



十勝・美生 40.11.28.12-18

私の発見・私の報告

都内速達 丸速センサス update

本誌第 6, 7, 11, 19, 20, 22, 30 号で掲載した丸速センサス (28 点) に、追加の報告をスタンペディアオークション株式会社より頂きました。(丸速 -29)

「丸速」印は、昭和 24 年 2 月 16 日から 7 月 31 日までの半年間だけ、東京都内で取扱われた「都内速達郵便」で使用された印影です。「速」の文字を縦方向に長く楕円形で囲った形がその特徴で、行徳宏氏がこの印の押捺された速達郵便物が「都内速達郵便」であることを、郵政総合博物館資料室所蔵の「通信文化新報」(24 年 3 月 2 日号)の記事から突き止めました。残存数が少ないことからセンサスを作成しております。

今回のご報告で「丸速センサス」掲載件数は 29 件となりました。



丸速 -29
スタンペディアオーク
ション第 19 回セール
762, 20221-10-2)



連載 クラシック切手 (14) レユニオン

1852 The First Issue 30 Centimes

外国切手研究会

吉田 敬

1852. 15 C, 30 C の2額面を発行、仏領における最初の切手

フランスの一番切手発行は、英国に遅れること9年の1849年でした。海外領土・植民地での切手発行は更にそれよりも遅れますが、その中で最も早く独自の切手を発行したのが、アフリカ大陸東のインド洋に浮かぶ島レユニオンでした。

さほど日々のニュースもない当時、150kmほど離れたモーリシャスで1847年に切手が発行された情報も入ったことでしょう。それが、さほど郵便需要が強いとも思えないこの島で切手をこんなに早くに発行した要因の一つと考えています。ちなみに、需要が弱かったこと、また1859年に仏植民地共通切手が発売されたことから、二番シリーズの発行(1885年)まで30年を要しています。

現在のレユニオンは、フランスの海外県であり、独自切手を発行せず、フランス切手を使用しています。従って過去発売されたレユニオン切手は手頃なデッドカントリーの切手として、コレクションが売りに出ているのを時々目にします。普通・記念・寄付金付・航空・不足料・小包切手合わせて585種類というのは手頃なボリュームで、何を隠そう2007年に切手収集を再開した折に、一番最初に私がファインスタンプで購入したコレクションもレユニオンの未使用完揃いセット(但し、一番切手2種を除く)でした。

その時以来、気になっていた一番切手2種の入手が叶ったのはその5年後くらいだったのではないかと思います。その時に、両額面とも印刷版は4面で構成され、肉眼でもわかる特徴がそれぞれにあることを知りました。

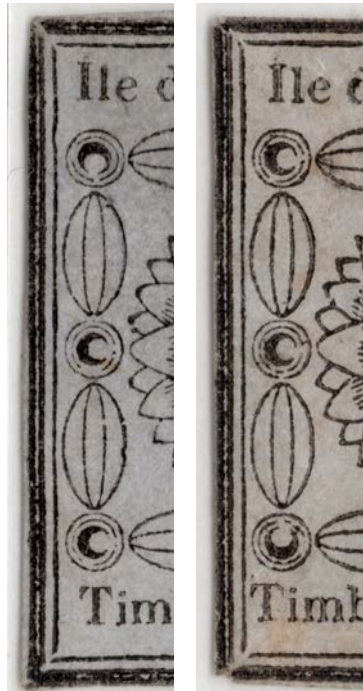
例えば、15 C は右図の様な切手ですが、私は4つのタイプのうち2つを所有しており、その拡大図を掲載します。



紋様の中に見える濃い部分の空白の方向や、文字列の配置場所などが全く違うのがお分かりいただけると思います。

思い入れのある切手だけに4タイプを揃えて専門的に集めたいと考えたこともあるのですが、この15 C 未使用切手の様に、マージンが狭い切手が未済問わずほとんどです。唯一所有している30 C の未使用は巨大マージンで気に入っている切手の一つですが、このレベルでタイプ集めをすることは、存在しないタイプがあるので、不可能です。

郵便料金は、島内15 C、フランス・レユニオン間は30 C 追加という体系ですが、共に需要が少なく、単片以上に、カバーの入手には苦労します。



15C type II と type IV



30C type III



15C type II + 30C type I, St Andre, 1852/10/16 to Nantes / France, 1/16

旧中国紅印花郵票収集入門

壹分ラージボックスのポジション

猫山 ねこ

いきなり私事で恐縮ですが、その評価が高騰し知人コレクターからは「今から収集を始めても周回遅れ」と云われながらも旧中国大龍、紅印花等の収集を始めて2年余りが過ぎようとしています。

以前はゼネラル収集を標榜しながらも旧中国紅印花などは高嶺の花、どれも手に出来ぬ品ばかりと思いこみ、カタログのページすらも開きませんでした。海外より購入した雑然としたロットの中から偶然にも紅印花郵票数枚を入手することに成功しました。

これをきっかけにカタログを調べてみると一言に紅印花と云っても壹分、貳分と云った低額面の券種もあり、確かに値は張るもののまったく手に届かぬものばかりでもないことを知りました。更に入手した壹分郵票にラージボックス（大口）と云う定常変種が含まれていることも判明しました。

フリーマーケットで紅印花や大龍の専門書や手引書を譲って戴く機会もあって、拙いながらもルーペを使って専門書と現物の脱み合いをしながら変種やタイプ違いの確定のために時間を費やすことも多くなりました。元来、ゼネラルと云っても戦後のカラフルな未使用切手が好きでこの方面の種類、数量を増やすことを重点目標にしてきたため、ルーペなど自分の収集人生では今まで最も必要ない郵趣用品のうちのひとつだったのですが、今ではこれを利用して大龍のクリシェや紅印花切手のタイプ違いや変種までもを捜そうと云うのですから、大した変わりようです。ある意味全く向こう見ずな話でもあります。

只、時間の経過と共にボツリ、ボツリと僅かずつですが数が集まってくると紅印花収集では各切手のポジションが気になってきました。私の場合上述の通り、当初からゼネラルコレクションの一部としてこの紅印花を捉えており、専門コレクションに仕上げ、使用例などにも手を広げ果ては切手展出品などと云う大それた目標は持っていません。

只、そのようなレベルであっても同じ券種でもポジション違いで収集できれば楽しいものです。中でも紅印花の大字壹分郵票は紅印花郵票の一丁目一番地の切手とも言える存在であり、長期目標としてリコンストラクションに挑戦し始めています。当初、ビギナーズラックで入手したラージボックス（大口）ですが、少し調べてみるとこれにも3種あって、それぞれ微妙に違いがあります。

そもそも紅印花郵票は100面シートの不発行印紙に額面を加刷した切手ですが、これは加刷文字を5×5の25枚の原版をひと組みとして、それを4面印刷して製造したものです（小字貳分のみ10×2の20枚の版を5面印刷した）。

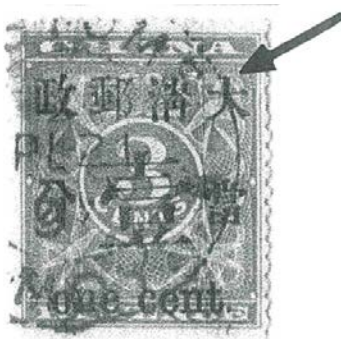
ひとつつつの印面にはそれぞれ僅かな違いがあり、上述の通りリコンストラクションができ、大字壹分以外でも各券種、1番から25番までの「ポジション」が割振られている訳ですが、大字壹分について云えば25面中、大きな特徴であるラージボックス3点のポジション番号は6、15、16番です。

次ページにその3枚を並べてみますが、違いが分かるでしょうか。比較的良く判る見分け方が「大清郵政」の「大」の字の違いで、ポジション6は第二画の「左はらい」がやや細く短いです。一方ポジション15の特徴はこれも「大」の字の第二画ですが、頂点部分が少し右に欠けていますが、線の太さはそこから第一画に交差するところまでほぼ同じです。一方、そこから先、「左はらい」の部分はポジション6に比べしっかりしていて僅かに長いのが特徴です。最後にポジション16ですがこの「大」の字の第二画「左はらい」は頂点がやや左に欠け、また第一画に交差するまでにやや線画が細くなります。只、「はらい」の長さは長く、そこはポジション15と大きな変化はありません。



(図1) 大字壹分ポジション 6

「大清郵政」の「大」の字、第二画の左はらいがやや短い。ラージボックス（大口）のネーミングは文字通り壹の字の豆の部分の「口」が他のポジションより少し縦幅が広いことに由来する。別図のポジション 4 や同 7 の「口」部分と比較すると分かり易い



(図2) 大字壹分ポジション 15

他のラージボックスとの違いは「大清郵政」の「大」の字、第二画に注目

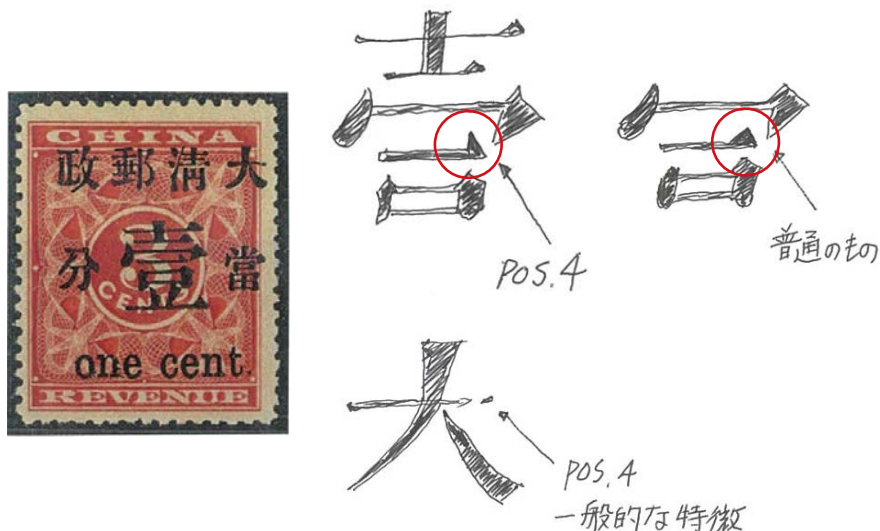


(図3) 大字壹分ポジション 16

こちらも「大」の字の第二画が決め手。第一画と交差するところまで線がやや細くなっていく印象がある

文章にすると表現も面倒で難しくなりますが、ラージボックス自体の実物は目が慣れて一度違いを認識出来ると比較的判り易く、判定も容易なバラエティーです。

但し、それ以外の各切手のポジション確定の作業となると話は別です。当時の印刷技術上の問題からか、インクの付き方の濃淡や加刷時の圧力（印圧？）の強弱があったと思われるこれらの条件次第では印面毎の僅かな違いが見分けにくくなるがこのグループには普通にあります。ひとつの専門書の図版だけでは判別が容易ではなかったり確定が難しいポジションもあります。これは紅印花全券種について云えることかと思えます。



(図4：参考) 大字壹分ポジション4

確定方法が手持ち資料では大清郵政の「大」の字の第一画右边が欠けていることと示されて図版も提示されているがインクのつきが多かったのか、この切手にはそのような「欠け」はない。只、第一画の右边が少し潰れ乱れて印刷されていることと、「壹」の字の「豆」の字の第一画に相当する「一」部分に特徴があり、この特徴とを合わせてポジション4と確定した。



(図5：参考) 大字壹分ポジション7

こちらの確定方法も大清郵政の「大」の字で第二画の左はらいに特徴があり、普通の「大」の字の第二画よりもはらいの途中にやや「角度」が生じている。

折角、紅印花郵票について紙面を割くことをお許し戴きましたので大字壹分以外の他券種についても簡単ですが触れておきます。

今回採り上げた壹分郵票や最高券種である伍圓にはいわゆる「小字」はありませんが、有名な稀品壹圓の他、貳分、肆分（四分）には「小字」が存在します。小字では貳分は何とか手が届く存在ですが、発行数が僅か200枚とされる肆分になると評価も10万ドル（約1100万円、スコットカタログ2020年版参照）を超えてきます。小字壹圓ともなればそもそもオークションに出品される都度、話題になる切手で仮に現在出品がなされれば100万ドルを伺う評価になる可能性すらある存在です。同様に大字では発行数こそ2万枚程度と推定されていますが伍圓郵票も未使用は今ではカタログ評価が9万ドル（約990万円）とこちらも高額で、リコンストラクションどころか1枚入手するのにも大変骨の折れる存在かと思えます。

残る小字貳分、大字貳分、肆分、壹圓切手は上述の三種程難関ではありません。しかし現在のカタログ評価はいずれも使用済であっても\$400を超える評価がつけられており、一枚づつ揃えていくのも「お財布との相談」になります。



（図6）大字壹圓ポジション2

大字の紅印花でも壹圓となると評価もそれなりでバラエティを収集するのは大変になる。このポジションは「圓」の字が上の「壹」の字に比べ右のへのずれが大きいことが特徴。



（図7）大字壹圓ポジション9

ポジション2とは反対に「圓」の字が左にずれている。また加刷時のインクの分量が多かったのが印刷圧力が強かったためか、「大清郵政」の「大」の字の右側や「政」の字の左側には余計なスジ上のインクが付いている。こう云った現象はこの切手にとっては珍しいことではないが、このためにポジションの確定が難解になるケースが生じている。

各券種ともリコンストラクションに挑むとなると当然相当な出費が必要になります。更に大字壹圓切手ともなるとリコンストラクションに成功した例は現在世界で僅か1ダース程度と云われています。ハードルは相当に高いと云えます。なので大字壹圓について少し幅を拡げて収集となれば例えば「圓」の文字位置に注目してそのバリエーションを揃えてみるのも面白いかも知れません。別図に示しましたが、「圓」の字の位置がポジションによっては著しく右側に寄っていたり左側に寄っていたりします。勿論「フラット」なほ「正位置」のポジションもあり、この3枚を揃えてみるのも少し贅沢ではありますがコレクションのアクセントになるかも知れません。

只、近年気になるのは海外のネットオークションなどでしばしば偽物が登場することです。長らく、この切手は台切手が当時イギリスで印刷された凹版印紙であることから偽造が難しく、旧中国初期の切手としては偽造も多い大龍や萬壽加刷切手などに比べ入手するには比較的「安全な」切手とされてきました。しかし、昨今の中国切手では有名なT46赤猿の精巧な偽造品は最早真贋の区別が不可能に近いレベルにまで精巧度が達していることから分かります。この凹版切手にも偽物が頻繁に現れるようになりました。ネットオークションなどでは拡大画像にして見ても真贋が難しい物も多く、入手には注意が必要です。ベテランコレクターに何うと印面よりも却って裏糊や目打ちの「できばえ」を見たほうが真贋が分かり易いと云う話も聞きます。

又、アイテムですがCOVID-19の影響下で物の取引が落ちこみ、ネットオークションでもここ一年程はそれ以前よりもこの分野の取引が低調な印象を受けます。専門ディーラーの元にも物の集りは鈍い様子でそれだけに状態の良い逸品や少し変わったアイテムが出品されますとのオークションでもかなり強気の評価が目立ちます。

状態のかなり劣る品まで相当に競上げられているケースも目立ちますが、やはり状態の劣る品、ルックスの悪い品に大きな資金を投じるのは避けるべきだと考えています。需給のバランスについて今後の予測をするのは難解ですが仮にCOVID-19が収束に向かってもしばらくはこう云った状況が続くかも知れません。

最後にこの切手の参考文献や資料ですが国内では紅印花郵票のみを扱った資料を当方は探すことができず、今のところ手元にあるのは海外発行の書籍ですが台湾から1985年に発刊された「紅印花郵票上編、下編」のみです。当然中国語（一部英語表記あり）ですが、英語・中国語が解らなくとも図版も多く視覚だけでも相応の情報がつかめると思います。またこの分野は我国ではJPS理事長故水原明窓氏をはじめとしてビックコレクターを多数輩出しているため、かつてのJPS中国切手部会報などにも興味ある記事が多数掲載されていることと期待しておりますが、何分地方在住のため、この辺りの資料調査が出来ていないのが残念で、今後の課題としたいと思っております。



(図8：参考) 大字壹圓ポジション

「圓」の字の位置は上の「壹」とほぼ平行である。このポジションの特徴も複数あるが「壹」の字の第一画の左起点部分がやや下までインクがついておりこれを判定の根拠としている。



無料登録・無料入札の流れ

Philasearch で検索!

- ① www.philasearch.com/jpを開く
- ② 最新オークションからロットを選択し、入札用紙に追加する
- ③ 個人情報登録後、担当会社に入札を送ってから入札完了!

世界の切手オークションが お手軽に

180社以上
参加中

以下の東アジア専門オークション等をご紹介します



Schuyler
Rumsey
Philatelic
Auctions



interasia
auctions



おすすめ!

毎週の新着品を
メールで楽しもう!

当ホームページにて、検索条件を保存すると、
新着品が届いた場合は通知を受け取る事が可能!



www.philasearch.com/jp

※ フィラサーチは、販売代理として日本語対応のウェブサイト及びサポート窓口を無料で提供します。各販売の担当オークション会社により手数料などが発生する場合があります。ご入札送付の際、入札規定をご確認ください。

※ 担当オークション会社へのご連絡、お問い合わせにつきましては、英語のみの対応となります。日本語対応のお問い合わせ・ご意見・ご質問・ご要望などは、service@philasearch.com までご連絡ください。

日本版蟠龍票伍角黒緑の変種

猫山 ねこ

紅印花郵票など暫定的な加刷切手の発行からスタートした大清郵政ですが開業から約半年後に漸く日本に発注していた正刷切手が到着し、1897年8月16日に額面半分から伍圓まで12種類の新しい切手が発行されました（JPS#83-94、Sc#86-97）。これが日本版蟠龍票と云われるシリーズです。

このシリーズの中の伍角（50c、50分）切手（JPS#91、Sc#94）は刷色が黄緑色で36万枚が用意され売捌かれましたが、刷色違いで青緑（JPS#91a、Sc#94b）と黒緑（JPS#91b、Sc#94a）の刷色の物がごく少数製造され、市場に流通しています。

私が香港の有力ディーラーに伺った話では青緑の物が80枚（1シート）、黒緑の物が240枚（3シート、但しこの約2倍の500枚程度とする説もある）市場に出たとのこと。これはどちらも一角（10c、10分）切手に使用される予定のインクを誤ってこの伍角切手に使用して発生したものと言われ、青緑の物はインク調合がまだ不完全な初期段階での印刷とされています。どちらも実際の郵便使用は確認されていません。

あくまで限られた範疇ではありますが私が内外のオークションに目を通すようになってから前者の青緑の出品はここ2年程で一度きりですが、黒緑のほうはそこそこの数の出品が見られ、私の手元にもブロックを含め数枚集まっています。

そのうちのひとつに定常変種のような物を見つけましたので、ご報告致します。最初に入手したのは田型のほうですが、左下の一枚の図案左上、丁度「角」の文字部分のフレーム部分が二重線上になっているのがお分かり戴けると思います（図1）。入手当初からこのことには気づいておりましたが、このシリーズ全体の印刷技術が稚拙なためのインクの付着程度に考えておりました。

しかし、この五月に行われた香港でのオークションにこれとまったく同じ特徴を持った単片の黒緑伍角切手が出品され、入手することにも成功致しました（図2）。これで前述のようにこの「角の字部分二重フレーム」状の切手は複数の存在が確認されたことになり定常変種の可能性が高くなったと思量しています。

只、この切手自体の製造数が僅かなことから今回の点だけから変種と位置づけするのは難しいかも知れません。正刷となった黄緑の伍角切手に同様の変種が報告されていれば興味深いところです。



変種入り（左）とノーマル（右）



(図1)「角」の字上のフレーム外側にもう一本の線状にインク



(図2) 本年6月に入手の単片にも同様ライン

江戸時代の国際郵便（3）

万延元年・フランス共和国

吉田 敬

安政6年6月2日（1859年7月1日）に、神奈川・長崎・函館の3港が開港し、領事館を通じた本国と日本の間の郵便が始まります。前年に締結された日米修好通商条約を含む安政五カ国条約の結果でした。

もちろんそれ以前から出島等を通じた信書のやりとりは存在しますが、世界とのやりとりが本格化したのは、この開港が契機です。

初期使用例として1859年の使用例は確認されておらず（前出の出島カバーは除く為）、初年度は1860年であると考えられていますが、その存在点数も限られており、インカミングで3通、アウトゴーイングで5通です。

面白いことに全て長崎発で、神奈川（横浜）や函館は見つかっていません。開港当初の海外との窓口の主役は長崎であり、横浜はまだそこまで発展しておらず、郵便量も長崎に比べて少なかったことがわかります。

ところで、このカバーには切手も貼ってなければ、長崎の消印も押されていません。それを解く推理の鍵は、文面や証示印にあります。その前に表面に押された「9」黒印に注目したいと思います。

私は長らく、この「9」は手書きだと考えていたのですが、ハンコであることを先日、ある方よりご教示いただきました。この「9」は受取人徴収料金を示すもので、9 decimals つまり 90 centimes が受取人には



2009 日本開港 150 周年

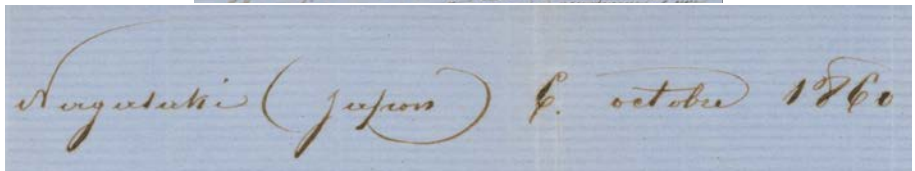
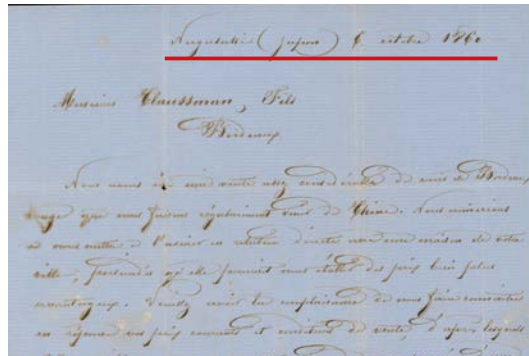


NAGASAKI → Hong Kong → Marseille → Toulouse → Bordearux

請求されます。これで料金についてはわかりました。次は発信地と発信日です。

在日外国局を収集していれば常識なのですが、日付印は最初から各局に配備されていたわけではありません。フランスとイギリスの横浜局の日付印配備はそれぞれ 1865 年 7 月、1866 年 9 月とされていますし、長崎局には日付印は配備されなかったと考えられています。

このような場合に拠り所となるのは文面です。封筒よりも折り畳み書状が使用されることが多かった時代背景を反映して、折り畳み書状はエンタイア（完全状態）であることが多く、本使用例も、以下の拡大図の様に、発信地と日付が明記されています。中継印や到着印とも整合性が取れる情報であり、本使用例の真正性を担保しています。



文面（右上）と、上部（赤下線部）拡大図 Nagasaki Japan 6 Octobre 1860



裏面

ハワイからのスタンプレスカバー2題について

外国切手研究会

山崎 文雄

筆者はハワイ切手関係を収集してもう、50 年近くになります。メインは伝統郵趣のため、スタンプレスカバーはそのメインコレクションから外れてしまうケースが多く、国際展などの展示にはそのマテリアルを所持していても展示できるケースはほとんどないのが実情です。

スタンプレスカバーはプレスタンプ時代のカバーと切手発行後のスタンプレスカバーに分かれますが、プレスタンプカバーの場合には切手発行までのフォアランナーとして、展示できるケースは結構ありますが、切手発行後のスタンプレスカバーは伝統郵趣になじまない関係から、その展示機会がより失われてしまいます。

これらを生かすには郵便史の作品に仕立てる方法がありますが、これはハワイの場合至難の業と言っても過言ではないでしょう。

そのようなことで、以下に紹介するカバーについては、今から 30 年ほど前に入手したスタンプレスカバーで長年アルバムに放置されていたものですが、「Hawaii Foreign Mail to 1870」(フレッド・グレゴリー (Fred Gregory), 米 Philatelic Foundation, 2013 年) の豪華本 (3 巻) により大変興味深いことが判明しましたので、ご報告をさせていただきます。

まず、図1のカバーをご覧くださいと存じます。このカバーはスタンプレスカバーでアメリカ、ロードアイランド州のプリストルあての通常郵便の封書(手紙)です。日付印はホノルル局の赤印でホノルル局 1 月 12 日の日付印で、サンフランシスコ局 1858 年 3 月 5 日付の到着押印が押されています。

「HONOLULU. HAWAII ISLANDS, JAN 12」の日付印(ホノルル局)から、アメリカの料金がコレクト料金扱いであることが判ります。当時はハワイからアメリカまでの料金は 5 セント、アメリカ料金は東海岸までの料金が 10 セント、船長料金 (Captain Fee) が 2 セントで合計 17 セント料金が必要でありました。このカバーはハワイ料金の 5 セントは現金で郵便局に納付され、アメ



図1

リカまで運ばれました。その詳細は図2で説明をすることにいたします。ここまでのことを見れば何の変哲もないスタンプレスカバーなのですが、ここで読者の皆さんは何かおかしいと思う部分を感じないでしょうか？

それは何かというと、当時の船の状況を鑑みて、嵐など自然の影響を受けやすい船であることも鑑みて、ホノルルからサンフランシスコまで2か月近くもかかるだろうかという点で、何かが変だということになります。それを調べるには当時の郵便を乗せる船の出港履歴および到着履歴を調べる必要があるということになります。

これを知るには当時のホノルルの新聞およびサンフランシスコの新聞を調べる必要がありましたが、前述の「Hawaii Foreign Mail to 1870」の3巻にその調査データがありました。通常であれば、それを調べるには膨大な時間がかかりますが、この文献のお蔭で、そこまでの調査はしなくても短い時間でこの手紙を運んだ船の名前が発見できたということになります。

運んだ船の名前は「メリタ」号 (Melita) であることが判明しました。しかも、ホノルル局の日付印のデータが間違っており、1月ではなく2月であることが明確になったのです。また、到着しましたサンフランシスコ局の日付印の年号間違った年号で1858年ではなく1859年3月5日であることが同時に判明しました。このようなケースはこれまで全く見なかったケースで他には見られない事例だと考えられます。

本件に関し、ミクロネシアからホノルルを経由し、サンフランシスコ、ニューヨークまで運ばれた同様のカバーが前述の文献にイラスト (図2) で示されていたので、併せてその詳細を記載すると、ニュージャージー州パーシッパニー (Parsippamy) 宛てで、「Morning Star」(船名) の左下部に記載のメモがあります。

ホノルル郵便局とサンフランシスコ郵便局での日付印更埴ミスにより、この手紙と他の3通の手紙は、日付印セットが間違った使用となりました。アメリカのバルク船「メリタ」号により1859年2月12日にホノルルからサンフランシスコに向けて出航し、3月3日に到着した。この「メリタ」号で運ばれた手紙は4通が記録されています。いずれの場合も、ホノルル郵便局は月を1月から2月に何故か変更しませんでした。4つのカバーのうち2つは、図2のカバーとポナペ (Ponape) を発信起源とする他のカバーを含め、米国の郵便料金徴収で送付され、1858年3月5日付のサンフランシスコの郵便日付印が押印されました。



図 2

他の2通のカバーは米国の郵便料金前払いで送られ、1859年3月5日にサンフランシスコで消印が押されました。セーリングリストを確認すると、「モーニングスター」号は1858年1月28日にミクロネシアからホノルルに到着し、1859年1月24日に再び到着しました。

1858年または1859年1月24日のいずれの場合も、1月12日の消印はあり得ないものであり、2月12日を読む必要がありました。

3月5日の日付は、1858年と1859年の両方でサンフランシスコからの蒸気船の出航日で（どちらも蒸気船は「ゴールデン・エイジ」号（Golden Age）でした）確認ができましたが、1858年に、「モーニングスター」号の到着後にサンフランシスコに向けて出発した最初の船は「ヤンキー」号（Yankee）でした。ホノルル港出航が2月27日で3月15日サンフランシスコ港に到着。したがって、1858年はありません。

サンフランシスコ郵便局の職員は、コレクト料金の手紙の消印で年を1859に変更しなかったということが判明したことになります。実際、4通の手紙はすべてホノルルで2月12日（1859）を読むようにマークされている必要があり、4通の手紙はすべてサンフランシスコで1859を読むようにマークされている必要があります。サンフランシスコから、手紙はPMSC蒸気船でパナマシティに運ばれました。「ゴールデンエイジ」号（3月18日到着）、そしてUSMSC蒸気船「モーゼステイラー」号（Moses Taylor）でアスピンウォール（Aspinwall）からニューヨーク市へ（3月18日出発、キングストンを中継し3月26日到着）運ばれた手紙ということになります。

このように、発着両方の日付印がエラーになることは非常に珍しく、コレクト料金の手紙だからこそ、サンフランシスコ局での日付印のチェックがあまりされなかったことがこのようなエラー日付のデータを生んだのだと思われます。しかも、その通数の少なさもこれまで何十年も眠っていたスタンプレスのカバーが陽の目を見るような感じでしたが、入手した時は何の情報もなく、左程高価なものでもなかったと記憶をしておりますが、1つのスタンプレスカバーにもこのような物語が語れるアイテムもあることはラッキーだったのかも知れません。

次に、図3のスタンプレスカバーをご覧くださいと思います。このスタンプレスカバーも前述のカバーと同様、数十年前に入手したカバーであります。また、伝統郵趣から外れて何年もアルバムに眠っていたカバーであります。簡単な情報を記載しますと、次のようになります。



図 3

ホノルル局の日付印は 1860 年 3 月 17 日で到着のサンフランシスコ局の日付印は 1860 年 3 月 29 日です。右上の部分のクラムシェル型の [SHIP 6] の手押し印が押印されており、コレクト料金が課せられたことが判ります。郵便料金については、ハワイからアメリカまでの料金が 5 セント、サンフランシスコまでが 6 セント料金が Captain Fee はかかりませんでした。(1855 年 5 月 16 日～1863 年 2 月 26 日) 送り主はハワイ料金の 5 セントを現金で支払い、サンフランシスコの受取人が 6 セント料金のコレクト料金を支払ったカバーということになります。

図 1 同様にこの手紙を運んだ船の調査を行う必要がありますが、前述の文献により、この手紙を運んだ船は「ポウハタン」号 (Powhatan) であることが判りました。この「ポウハタン」号はホノルル港を 1860 年 3 月 17 日に出港し、同年 3 月 29 日にサンフランシスコ港に到着をしております。ローカル配達の手紙には 3 月 29 日の日付印がサンフランシスコ局で押印されましたが、オーバーランド (大陸間横断鉄道など) については 3 月 30 日の日付印が押印されました。

この「ポウハタン」号は日本とも大きな関係があることを知りました。それは黒船であります。ウィキペディアには下記の記載がありましたので、日本語に訳して掲載をいたします。

アメリカの蒸気船 Powhatan は長く著名な経歴を持っていました。1858 年 7 月、最初のアメリカ領事であるタウンゼント・ハリスは、第 2 回日米修好通商条約 (ハリス条約、または米仏通商条約) に首尾よく署名しました。日米和親条約の調印と同様に、それはポウハタン号で行われました。庄国が 1860 年に批准されたハリス条約の大使館を米国に送ることを決定したとき、再びポウハタン号が今度は太平洋を越えてハワイ、サンフランシスコ、パナマに日本大使を運ぶために使用されました。

この手紙にも神奈川 (Kanagawa) に寄った記載がありました。記載では Kanagua (カナグア) と記載されていました。その辺も大変興味深いものであることが判明したことになります。

ここでクラムシェル型 [SHIP 6] 印について述べたいと思います。印色は黒、赤、青の 3 色の印色が確認されておりますが、青印は非常に希少なものであると思います。この印が押印されているカバーはアメリカの郵便料金が未納になっているため、受取人はその金額を支払う必要がありました。

このクラムシェル型の未納印はサンフランシスコ局にて押印され、受取人からその料金を徴収したということになります。受取人の Wethered & Tiffany (ウェザード&ティファニー事務所) はいくつかの活動に従事していました。その中には特許のコミッショナーであり、サンフランシスコでの配達のためにハワイからカバーのかかなりの割合を受け取っていたようです。



7/27の外国切手研究会のZOOM例会(*1)で本件を報告する筆者
*1 毎月第1、第3土曜日午後8時から開催しています。参加費無料です。

さて、ここで図4として同様のスタンプレスカバーを紹介いたします。本カバーは前述の文献に掲載されていたカバーで図版 16 - 82 として紹介されていました。データについて以下に記載します。

このカバーは 1860 年 4 月 3 日にホノルル局で消印を押印しました。差出人はハワイの郵便料金に 5c を支払い、手紙はアメリカのバルク船の「コメット」号 (Comet) でサンフランシスコに送られました (1860 年 4 月 3 日の出航、4 月 18 日到着)。

サンフランシスコの郵便局では、このカバーに 1860 年 4 月 18 日日付印(SFCALYR)が付けられ、サンフランシスコ局にてコレクト料金のクラムシェル型「Ship / 6」が押印され。配達時に、受取人はその料金 6c を支払いました。

このカバーは筆者所有のカバーより若干後に送付されたカバーですが、書かれた文字から判断できるように同じ差出人ということが判ります。同じコレスpondensはいくつもありますが、「ボウハタン」号のカバーは日本にはかなり縁の深い船であることが判明したことは、極めて興味深いマテリアルであることだけでも判明したことは、何かの形で陽の目を見ようになりたい気持ちが湧いてくるカバーなのかも知れないと思った次第です。

このように眠っているカバーを読者の皆さんも見返してみても如何でしょうか。そこには新たな発見があるかもしれません。



図 4

[ad]

全国切手展スタンプックスジャパン2022 (12/21 (火) 出品)

会期: 2022 年 3 月 26 日 (土) - 28 日 (月) [3 日間]
会場: 郵政博物館 (東京都墨田区・東京スカイツリータウン内)
規模: 90 フレーム
主催: (特非) 郵趣振興協会 / (公財) 通信文化協会

<http://kitte.com/stampex2022>



"ALMOST 50 YEARS NO WORLD EXHIBITION HAS BEEN HELD IN SWITZERLAND."



BENVENUTI A LUGANO
WELCOME TO HELVETIA

WORLD STAMP EXHIBITION 18 — 22 MAY 2022

欧州をコロナ禍が覆っていた昨年4月に、VSPhV（スイス郵趣協会）は、2022年に5日間の会期で世界切手展（FIP Patronage）を開催することを決定しました。場所はスイス南部のルガーノ市。4年前の2018年5月に、国内展にも関わらず1,500フレーム規模の作品を集め（PHILANIPPON2021の3倍に相当します）たNABA LUGANO 2018を実質的に仕切った、ルガーノ郵趣協会の面々が同一会場で開催する展覧会です。

この時のメンバーが当時から狙っていたのは、1974年に開催されたINTERNABA 74以来、半世紀近く同国で開催実績のない世界切手展の開催でしたから、まさに有言実行。強い意志で展覧会の開催に向け今も動いていると聞いています。

一方、残念なことに、2020年以来ヨーロッパは我が国から遠い外国になってしまいました。日本における、FIP加盟団体である全日本郵趣連合も長らく本展覧会の正規コミッショナーを設置していませんでしたが、この程、スイス切手を収集している私に、コミッショナー就任の委嘱状を頂戴しました。たいへん迷いましたが、受諾した以上は、ヘルベチア2022実行委員会の皆さんと力を合わせて、同展覧会を盛り上げたいと考えています。

なお、コミッショナー帯同で作品を運搬できない方向けに運搬サービスも提供を予定しておりますが、COVID-19の流行に伴い、（ベストは尽くしますが）これまでの国際展の様に行かない場合もあることをご理解の上、お申し込みください。

自衛隊海外派遣と郵便

大岩 信行

1991年に自衛隊海外派遣が実施されましたが、その足跡として郵便が使用された例は多くありません。収集家に残されたものは、自衛隊が海外に初めて派遣されたペルシャ湾、続くインド洋、そして、現在まで継続中のソマリア沖のカバーがほとんどで、残りはなかなか見かけることがありません。

そもそも、自衛隊海外派遣の目的には次の10項目があります。

1.	後方支援・復興支援（自衛隊ペルシャ湾派遣・インド洋派遣等）
2.	国際連合平和維持活動（PKO）（自衛隊カンボジア派遣・自衛隊東ティモール派遣等）
3.	難民救援（自衛隊ルワンダ難民救済派遣等）
4.	国際緊急援助隊（自衛隊ホンジュラス派遣・自衛隊インドネシア派遣等）
5.	在外邦人輸送（イラク日本人人質事件・アルジェリア人質事件等）
6.	海賊対処（ソマリア沖海域の対策部隊派遣）
7.	災害派遣（マリアナ海域漁船集団遭難事件・えひめ丸事故）
8.	破棄化学兵器処理（遺棄化学兵器問題）
9.	能力構築支援（非伝統的安全保障分野における派遣）
10.	情報収集（中東地域における日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動）

自衛隊海外派遣は、現在継続中の活動も含め43件あります。当初は国際連合平和維持活動(PKO)の数名単位で派遣されたものが多く、その後、世論の理解とともに派遣人数及び回数が多くなり、国際緊急援助活動の地震被災地への航空輸送活動が実施されました。

しかし、これらは、郵便業務のない地域への派遣や短時間相手国に留まり任務を遂行するという実任務活動で、郵便は縁遠いものでした。

制限された自衛隊海外派遣活動の中で、自衛隊海外派遣活動先から差立てられた何点かのエンタpiaを派遣別に紹介します。



1 ペルシャ湾派遣（ペルシャ湾掃海派遣活動）

派遣期間：1991年4月26日～10月30日

自衛隊ペルシャ湾派遣は、湾岸戦争においてイラクがペルシャ湾北部に敷設した機雷が日本の原油輸送航行船舶に重大な脅威を与えるため、機雷掃海派遣活動として実施され、自衛隊にとって初の海外派遣となりました。その際、海上自衛隊補給艦「ときわ」内に船内郵便局が（氷砕艦を除き）自衛隊創設後初めて設置されました。



ペルシャ湾掃海派遣部隊 / 船内印（バクボー実郵便）

TOKIWA SEA POST

22. VII. 91 8-12

輸送艦 ときわ (AOE TOKIWA)

2 カンボジア派遣（カンボジア平和維持活動）

派遣期間：1992年9月8日～10月30日

自衛隊カンボジア派遣は、国際平和協力法に基づく国際連合平和維持活動（PKO）の一環として、国際連合カンボジア暫定統治機構（UNTAC）に派遣されました。

その際、海上自衛隊カンボジア派遣海上輸送部隊の補給艦「とわだ」内に船内郵便局が自衛隊ペルシャ湾派遣時の輸送艦「ときわ」に続き設置されました。



カンボジア派遣部隊 / 船内印（パクボー実運便）

TOWADA SEA POST

10.XII.92-8-12

輸送艦 とわだ（AOE TOWADA）



3 インド洋派遣（インド派遣活動）

派遣期間：2001年11月9日～2010年1月15日

自衛隊インド洋派遣は、アメリカ同時多発テロ事件と報復のアフガニスタン攻撃を受けて、海上自衛隊の補給艦が派遣されたものです。

船内郵便局は、それまでは補給艦に設置されていましたが、燃料補給任務で補給艦が多忙を極めたため、司令部のある護衛艦にも設置されるようになりました。



インド洋派遣部隊 / 船内印（パクボー実郵便）

KIRISHIMA SEA POST-2.IV.94 18-24
護衛艦 きりしま（DDH KIRISIMA）



4 東ティモール派遣（東ティモール派遣活動）

派遣期間：2002年3月2日～2004年6月27日

自衛隊東ティモール派遣は、国際平和協力法に基づく国際連合平和維持活動（PKO）の一環として、国際連合東ティモール暫定行政機構（UNTAET）への協力のために、陸上自衛隊を中心に東ティモールへ派遣されたものです。

その際、船内郵便局は設置されませんでしたが、東ティモール独立と同時に設立された同国唯一の郵便局であるディリ郵便局（CORREIOS/DILI）にて取り扱われた東ティモール陸上自衛隊施設部隊より差し出された郵便物を紹介します。



東ティモール派遣部隊 / 国際郵便印（外信実通便）

CORREIOS / DILI
2003.1.7

東ティモール唯一の郵便局
料金：薄い物 50 セント



5 南スーダン派遣 (南スーダン派遣活動)

派遣期間：2012年1月7日～2017年5月27日

自衛隊南スーダン派遣は、国際連合 PKO 局と潘基文国連事務局長による自衛隊派遣要求を受け、国際平和協力法に基づいて国際連合平和維持活動 (PKO) の一環として、陸上自衛隊を中心に南スーダンへ派遣されました。

この際、アントノフ An-124 がチャーターされ空路を利用したため、船内郵便局は設置されませんでした。南スーダンは独立したばかりであり、未整備道路の整備を中心に陸上自衛隊施設部隊が活動しました。派遣された施設部隊の隊員より差し出された郵便物を紹介します。



南スーダン派遣部隊 / 国際郵便印 (外信実通便)

Kompla Sorting Office
01.11.2017 15 Uganda



6 ソマリア沖海賊対処部隊派遣（ソマリア沖海賊対処活動）

派遣期間：2009 年 6 月 19 日～現在まで

自衛隊ソマリア沖海賊対処活動は、ソマリア沖やアデン湾で横行する海賊から航行する船舶を護衛する目的でソマリア沖及びジブチ共和国に派遣されました。

派遣部隊には、二系統の活動部隊があり、一つは海上自衛隊護衛艦が洋上で船舶を護衛する派遣海賊対処（後に行動を付与）水上部隊（DSPE）であり、船内郵便局を現在も使用しています。



ソマリア沖海賊対処派遣部隊 / 船内印（パクボー実郵便）

MURASAME SEA POST

-1.XII.11 18-24

護衛艦 むらさめ (DD MURASAME)



もう一つは、海上自衛隊対潜哨戒機 P3C を運用して海賊を空から監視する派遣海賊対処（行動）航空隊（DAPE）で米軍のキャンブレモニエ郵便局（自衛隊で初めて FPO AE を使用）が使用されました。（米軍基地内暫定基地 使用期間：2009.6.1 ～ 2011.7.6）

現在は、新基地拠点に移動しジブチ国際郵便を使用しています。（詳細参照：三鷹郵趣会会報 2020 年秋号 ソマリア沖海賊対処活動で使用された郵便について）



ソマリア沖海賊対処派遣部隊 / FPO AE 印（米軍事郵便実通便）

HACHINOHE NISHI

15.VI.10 12-18

日本→米国海軍郵便経由→ FPO AE 09363（ジブチ共和国キャンブレモニエ基地）

自衛隊が、海外派遣地域から差し出した郵便として考えられるものとしては、自衛隊業務便、海外派遣任務に際しての協力御礼便、家族への近況便と郵趣家作成便が考えられますが、実際に残っているのは、郵趣家作成便がほとんどです。これらも今になれば、貴重な資料と言えます。

今は、コロナの影響で外国に入港することが難しく、入港できても燃料補給及び生鮮食料品の積み込みだけで、派遣された乗組員が上陸（入国）することができないため、当然郵便は差し立てられません。

派遣された艦船別で使用例を収集されている方にとっては、その間、護衛艦も 20 年（一般的な老齢船舶）で除籍になることもあり、幻の船内（護衛艦）消印となる可能性があります。

南極観測船（文科省所属）も今年は、オーストラリア等どこにもよらず南極を往復しています。お手元に、これらの郵便がありましたら、大切にしてください。

戦後の欧文櫛型印 (9)

C欄 JAPAN・後発グループ (下)

神宝 浩

今回は、1951年11月以降に各地で使用が始まったC欄 JAPAN・後発グループ (下の表の④) の3番目のパートとして、「西日本」の部、すなわち近畿、中国、四国、九州の各地方の欧文櫛型印を紹介します。これらの印は基本的にいずれも金属印です。

①	C欄 NIPPON グループ
②	C欄 JAPAN・先行グループ
③	C欄 JAPAN・中間グループ
④	C欄 JAPAN・後発グループ
⑤	事務用印流用グループ

OTSU

まず近畿地方ですが、滋賀県の大津局では、欧文櫛型印OTSU/JAPANを使用しました。使用期間は、他のC欄 JAPAN・後発グループと同様、1951年11月から1952年12月末までの1年余りとみられます。

図1は、そのOTSU/JAPAN印の使用例で、立太子礼記念や立山航空などを貼り合わせた西ドイツ宛の航空書状にOTSUの欧文櫛型印が押されたものです。欧州宛の航空書状料金は、1951年12月に増料金制の127円から併合料金の125円に若干引き下げられていましたが、このカバーの差出人はそれを知らなかったとみて、旧料金の127円分の切手が貼られています。

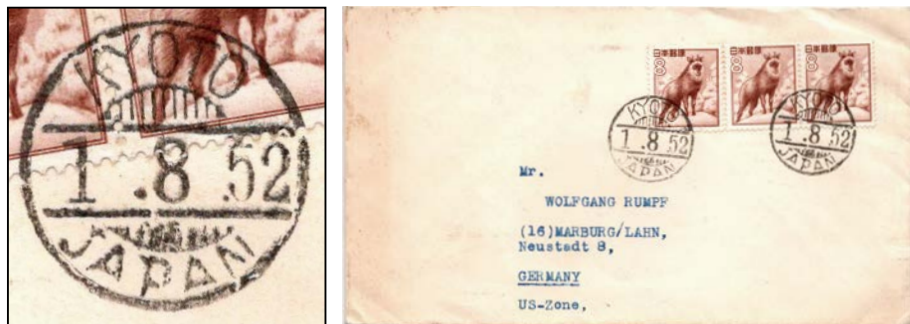


【図1】OTSU 1952.11.10

KYOTO

京都中央局は、局名が元の「七條」から1949年2月に「京都中央」に改称され、これに伴って欧文印としては KIOTOCHUO というユニークな綴りの印を使っていましたが、1951年11月の欧文櫛型印の全国配備の際、局名表示を KYOTO に改め、KYOTO / JAPAN の使用を開始しました。本稿では、局としては KIOTOCHUO の項で一度取り上げていますが、局名表示（印影）としては変更になっているので、あらためてここで取り上げることにします。

図2は、かもしか8円を3枚、計24円を貼った西ドイツ宛の平面路便に KYOTO / JAPAN が使われたカバーで、かもしか8円の初日便に当たります。京都中央局の欧文櫛型印のC欄 JAPAN の「J」は、KIOTOCHUO 時代にセリフ付きでしたが、A欄が KYOTO に変わっても J セリフ付きなのが特徴です。



【図2】KYOTO 1952.8.1

NAKAGYO

中京局はもと京都局でしたが、上記のとおり1949年2月に七條局が京都を代表する局として京都中央局と改称したのに伴い、京都局は中京局へと局名が変わりました。京都局時代は欧文櫛型印として KIOTO / NIPPON を使っていましたが、中京局になってからは欧文櫛型印を使用せず、外信便にも和文印を使用していました。欧文印が再び配備され使用開始となったのは欧文櫛型印全国配備が行われた1951年11月からで、中京局では NAKAGYO / JAPAN が使われました。

図3はその NAKAGYO / JAPAN 印の使用例で、船便書状基本料金分の宇治川24円と重量加算分の中部山岳14円を貼ったイタリア宛の2倍重量便です。



【図3】NAKAGYO 1952.7.23

NARA

奈良局には欧文櫛型印全国配備の一環として、NARA/JAPANが備えられました。図4は、国体切手など4種、計25円分の切手を貼った米国宛船便書状（1円過貼）にNARA/JAPAN印が押されたものです。

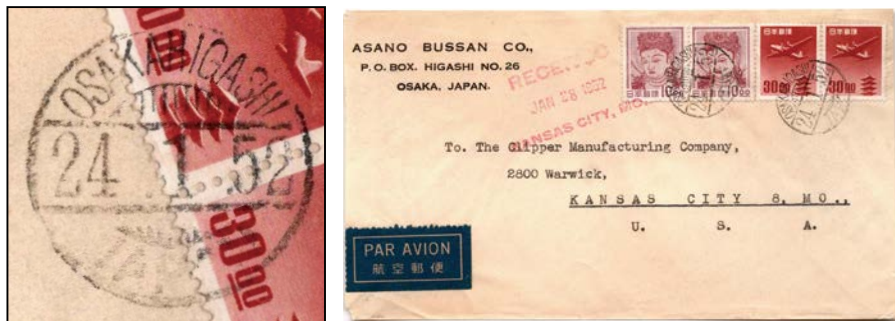


【図4】NARA 1952.9.20

OSAKAHIGASHI

大阪市内では、1951年10月の時点で、欧文印の使用局は大阪中央局とその分室のホテルナニワ局の2局だけでしたが、1951年11月から欧文印使用局として、あらたに2局が加わりました。そのひとつが大阪東局で、欧文櫛型印としてOSAKAHIGASHI/JAPANを使用しました。

図5は、いずれもゼロ付の塔航空30円と観音10円を各2枚ずつ、計80円分の切手を貼った米国宛航空書状に、OSAKAHIGASHI/JAPAN印が使われた例です。



【図5】OSAKAHIGASHI 1952.1.24

K I T A H A M A

大阪市内では、大阪東局と並んで、近くに商社などがある北浜局にも欧文櫛型印 K I T A H A M A / J A P A N が配備され、1951年11月から使用が始まったとみられます。図6は米国宛航空書状2倍重量便で、基本料金80円の2倍、計160円分の切手を貼ったカバーに K I T A H A M A / J A P A N 印が押されたものです。

なお、北浜局の欧文櫛型印については、1952年3月の日付をもつ C 欄 N I P P O N の金属印(「日本郵便印ハンドブック」<日本郵趣協会、2007.9>にも掲載)のカバーを1例だけ確認していますが、国名表示がすでに全面的に J A P A N に切り替わっている時期になぜこのようなものが存在するのか、理由は不明です。



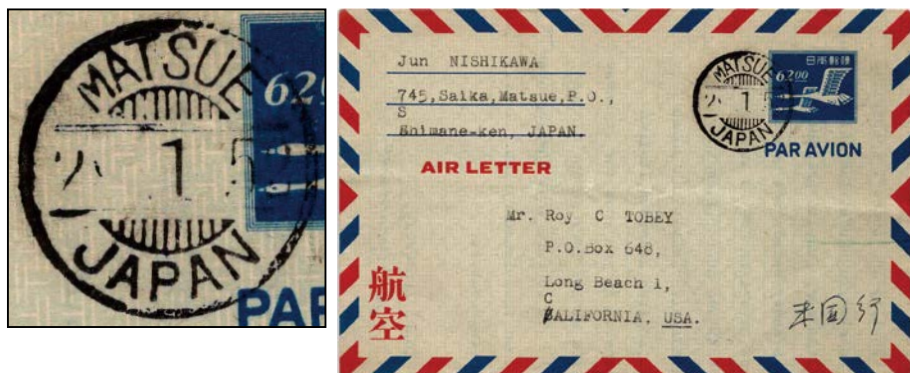
【図6】K I T A H A M A 1952.10.25

M A T S U E

中国地方に入ります。中国地方の欧文櫛型印は、程度の差はありますが、いずれも希少局です。

まず山陰の松江局ですが、この局には欧文櫛型印として M A T S U E / J A P A N が配備されました。使用例が少ないですが、1951年11月から使用開始になったとみて間違いないでしょう。

図7は、M A T S U E / J A P A N 印が押された米国宛航空書簡で、1952年1月の使用です。航空書簡の料金は1952年4月に50円に値下げされますが、このエンタエアはまだ旧料金の62円時代のものです。



【図7】M A T S U E 1952.1.2-

OKAYAMA

岡山局には、欧文櫛型印全国配備の一環として、OKAYAMA/JAPANが配備されました。図8は、米国宛航空書簡にOKAYAMA/JAPAN印が使われた例です。使用時期が1952年6月で、航空書簡料金が50円に値下げされた後の使用です。



【図8】OKAYAMA 1952.6.24

HIROSHIMA

広島局は中国地方を代表する大局のはずですが、戦後ずっと欧文印の配備はなかったようで、1951年11月になってようやく他の県庁所在地局と同様に、欧文櫛型印HIROSHIMA/JAPANの使用がはじまったものとみられます。広島局の外信便の取り扱いはいそれなりの数があったのではないかと考えられますが、欧文櫛型印の使用例は意外に少なく、収集はそう簡単ではありません。

図9は、料金50円の米国宛航空書簡に、HIROSHIMA/JAPAN印が押されたものです。

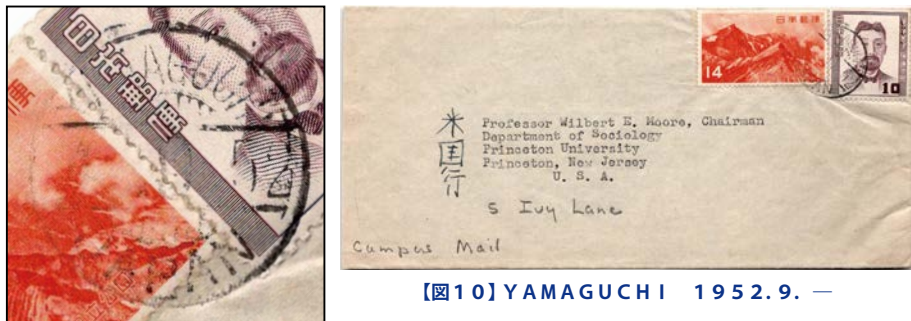


【図9】HIROSHIMA 1952.5.31

YAMAGUCHI

県庁所在地の山口局にも、欧文櫛型印YAMAGUCHI/JAPANが配備され、1951年11月から使用がはじまったものと考えられます。もっとも山口局の欧文櫛型印の使用例は極めて少なく、収集の難しさは全国的にみてもトップクラスと言えます。

図10は、そのYAMAGUCHI/JAPAN印の数少ない使用例の一つで、中部山岳14円と梅謙次郎10円、計24円を貼った米国宛船便書状です。印影がやや薄いですが、幸い文字が切手の読みやすい部分にかかっているため、データが読み取れます。



【図10】YAMAGUCHI 1952.9. —

SHIMONOSEKI

下関では戦前はかなり欧文印が使われていましたが、戦後は欧文印の使用は途絶えたようで、ようやく1951年11月の欧文櫛型印全国配備に伴って、下関局でも欧文櫛型印SHIMONOSEKI/JAPANが使用されるようになったとみられます（注）。この結果、山口県での欧文櫛型印使用局は、山口、下関の2局になりました。

図11は、SHIMONOSEKI/JAPAN印が押された西ドイツ宛航空書状で、基本料金125円のところ、梅花100円と産業図案2種、計250円分の切手が貼ってあるので、航空2倍重量便であることがわかります。

（注）戦後の下関の欧文櫛型印については、非実通の官白に押された1950年の年号をもつ金属印とゴム印の印影が存在していますが、1951年10月以前のこれらの印の実通便への使用例は、筆者は未見です。このため、本稿では、下関の欧文櫛型印は、C欄JAPAN・後発グループの一つとして取り上げました。



【図11】SHIMONOSEKI 1951.12.21

MATSUYAMA

四国地方では、松山と高知の2局で欧文櫛型印が使われました。高松と徳島にも欧文櫛型印が配られた可能性はありますが、これまでのところ、使用例はおろか、印影の報告も筆者は見たことがありません。

松山局には欧文櫛型印 MATSUYAMA / JAPAN が配備されました。残されている使用例がとても少ないですが、使用開始は他の県庁所在地局と同様、1951年11月からと考えられます。

図12は、ゼロ付塔航空40円のペアを貼った米国宛航空書状にMATSUYAMA / JAPAN印が使われたものです。

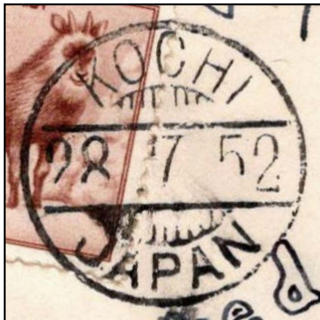


【図12】MATSUYAMA 1951.12.24

KOCHI

高知局には欧文櫛型印 KOCHI / JAPAN が配備されました。使用開始は松山局と同時期とみられます。

図13は、そのKOCHI / JAPAN印の使用例で、中部山岳10円、14円とかもしか8円2枚、計40円分の切手を貼った米国宛航空印刷物（料金40円）です。日付が1952年7月28日になっていますが、かもしか8円の発行日はこの後の8月1日で、かもしか8円切手の発行日4日前のフライング使用です。



【図13】KOCHI 1952.7.28

BEPPU

九州地方に移ります。別府は県庁所在地ではありませんが、外人観光客も訪れる温泉観光地であったため、別府局には県庁所在地局と同時に欧文櫛型印が配備されました。印影はBEPPU/JAPANです。

図14は、立太子礼と磐梯朝日各5円切手を貼った米国宛船便印刷物（料金10円）にBEPPU/JAPAN印が使われた例です。



【図14】BEPPU 1952.11.13

OITA

大分県では県庁所在地の大分局にも欧文櫛型印が配備されましたので、大分県内の使用局は別府、大分の2局になります。大分局の欧文櫛型印はOITA/JAPANです。

図15は、立山航空160円切手を貼った米国宛2倍重量航空書状（80円×2＝160円）にOITA/JAPAN印が押されたものです。



【図15】OITA 1952.9.12

KAGOSHIMA

最後は鹿児島です。鹿児島局には欧文櫛型印としてKAGOSHIMA/JAPANが配備されました。この印も使用例が少ないですが、使用開始は1951年11月からと考えられます。

図16はそのKAGOSHIMA/JAPAN印の使用例で、植林20円と農婦2円2枚、計24円の切手を貼った米国宛船便書状にKAGOSHIMA/JAPANが使われたものです。このカバーは、派手さはありませんが、ごく自然な切手の貼り合わせに鮮明な消印が押され、全体のバランスも良いなかなか好ましいルックスの一品と言えるでしょう。



【図16】KAGOSHIMA 1952.6.24

[ad]

全国切手展スタンプスジャパン2022 (12/21 (火) 出品)

会期:2022年3月26日(土)~28日(月) [3日間]

会場:郵政博物館(東京都墨田区・東京スカイツリータウン内)

規模:90 フレーム

主催:(特非) 郵趣振興協会 / (公財) 通信文化協会

<http://kitte.com/stampex2022>



自動押印機に使用する印肉類の色

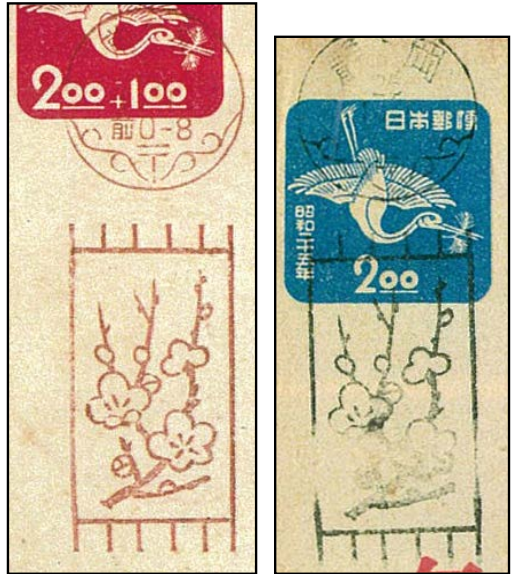
行徳 国宏

まえがき

郵便葉書に引受押印する自動押印機に使用されるインクには、郵政省が表現した用語をそのまま引用すれば、「黒色肉じゅう」と「とび色肉じゅう」とがある。

戦後の郵便葉書や昭和 25 年用お年玉付き年賀葉書の使用済には、とび色肉じゅうを使用した広告入り日付印や年賀図案入り機械印が見られる。

これは、従来から自動押印機に使用されてきた黒色肉じゅうに加えて、とび色肉じゅうが使用開始され、その後併用されることになったものである。その背景と事由及び廃止までの歴史をまとめておきたい。



昭和 25 年用年賀機械印には 2 色存在する

トビ色肉じゅうの使用開始

昭和 24 年 6 月 1 日、旧郵政省は新郵政省と電気通信省とに二分化された。新生郵政省は公共事業でありながら、収益を上げる独立採算制の企業経営を維持しなければならないため、種々の収益事業を考案、実施することになった。

記念特殊切手の発行の他、主題の印肉類に関して、現行使用中の自動押印機の刻印部に利用してきた事業周知用標語に代えて、その刻印部に他企業の広告を入れて収入を計る広告事業を始めることになった。

当局は早々に『郵政省広告取扱規則』（郵政省令第 11 号）を定め、昭和 24 年 8 月 20 日から施行することにした。

従来から使用してきた郵政事業用標語印は黒色肉じゅうであり、新規広告印に使用する肉じゅうにはどんなインク色を使用して区別するか検討がされた。前者の機械印には従来通りの黒色肉じゅうを、広告印にはとび色肉じゅうの使用が決められた。当局では早速、黒色肉じゅうを納入している企業工場に対してとび色肉じゅうインキの追加納入を依頼することになった。

昭和24年12月には広告用自動押印機の部品改造と改造自動押印機の使用方法及びトビ色肉じゅうの送付に関する報道が出された。東京郵政局報と大阪郵政局報とから関連する項目を引用する。

(1) 24年12月23日報道(24年12月23日付け東京郵政局報第58号に掲載の局業第3340号)

(広告用)自動押印機の部品改造ならびに使用方について

広告業務の取扱に伴い自動押印機の刻印を広告の媒体として使用することになったので、その広告効果を大ならしめるため、自動押印機の部品及び使用方を左記のように改められたから、…所期の効果を挙げるよう特に配慮されたい。

1 部品の改善について、

- 1.1. 局名印と刻印との関係位置を上下転倒した。
- 1.2. 従来の刻印の長さ20ミリメートルを30ミリメートルにした。
- 1.3. 従来使用してきた「黒色肉じゅう」を「とび色肉じゅう」に改める。

2 改造部品の使用方について

- 2.1. 年賀特別郵便物に引受消印には、自動押印機による梅花の図案入り刻印を使用する。
- 2.2. 一般郵便物消印用の自動押印機は、左により新型ハブに取り換え左の区別によりその刻印を使用する。
 - (1) 主要局には年賀状差出勧奨用刻印を近く送付するから到着した局は新型活字ハブに取り換え同刻印が使用できるようにする。なお、同刻印の使用期間は12月25日までとする。
 - (2) 近く別に送付する事業周知用等の標語入刻印は、広告用刻印および年賀用刻印を使用しない場合に従来の波型刻印に代え、そのいずれかを常時使用するものである。

3 肉じゅうの使用方について

- 3.1. 従来の黒色肉じゅうから、とび色肉じゅうに切替える時期は、追って通報する。
- 3.2. 年賀特別郵便物には従来の黒色肉じゅうを使用すること。

4 部品等の調製模様について

- 4.1. 新型の活字ハブ、とび色肉じゅうおよび梅花図案入りの刻印は普通局には…交付済みであるが特定局は近く送付する。
- 4.2. 年賀勧奨用として「平素の御無沙汰は年賀で」の刻印は主要局に近く送付するが、この外に「郵便物には配達局名を」「名あては正確に」「各戸には門札を」の3種類の標語入刻印は中旬までに発送できる見込みである。」

(3.1 と 4.1 中のアンダーラインは筆者による。)

(2) 24年12月28日報道

(24年12月28日付け大阪郵政局報第74号の「通達」資需二第153号から、トビ色肉汁に関する個所を以下に箇条書きする。

「本期年賀用及び25年用活字類は、先の通達送済又は取運び中に付了知せられたい。

1 広告用 (別途命令発行済)

(品名) 広告用鶯色肉汁

(配布先) 押印機使用局

(発送状況) 12月10日発送済」

(アンダーラインは筆者による。)

上記の、東京郵政局報と大阪郵政局報によると、とび色肉じゅうインキは12月中に配付済みであることが分かる。他の地方郵政局にも同じように配付されていたと判断している。

とび色肉じゅう印を使用した局では、12月中に発送された梅花図入りの刻印を押印機に装着して通達があり次第、その色で押印できるよう準備していた。そして、一部の局で、通達を待たずにとび色肉じゅうの梅花図入りの刻印を使用した例を見かける。

(3) とび色肉じゅう日付印のフライング使用

各地方郵政局では、「広告用とび色肉じゅう」と「梅花図入り刻印」とを押印機使用局（普通局、集配特定局）に12月の早い時期に発送した。その使用時期は追って通達するとした。

押印機使用局の中には、新型活字ハブに取り替えるとき、機械印に付着していた黒色肉じゅうを拭き取り、とび色肉じゅうをフェルトローラーに充分浸透させて押印できるよう準備していたところがあったにちがいない。

筆者は東京と大阪郵政局報のみ調べて引用したが、両地方郵政局報には12月中にとび色肉じゅうを使用開始する旨の省令、告示類が見当たらない。他の地方郵政局報でも同じだったのではなかったか。

とび色肉じゅうインキを受け取った一部の郵便局では、とび色肉じゅうインキを押印機に充填して通達の無いまま年賀葉書の押印にフライング使用したのではないかと考えても不思議ではない。梅花図入り印で押捺された25年の年賀郵便物を見ていると、ほとんど黒色肉じゅう印が使用されているが、ごく一部の局でとび色肉じゅう印を押捺したものが存在している。

実際、即売会に持ち込まれた雑多なエンタィアが詰まったダンボールの中から年賀葉書にとび色肉じゅう印を使用した梅花印を見つけ出すことができるからである。前段が長くなったが、とび色肉じゅう刻印の使用始まりである。

図1は24年12月31日引受けの25年用年賀葉書に「郵便物には/配達局名を」標語のとび色肉じゅうを押印したもの。この標語印の12月中のものは初期使用に該当するが、とび色肉じゅう印使用が加わると、さらに希少な使用例に変身する。

図2と図3に梅花図入り刻印を示すが、図2はとび色肉じゅう印で、図3は黒色肉じゅう印である。即売会で「百均」雑エンタィアが入っている箱の中から25年年賀葉書（2種）へのとび色肉じゅう印使用済は見つけ易い。知っているかどうか次第。



図1 東山（右書き）24.12.31
広告印



図2 弘前（右書き）25.1.1
とび色



図3 静岡（左書き）25.1.1
黒色

(4) 25年3月1日

(25年2月21日付け仙台郵政局報第18号に掲載の郵業第700号)

「自動押印機用とび色肉じゅうはきたる(25年)3月1日より使用開始することとなったから、切換に当っては、

1 とび色肉じゅうの使用にあたっては、これをよくかくはんし、フェルトローラーに充分浸透させ印影を鮮明ならしめる…。

2 新型活字ハブととび色肉じゅう及フェルトローラーは各局において既に整備・点検済みと思われるが、この処置模様について再度確認する(以下略)」

とび色肉じゅうは25年3月1日から使用開始されることになった。筆者は年賀切手を収集しているので、年賀切手ととび色、黒色肉じゅう印とは関心を持ってきた。

昭和25年用年賀切手は、年賀郵便取扱期間後に一般の私製葉書に使用されているものが多いから、入手には困らない。図4と図5は25年用年賀切手貼付の私製葉書で、図4は2月18日引受の「名あては正確に」標語の黒色印、図5は3月7日引受の「各戸には門札を」標語のとび色肉じゅう印の使用例である。2通をリーフに並べている。

しかし、年賀切手へのとび色肉じゅう印押捺の3月1日初日使用にはまだ到達していない。本稿執筆中に、『25年3月1日のとび色肉じゅう印初日引受けの紫色旧議事堂葉書を手に入れた!』と連絡があり、併せて掲載の快諾を得た。図6及び右の拡大図は「各戸には門札を」標語のとび色肉じゅう初日印(川田圭史氏所蔵)である。



図4 西成(右書き) 25.2.18
名あては正確に

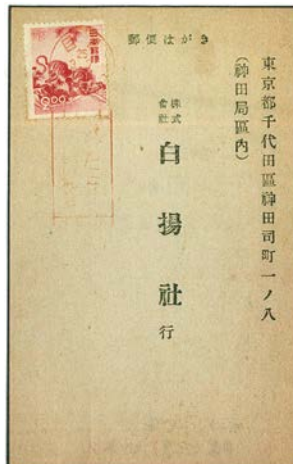


図5 目黒(左書き) 25.3.7
各戸には門札を

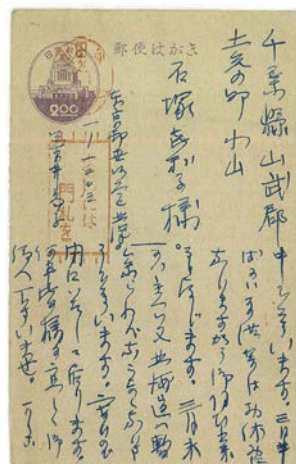


図6 世田谷(左書き) 25.3.1
各戸には門札を(川田圭史氏蔵)

(5) 26 年 6 月 1 日

26 年 6 月 1 日の郵便法、規則及び規程（以下「郵便規則」と書く。）の改正は、戦前の「郵便規則」を新生日本の「郵便規則」に添うように改めて施行された 23 年 1 月施行の「郵便規則」の中で、改正されずに積み残しとなっていた項目を新時代の制度に添うように追加改正して施行されたものであった。その中の一つに通信日付印の改正が含まれていた。

（26 年 5 月 12 日付け郵政公報号外第 17 号に掲載の郵業第 213 号 [郵便法及び郵便規則の改正並びに新郵便取扱規程の制定について] 中の「7 通信日付印関係」の「第 2 種郵便物日付印」で、「第 2 種郵便物日付印の使用局が普通郵便局及び地方郵政局長の指定した特定局となった。この日付印は、使用上支障がない限り、第 2 種以外の郵便物にも使用できる」とこととなった。

そして「(3) 日付印の使用印肉類」の項で、「第二種郵便物日付印（年賀特別郵便物に使用するものを除く。）及び特別日付印の使用印肉類の色はとび色とする」旨が規定された。

（引用個所に付けたアンダーラインは筆者による。）

このことは、26 年 12 月 15 日以降に差出す 27 年用年賀特別郵便物に使用する自動押印機の印色には黒色肉じゅうを使用することでは従来と同じであった。

この新郵便取扱規程施行後間もない頃のとび色肉じゅう印の使用状況に関して、収集家の知らない郵便局内状況が発表されているので、引用してみる。

【挿入資料】「商業広告入り日付印と日付印の肉色」

「(質問番号 983) 商業広告入り日付印と日付印の肉色」の質問が『切手』誌 1970 年 8 月 3 日付けの「切手教室」コーナー (No.391) に投稿されていて、それに対して編集部が丁寧な解答を寄せている。

「問。同封の年賀ハガキの消印(赤坂局 26. 1. 4.) についておたずねします。消印の下に広告を入れたのは何年頃にどこの局で使用されたか、また、消印の色で朱色を使ったのは何年頃かお答え下さい。

問。昭和 28 年の京都・大阪のハガキの機械消印のインクの色が赤茶色を使用していますが、如何なる理由でこの色のインクを使用したのでしょうか。又全国的に使用されたものでしょうか。

答。自動押印機の刻印に商業広告を入れるようになったのは、昭和 24 年 8 月郵政省令第 11 号をもって、[郵政省広告取扱規則] が制定されてからであります。しかし、日付印の刻印に商業広告を入れることは、昭和 27 年 5 月かぎりで廃止されました。

商業広告の入った日付印は、自動押印機の設備してある郵便局ではどこでも使用できるようになっていました。しかし、利用者から広告用刻印を提出して日付印に使用方申出があった場合にかぎって使用しましたので、実際に使用した局の数は限定されております。

次に自動押印機の肉汁の色は、昭和 24 年までは黒色でありましたが、同年 8 月広告取扱規則の公布に伴い、肉汁の色をとび色(赤茶色)に変更されました。

実際に自動押印機にとび色肉汁が使用されるようになったのは、昭和 26 年 1 月頃からであります。局情によって一定していませんでした。広告規則が昭和 27 年に廃止され、日付印の様式も変更されましたが、とび色肉汁は郵便局に相当量在庫がありましたので、そのまま昭和 28 年頃まで使用されました。

しかし、とび色肉汁が使用された期間内におきましても、局情によって黒色肉汁ととび色肉汁とを交互に使用するなど、戦後の混乱期を脱し得ないところもあったようであります。

したがって、とび色肉汁による自動押印機が使用された詳細データは、専門的研究の結果に期待いたします。

なお、昭和 26 年 12 月、新 5 円通常葉書の発行に伴い、昭和 25 年 5 月発行の 2 円通常葉書の発売は中止され、普通郵便局では、在庫の 2 円通常葉書に、昭和 27 年 5 月 24 日付のとび色日付印を押したものを事務用葉書として使用することになりました。この事務用葉書は昭和 27 年はもちろん、昭和 28 年以降にも使用されました。」

（引用個所に付けたアンダーラインは筆者による。）

26～28年までの年賀切手と年賀葉書から二つの機械印の使用例を開示する。まず26年から始めるが、図7は26年用年賀切手で、三條局 26.2.12. のとび色肉じゅう印使用。

27年では、年賀切手から図8は西宮局 27.5.9. のとび色肉じゅう印使用、図9は福井局 27.12.20. の黒色肉じゅう印使用。

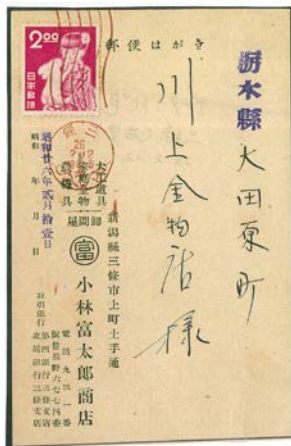


図7 三條成 (右書き) 26.2.12
とび色



図8 西宮 (左書き) 27.5.9
とび色



図9 福井 (左書き) 27.12.20
黒色

「使用上支障がない限り、第2種以外の郵便物にも使用できる」ことから、比較的しっかりした封筒の第1種郵便と小型寸法で軽量の第5種郵便にとび色肉じゅう印が使用されたものがある。

同じ郵便葉書という理由であろうか、外国郵便葉書の引受押印にも使用された例を散見したことがあった。図10は外国用船便葉書に押捺された東京中央局 27. 9.23. のとび色肉じゅう印使用である。

28年から年賀葉書 (つとと日の出) から、図11は会津若松局 28.1.1. のとび色肉じゅう印使用、図12は横浜局 28.1.1. の黒色肉じゅう印使用である。図7～12は昭和26～28年に使用されたものであり、即売会で容易に見つけることができるもの。



図10 東京中央 27.9.23



図11 会津若松 28.1.1 とび色



図12 横浜 28.1.1 黒色

年度ごと、台切手ごと、台葉書ごとに両肉じゅう印を1通ずつ揃えておけばそれで十分であろう。収集品としなければ、記憶に残しておくだけでもかまわない。

(6) 28年10月15日

(28年9月28日付け郵政公報第1012号に掲載の郵業第281号)

「自動押印機の印肉類の変更について

今般郵便取扱規程の一部が改正(公達第106号)せられ、第387条の普通日付印に使用する印肉類の色は、従来とび色であったものを、今回黒色又は黒色類似のものとするに改められ、来る10月15日から施行せられることとなった。なお、選挙有料通常葉書の表示に使用する肉じゅうの色は、従来どおりとび色である…」となった。

28年10月15日から自動押印機に使用する肉じゅうは、黒色に統一されることになったことが判明した。議事堂図案5円葉書を多く見る機会があれば、10月14日と10月15日引受機械印の中からとび色肉じゅう(最終印)と黒色肉じゅう(初日印)を見つけることができる。

ここでは、10月15日に最も近い日に発行された記念切手から現物を紹介する。図13と図14は、28年10月12日発行の皇太子(明仁)帰朝記念切手貼りの私製葉書である。図13は発行3日目のとび色肉じゅう印の最終日引受、図14は同4日目の黒色肉じゅう印の初日引受使用のものである。そして、図15は28年年賀切手(三番叟人形)貼りの、発行10カ月後の後期使用例である。



図13 神田28.10.14 とび色



図14 芝28.10.15 黒色

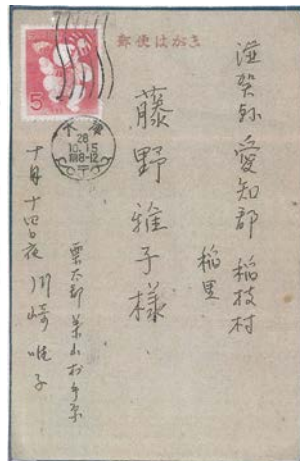


図15 大津28.10.15 黒色

後記

参加している月例の交換会で図15を見つけた。その場のやりとり。

「いくら?この値段は高いよ。」

「年賀切手の後期使用か。じゃあ、〇〇円に負けるよ。」

「か、買った(勝った)。」

文末であるが、採用した図版のうち、過半数通を佐藤克彦氏からと、川田圭史氏とから提供していただいた。記して感謝致します。

参考文献

裏田稔著『日本郵便機械消印詳説』(東海郵趣連盟刊、1957年)

拙書『お年玉付き年賀葉書を集める』(私家本、平成21年1月)

琉球の航空郵便（6）

ハト航空 16 円

木戸 裕介

今号ではハト航空 16 円についてご紹介します。前回の 12 円に続いて、ハト航空 3 種発行のうち最後の切手です。距離別料金で 10000 キロメートル以上の地域に対応します。米国本土、欧州がこの料金にあたり、那覇を起点にもっとも遠い地帯区分です。

入手の難易度を申しますと、単貼の 16 円米国宛はなんとかなります。次に、距離別料金 30 円時代に 14 円分を加貼した沖縄本島発の米国宛使用例。それ以外は難関です。毎度申し上げるとおり、航空増料金時期の 16 円 + 3 円は初期の短期なので難しいです。私は 10 年集めていますが、入手の機会は 1 回のみで、そこで運よく入手できた運びです。図 1 は増料金時期の初期適正使用例です。平凡な那覇局欧文半櫛で米本土宛ですが、入手は難しいと思います。

各額面ですでに申し上げていますが、1950 年 6 月に増料金制から統合料金制に変わります。これ以降、3 円龍頭の基本船便料金は必要なく、16 円単貼で適正になります。



図 1

図2は具志川の半櫛を押した、ニューメキシコ宛の適正使用例です。単貼時期は欧文丸二のNAHAでなんとかかります。沖縄本島とはいえ、小局の半櫛で持てれば収集にも変化がつけられると思います。



図2

図3は距離別料金30円時期に14円分を加貼した米国宛使用例ですが、差出が奄美の喜界島という点で特殊です。消印は鹿児島・早町51.3.8。奄美発の米国宛使用例は少ないので、14円加貼といえども少ないものです。



図3

さて、収集がここまでくると、ここから先が行き詰まります。筆者もハト航空 16 円の入手は 2017 年頃を最後に増えていません。他の額面でもそうですが、郵便量が絶対的に少ない分野ですので、特殊な貼り合わせは少ないのです。

図 4 は単貼の内国書留 2 倍重量便です。書留 10 円に内国 3 円の 2 倍で 6 円です。奄美の古仁屋から名瀬の奄美群島医師会に宛てています。料金がぴったり合う奇跡的な使用例です。同一の単貼が 2 通でしたが、その 2 通しか見たことはありません。

図 5 は為替の使用例です。牧志局で為替の不足料金を徴収した局内原符のようなものです。16 円を 2 枚貼っており、多数貼が少ない同シリーズとしては嬉しい使用例です。牧志局は元々の那覇局であり、先号の 12 円の記事で触れています。これは新しく到着した印類です。

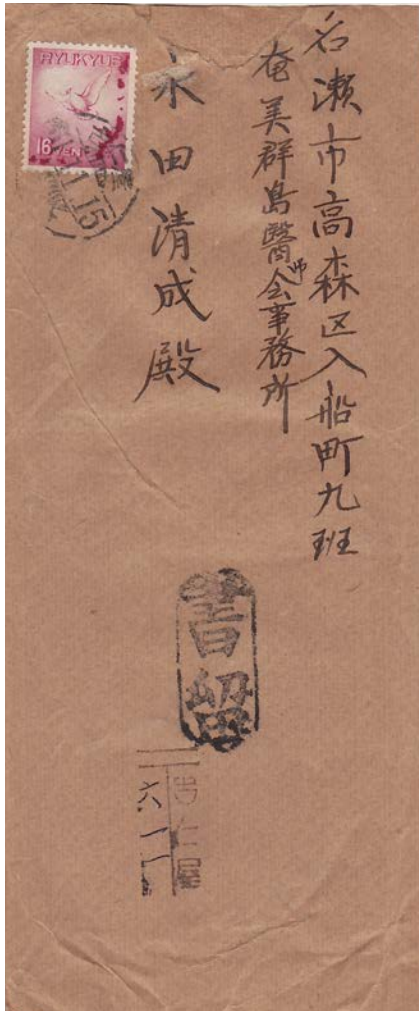


図 4



図 5

最後に図6です。日本宛の離島使用例として、久米島の半割を持ってきました。書留航空便で、23円でぴったりです。那覇で書留ラベルの貼替を行っています。ラベルの下を透かしてみると、久米島533の書留番号がありました。

喜界島の早町の例からも、離島にも高額の16円が配給されていたようです。本力バーの差出人は久米島郵便局長の喜久里教文。持ち込みではないことがわかります。封筒は米軍のものを再利用したようです。

16円の後期使用例もたまたま見かけます。1955-57年位に他のハト航空額面と同じく世良實が作成したものが複数あるようです。

奥行きを与えるのが難しいハト航空ですが、コツコツ集めるのもまた面白いものです。ここまで集めるのは大変でしたが、まだまだじっくり腰を据えて集めていきたいと思います。ハト航空はこの3回でおしまいです。次回からは天女航空をご紹介します。

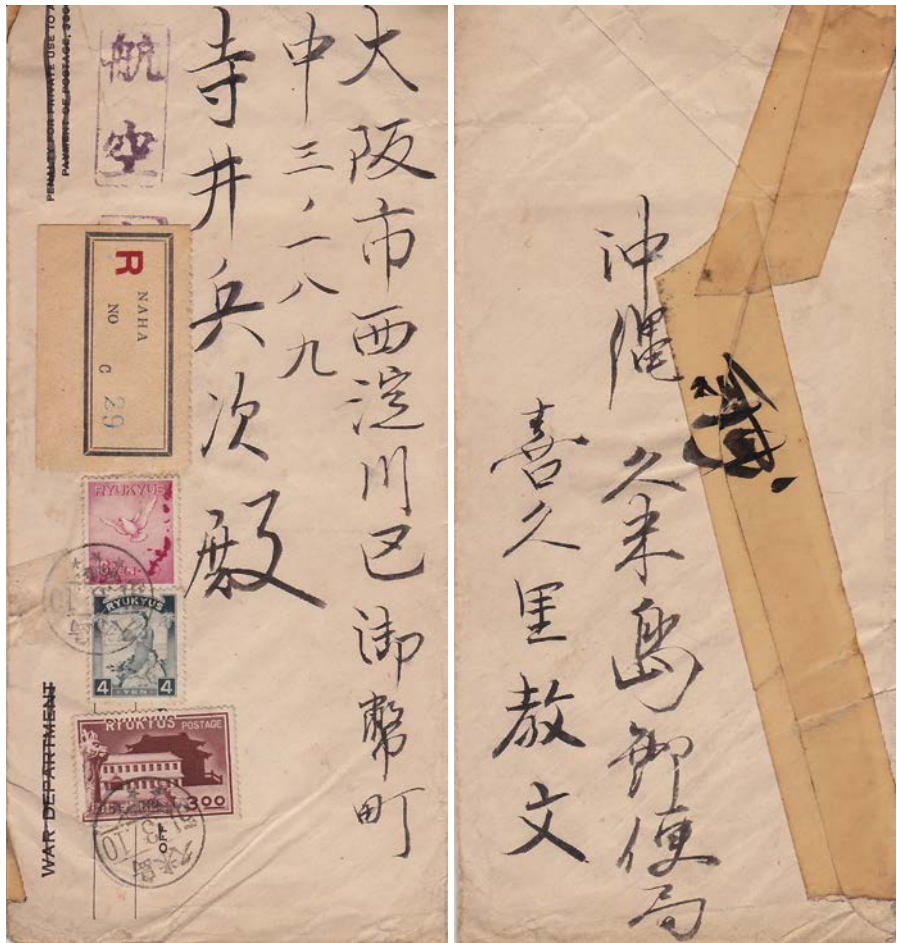


図6

琉球記念切手「琉球政府成立記念」完全シート

猫山 ねこ

琉球記念切手の最難関と云えば1952年発行の琉球政府成立記念（組合カタログNO琉記3）です。この度、この記念切手の極めて状態良いシートを手にする機会がありましたのでご報告します。昨今では琉球切手と云えば使用例や当時のデータ可読な使用済切手の収集が盛んで未使用記念切手のシート等はあまり顧みられる存在ではありません。

しかし、初期記念切手のシートともなると当初の発行数の少なさや50面から100面と云う記念切手としては大きなシート構成であったことなども関連し稀少で、その現存数は決して多くはありません。1951年発行の二点（琉球大学開校、植林）はそれでも現存シート推定数は30-50程度とされていますが、この琉球政府成立記念は発行数が30万枚と先の二点から更に絞られた上、シート構成も100面と大きく、保管上の難しさもあり、アメリカからの里帰り、地元沖縄で残されたものの他、かなり状態の悪いシートを含めても現存数は10点程度とされています。

この記念切手には沖縄列島東方から朝日が昇る図案が採用されていますが、この「陽光」の明るさに強弱がある、との報告を詳細は曖昧なのですが確か以前文献誌面で読んだ記憶があります。恐らく、この分野の専門収集家の間ではよく知られていることと思いますが、この度のシートでも陽光の明るいポジションと暗いポジションのシェード差がよく現れています。

全体にシート左側の陽光は明るく朝日が昇っている印象（カタログにもこのシェードが採用されていることが多い）がありますが右側、特に最右列である、10番、20番、、、100番の陽光は弱く特に50、60、70、80、90番付近の切手では「夜明け前」の印象すら与えます。

またポジション35には「琉球郵便」の「琉」の字付近に定常変種の可能性がある横線が見えます。（図2）



(図2) Pos.35/36



（図1）琉球政府成立記念100面シート

シートの左側は全体に「陽光」が明るく、右側（特に最右列）の陽光は弱い。中でも陽光が比較的明るいポジション4-5、12-13付近と暗いポジション50、60、70、80、90付近との差は顕著です。

和欧文機械印トピックス (第 70 回)

同名局の都道府県名表示開始

水谷 行秀

1990 年 11 月 30 日に石狩深川、胆振千歳、下谷の各局が深川、千歳、上野と局名が改称された。この結果全国には同名の普通局が存在しているため明確に区別出来るよう局名の前に都道府県名を表示することになった。ここでの消印への表示の変更を記すと下記のようになった。

深川	→	東京・深川
石狩深川	→	北海道・深川
千歳	→	東京・千歳
胆振千歳	→	北海道・千歳
上野	→	三重・上野
下谷	→	東京・上野

これらの中で和欧文機械印を使用していたのは変更前で言うとは深川、千歳、下谷である。同年の 10 月 1 日に和欧文印は第 2 期から第 3 期に移行した。と言うことは、これら 3 局の局名変更前の 3 期印はおよそ 2 ヶ月の使用期間しかないことになる。

実際集めてみると、東京 23 区内の局とは言え簡単には入手できない。それでもこれら 3 局の中では下谷が一番手に入り易いだろう。他の 2 局は超難関とまでではないが入手に苦労する存在である。(図 1、2)

また、こういうものは局名変更後のものも押さえておきたい。翌年の 4 月には印色の変更もあるため、黒色の印で揃えておくのがいいだろう。(図 1、3)

ちなみに和文機械印では、深川、石狩・深川、上野の 3 局では縦 6 本波の唐草印を使用していて、この局名改称の際に横 2 本波の丸形へと変更になった。よって改称前の印は以前より使用されていたものであるため、期間も長く希少ではない。

胆振千歳には丸形が配備されていたので、この印は約 2 ヶ月で北海道・千歳と変更となった。(図 4) 下谷は確認出来ていないが丸形が配備されていたとすれば(個人的にはそう予想している)、こちらも約 2 ヶ月の使用期間となる。

参考文献：「STAMP FRIEND」9 号

和文文藝73期

同局名の都道府県名表示開始

1990.11.30.

消印の局名表示に都道府県名を記すのは特定局と簡易局であったが、1990(平成2)年11月30日より全国のどこかに同名の局が存在する場合、明確に区別出来るように普通局でも都道府県名を表示する事となった。これにより(局名変更を含む)東京都内の千歳・深川・下谷局は同日よりそれぞれ東京・千歳、東京・深川、東京・上野と表記された。同年10月1日より和文文印は3期が使用されていたため、3期の千歳・深川・下谷は2ヶ月の使用期間となった。

下谷→東京・上野

深川→東京・深川



1990.11.30



東京・上野 2/90.124 12-18



深川 2/90.10.20 12-18

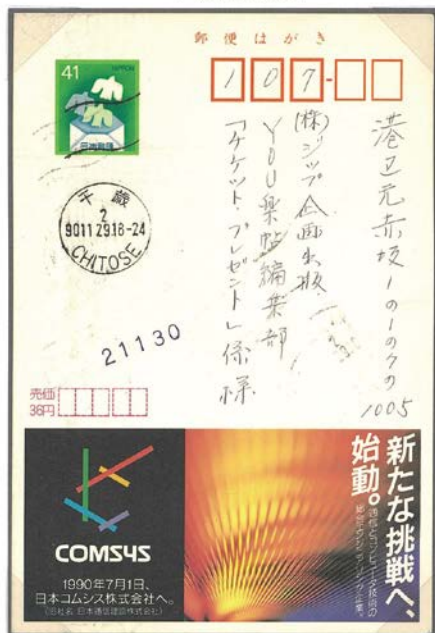


東京・深川 2/90.12.28 18-24

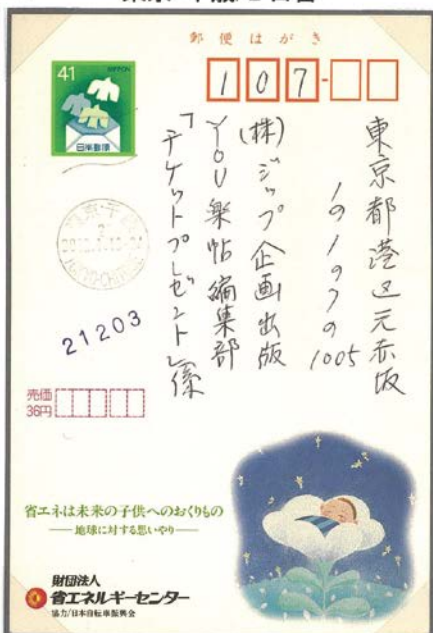
千歳/最終日

1990.11.30

東京・千歳/2日目



千歳 2/90.11.29 18-24



東京・千歳 2/90.12.1 18-24

図1 下谷 深川 千歳リーフ



図2 深川 下谷 カバー



図3 東京・上野 東京・深川



図4 胆振・千歳

スタンペディアの単行本

少数発行が多いので絶版になりがちです。「スタンペディア日本版」会員には優先的に低単価で予約提供していますので、必要な書籍は提供期間中にお求めください。



無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

NEW

和欧文機械印トピックス (第71回)

黒色印の終了と錆桔梗色印への切り替え

水谷 行秀

第65回で書いた通り、汚い消印改正の最終段階としてインクの色を変更した。1991年4月19日をもって郵便開設時より使用していた黒色のインクを止め、翌20日より錆桔梗色へと変更となった。

また、1990年10月1日より和欧文機械印だけでなく和文機械印・和文ローラー印・欧文ローラー印のデザインが一新された。和欧文機械印以外の消印は使用局が多く全国一斉の変更とはならなかった。それでも新しいデザインの印については黒色インク使用が最長で6ヶ月と19日の使用期間となる。半年以上もあるため、黒色の新型印自体が稀少という訳ではない。和欧文で言えば第70回で紹介した都道府県名入りに表示が変更される前の下谷、千歳、深川は約2ヶ月、変更された後の東京・上野、東京・千歳、東京・深川は1990年11月30日からの4ヶ月と20日の使用とやや短くなる。

では、和欧文で3期に入ってから黒色印の終了する1991年4月19日までに使用を開始した局があるのだろうかと考えが廻った方は流石である。その答えは「Yes」であり、1局だけ存在している。その局は多摩局で1991年3月20日より使用した。黒色印使用期間は1ヶ月となる。これは故野村紀夫氏が生前に気が付かれ「東京大学切手研究会40年誌」などに投稿されている。またそこには、氏は入手していないが氏に連絡されていた収集家が1通掘り出したと報告があったことが書かれている。

私もこの組み合わせの存在を知ってから機会があるごとに気にしていたが、現時点で未入手である。最も惜しかったのが3月10日の和文機械印のカバーである(図1)。これは使用開始の10日前であと10日早く和欧文を使用してくれたらと何度思った事であろう。この局はその前年の12月8日時点では唐草印を使用しているのを確認している(図2)。

和欧文ほどではないが、丸形和文機械印と黒色インクの組み合わせは短いものであろう。また手元にある多摩の和欧文で最も早い使用は1991年11月20日のものだが、どう見ても黒色にしか見えない(図3)。かと言ってこれを多摩の黒色印と主張する訳にもいかない。いつかは正式な4月19日までの多摩の黒色印をアルバムに収めてみたい。ちなみに1992年には錆桔梗色となっている(図4)。

ところで、1991年4月20日には全国一斉にインクの色が錆桔梗色へと変更された。この時の郵便局員は大変であった。全ての印の黒色インクを洗い流し錆桔梗色に備えなくてはならなかった。この変更日の事前に本省より専用の洗浄用溶剤が支給された。局員は普段とは異なる作業に閉口しながら黙々と刻印を洗ったのであろう。官白はそれなりに作られているが(図5)、収集家としては初日の一般信を1通入手しておきたい(図6)。



図1 多摩 和文



図2 多摩 唐草



図3 多摩 和欧文



図4 多摩 和欧文錆桔梗



図5 川崎中央 錆桔梗初日



図6 72円 錆桔梗初日

和欧文機械印トピックス（第72回）

黒色印と切手との組み合わせ

水谷 行秀

第65回と71回で書いた通り、汚い消印改正の最終段階としてインクの色を変更した。1991年4月19日を以って黒色のインクを止め、翌20日より錆桔梗色へと変更となった。収集家と言うものは何か変更があったらどうしてもその前後に注目してしまう。特に変更前は、今後原則使用されなくなってしまうのであるから、より注意を払わなければならない。ということで、この4月19日以前に発行された切手は下記の通り。

4月1日	新簡易生命保険制度発足記念
4月5日	ふるさと岡山県 備前焼2種
4月12日	ふるさと佐賀県 吉野ヶ里遺跡
4月18日	ふるさと山梨県 花かげ
4月19日	切手趣味週間2種（見返り美人、序の舞）、同小型シート
4月19日	世界陶芸祭記念

以上8種と小型シート1種である。

これらの中で4月1日に発行された新簡易生命保険と5日発行のふるさとの備前焼2種はそれほど問題無いと思われる。

12日発行の吉野ヶ里遺跡（図1）は消印の種類を問わなければ何とかなる範囲であろうが、和欧文と限定すると少々手こずるかもしれない。

更に問題となるのは18日発行の花かげ（図2）で、黒色印との組み合わせはわずかに2日間。そして4月19日発行の趣味週間2種（図3）と世界陶芸祭に至っては初日のみたった1日の組み合わせである。

この2日間や1日間の組み合わせ期間は和欧文に限らず、どの消印でも黒色印との組み合わせは同じ日数となる。その上和欧文となると使用局数が限られるので更に厄介な存在となろう。

私も長い間探しているが、単片でさえ花かげと見返り美人がやっとで、序の舞と世界陶芸祭の2種が未収。カバーでは花かげ（図4）を早い内に収友に譲ってもらっていた。そして比較的最近別の収友と趣味週間の2種（図5）を交換でやっとゲットできた。

世界陶芸祭のみは和欧文との組み合わせを入手していないし、確認さえ出来ないでいる。世界陶芸祭で現在手元にあるのはCTOの欧文丸型印（図6）と郵趣家便の実郵便（図7）のみである。それでも一般に初期使用の多い記念切手である。和欧文との組み合わせはその内確認出来ると予想している。

一方趣味週間の小型シートはどうだろうか？和文丸形印なら初日カバーなどで確認しているが、和欧文となると存在しているのだろうか？あるとしたらシートを半裁して封書に使用したものであろう。郵趣家便で良いのでお目にかかってみたい。



図1 吉野ヶ里遺跡 黒印



図2 花かげ 黒印



図3 見返り 黒印



図4 花影 黒印カバー



図5 見返り 黒印カバー



図6 世界陶芸祭 黒印

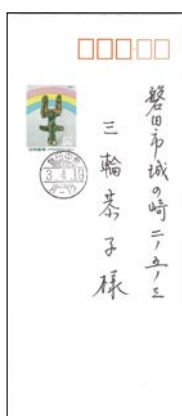


図7 世界陶芸祭 黒印カバー

和欧文機械印トピックス（第73回）

切り替え時の混乱（5）

水谷 行秀

第70回で書いた通り、1991年4月19日にインクの色が黒→錆桔梗に切り替わった。錆桔梗→黒ならばインクを混ぜてしまえば濃い方に引きずられ黒またはそれに近い色となるのでいいのだが、実際にはその逆であるのでそれまでの黒インクは洗浄する必要があった。

実際当局からは専用の洗浄液とともに洗浄するよう指示があり、全ての郵便局にて前日から当日にかけて洗浄が行なわれた。その際に和欧文機械印使用局では2期の印枠を取り付けてその間に3期の印枠を洗浄した局があった。

このタイミングで2期印の印枠の使用が確認されているのは5局。京橋、倉敷、米子、福山東、仙台東である。仙台東以外の4局は4月20日からの使用が確認されている。仙台東のみ4月22日からの確認であるが、これら5局は4月19日から使用したのではないかと考えている。そのうち確認されるのではないだろうか。

ここには京橋、倉敷、仙台東のカバーを図1から3として掲載しておく。残念ながら米子と福山東は未入手である。京橋と仙台東は使用期間も長いので、単片であれば入手は容易。カバーでも何とかかなりそうなレベルかと思う。

1局ずつ見て行こう。

京橋 4月20日から約3か月使用した。（図1）

倉敷 4月20日から5月10日までの確認。約3週間。こちらもカバーにて示す（図2）。

米子 4月20日の使用が確認されている。残念ながら未収でお見せ出来ない。

福山東 こちらも4月20日のみ確認されている。こちらも未収。

仙台東 4月22日より翌年2月4日までの9カ月半ほどの長期に渡っての使用が確認されている。（図3）

これらの印が押された単片も掲載しておこう（図4）。そしてこれらの一覧表を表1として掲げておく。また67回で紹介したものと今回のもの以外の時期にもこのパターンの使用が確認されている。これらについては次回、紹介しよう。

2期・3期混合印使用データ				
形式	局名	使用確認期間		
	京橋	1991.	4.20	- 1991. 7.12
	米子	1991.	4.20	
	倉敷	1991.	4.20	- 1991. 5.10
	福山東	1991.	4.20	
	仙台東	1991.	4.22	- 1992. 2.4

表1 印色切り替え時の2期3期混合印



図1 京橋カバー

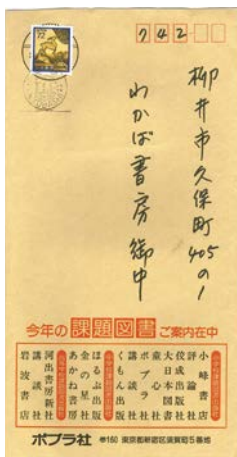


図2 倉敷カバー



図3 仙台東カバー



図4 京橋 倉敷 仙台東

偽造と変造

安藤 源成

新型コロナとオンライン郵趣会のお陰で、今までに蒐集してきた整理していなかったエンタイヤやはがきを見直してみると、こんなものもあったかと、色々興味深いものが見つかり、外室機会が少ない毎日の暇つぶしには最適で、重品整理が、楽しい毎日となっています。

その中で、立派な「偽造」「変造」されたものが見つかりました。手掘り切手等切手の模造品についてはジャパNSTAMPの鯛氏がたびたび報告されています。昔から「騙されて一人前の蒐集家になれる」と言われてきました。通常、高額な偽物を掴まれた蒐集者はその時から蒐集をやめてしまうのが常です。

今日までに、模造、偽造、変造事件・偽加刷は数多くあったが「うやむや」で済まされてきました。その一部の切手は堂々と専門蒐集家のコレクションに入り、エンタイヤ、はがきは郵趣誌にカラーで掲載されているものもあります。

また、偽加刷・変造目打ち切手等はオークションに度々登場しています。高価なものの模造品や偽物を真正なものと信じてコレクションを満たしているコレクターもいます。又、単片上に偽消印を施したものは昔からありましたが最近の切手にも見られ手口は益々巧妙になっています。郵趣品の鑑定は全てが正確ではないので高尚なコレクションを鑑賞し、郵便事情を弁え、考慮してコレクションすることをお勧めします。

今回は手許にある「偽造」「変造」ものを取り上げた報告し、注意を促します。

龍 半銭 カバー

明治7年8月に京都から横浜に宛てた書状で、書状は真正で切手脱落だったため、使用済の印影不鮮明な傷のある龍 半銭2枚を貼って正当化したものですが、左の切手の消印が記番印になっています。差出、到着の◎N1B1 明治七年から、記番印の使用時期でないことがわかります。又、そもそも料金が全く合致しません。

裏面委上上に薄朱色の「賃済」印があるので引き受けた西京局が、金子か物品の「添え書」として「若州 陸運会社」に送ったものであれば郵便料金は市内扱いとなる希少なエンタイヤですが、残念カバーです。(図1、次ページ)

[ad]

全国切手展スタンプックスジャパン2022 (12/21 (火) 出品)

会期:2022年3月26日(土)~28日(月) [3日間]
会場:郵政博物館(東京都墨田区・東京スカイツリータウン内)
規模:90 フレーム
主催:(特非) 郵趣振興協会 / (公財) 通信文化協会

<http://kitte.com/stampex2022>





図 1

墨入りカバー

図2と図3の2通のカバーは、ある方がオークション誌で落札したもので記番印、拇太印共は切手の部分に墨入れされている。

墨入れされたものは多く存在し、オークションの出品者、某切手商曰く「エンタイヤを明瞭にただけで-悪意はない」と言明されたが、落札者は納得がいかず、エンタイヤを小生に託して切手収集界から去ってしまった。



図2
周防・舟木の記番+ KG 朱は希少？



図3 廣島拇太は綺麗なものが少ない。

昭和切手カバー

図 4.5 のカバーは実際に使用されたものであれば大珍品であるが、郵趣知識のある者が自己満足の為に作成したものと思われ、料金も適正で、切手・日付印等も真正であるが、何れも非実郵便、後作成で特に葉書の裏面は白紙である。

Yahoo オークションの初期に出品されたもので、この落札者も切手収集を止めて他の趣味に変わっていった。出品者こそ郵趣界から去っていった。

使用例としては珍しく、実郵便であれば素晴らしい。

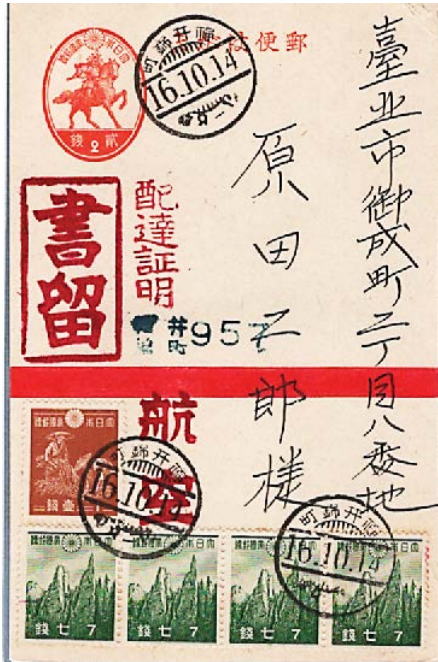


図 4



図 5

小判はがき 5 厘

図 6 が変造で図 7 は真正である。最近、Yahoo で落札したものです。地方の使用例は少なく見場の悪いものが多いが葉書がきれいだったので、変造承知でデーター取得の為落札しました。ちなみに図 7 は真正品です。

加貼の切手が菊 10 銭とは作成者の郵趣知識のなさが丸見え。又、貼替しないにしても、この出品者の度胸のある行為を看過することはできない。出品者は偽造・変造を明記すべきと思います。

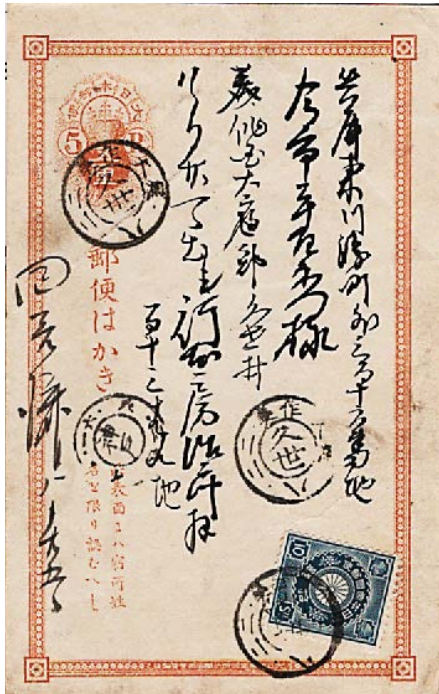


図 6

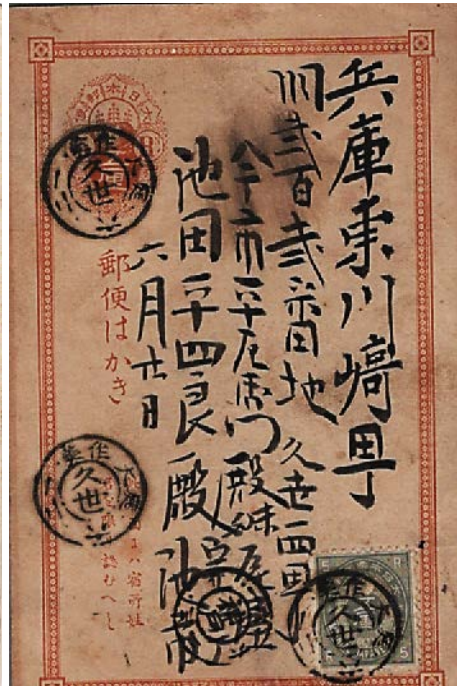


図 7

この他偽造、変造品の偽物はたくさんあるが、整理していた中から見つけたものを取り上げました。岡山県の初期エンタイヤ、はがき、事故印には特に多いので気を付けねばならない。

切手の蒐集はカタログに掲載されている切手を完集し、その上で、個々について詳細（何時、何処で、どの様に使用されたか？）なコレクションを楽しみたい。個々の切手の製造面を知るのも同様。

最近、金儲けに走るコレクターが増え郵趣界のモラルの低下が著しく、高尚な趣味が低床な趣味になりつつある。今後の郵趣界を何とかしなければ・・・先が思いやられる。

嫌われる「フィラトリックカバー」

安藤 源成

昨今、使用済の珍しい消印やカバーに人気が暴騰しているが、残念なことに一般使用に見せかけたものの中には、紙質や筆跡が疑わしい偽物も多い。その一方で、フィラトリックカバーは一般に使用されたものより下に見られるのが常だが、著名な蒐集家が作成した物に疑わしいものはない。これらは後の世代になって珍品として珍重されている。

永年、終戦直後の GHQ 時代の混乱期のエンタィヤーを集め、調べてきたが端数切手の 80 銭・3 円 80 銭の使用済はあるがカバーは見かけない、又それぞれの欧文印も見かけない。外信宛の書状・葉書はなおさらである。

新型コロナで何処にも行けないので家に籠ってコレクションを整理していたら、先輩のコレクションを譲り受けた中に、多宝塔 80 銭、数字 3 円 80 銭の使用例が出てきたので今回取り上げた。いずれも大川如水が如水会の会報を送ったもので第三種郵便である。

80 銭切手は新聞送達が目的で一般使用はほとんどない。昭和 27, 28 年頃、郵便局に .80 銭の小型シート of 束があったのを覚えている。珍しさと安価だったので 1 束買ったが、糊がくっついて、後に石のように固まり手放した。

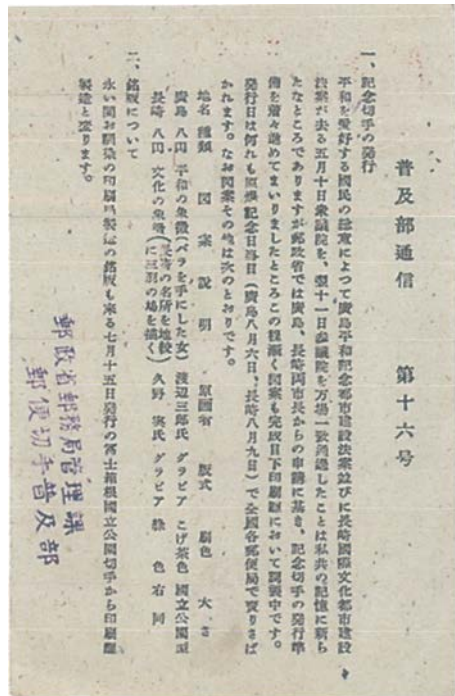
80 銭の 100 枚シートは小さな特定局には無かった。だが、郵趣会では額面で存分に入手できた。しかし、使用済みは自分で作るしかなかった。23 年に料金改正の際に。五重塔 1 円 20 銭に 80 銭加貼の封筒がないか探したが見つからなかったのを覚えている。

3 円 80 銭切手については一般人の使用は全く無くお手上げで、実通便は郵趣家便以外ないと感じるし、郵趣家便でも少ない。今回の物も大川如水が切手を貼付したのではなく受取人佐藤氏が切手を貼付して如水に託したものと思う。如水会員全員に同様の封書で送ってはいない。受取人の郵趣の知識が察知される。



佐藤季雄：鳥城趣味の会主幹。中国郵趣連盟発起人。ゼネラルコレクター。出兵中から三島氏と交流。

当時は葉書通信が盛んで情報を得たい人は発行人に葉書を託していたので葉書通信には面白い使用例が沢山ある、その中の1例を以下に示す。当時のインフレで21年7月の料金改正に合わせて発行された15銭はがきが22年4月1日に50銭に値上げあげされた際に35銭切手が貼られたが、再度、23年7月10日に2円に値上げされた為、一藤田氏が値上げお見込んで手持ちの切手50銭1円を加脂して数枚を切手普及課に託した為、一次昭和の50銭と1円が加貼されこのはがきが誕生した。このはがきはまだある。この様な使用例は一般人には思いつかない一次昭和切手の後期使用例。



麻布 24.7.22 普及部通信第 16 号（郵政省郵務局管理課郵便切手普及部）

藤田静夫：関西郵趣連盟発足時の紀水郵趣会会長（和歌山県）

[ad]

全国切手展スタンプスジャパン2022 (12/21 (火) 出品)

会期：2022年3月26日(土)~28日(月) [3日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：90 フレーム

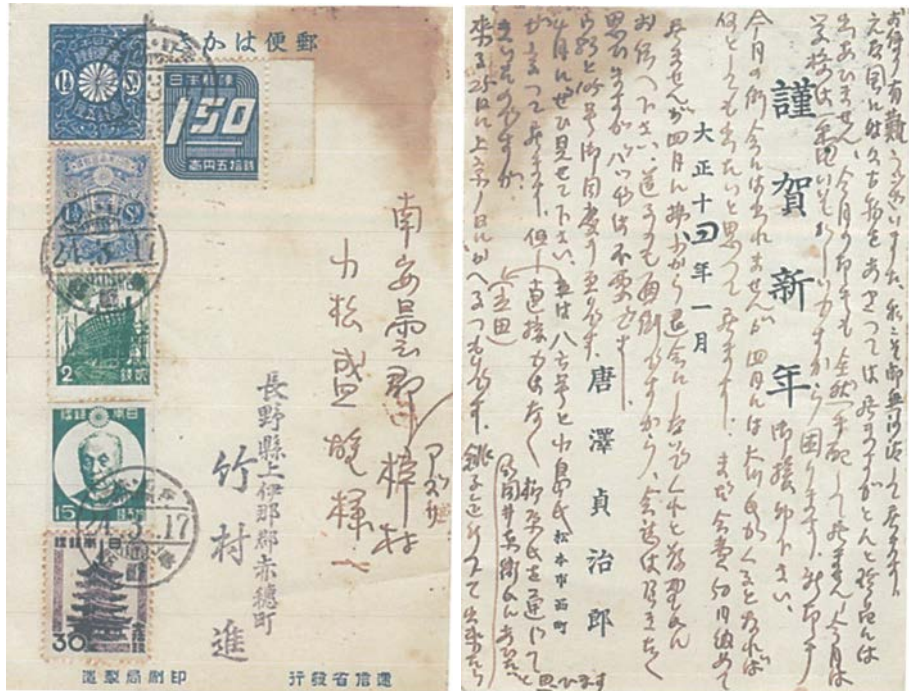
主催：(特非) 郵趣振興協会 / (公財) 通信文化協会

<http://kitte.com/stampex2022>



其の2として、郵種家どうしのはがきを示す。此の分銅はがきは大正4年に発売され、度重なる料金改正を経て昭和24年に大正、昭和戦前、戦後の切手を加貼されて2円はがきとして使用されている。郵趣家ならではの使用例である。

差出人、受取人とも松本の新郵朋会のメンバーである。使用はがきは年賀状の書き損じの有効利用。今日では郵趣家便は見捨てたものではない。一般使用には見られない奇怪な貴重な使用例が沢山ある。はがき通信にはまだまだ面白いものがたくさんあるので順次取り上げたい。



小松盛雄：新郵朋主幹。信越郵趣連盟理事。ゼネラルコレクター、郵便院研究家。

切手コレクション紹介

PHILANIPOON2021 非競争部門 展示作品 付録1 に全リーフ掲載 (5F)

植物切手の魅力

World plant stamps. A collection that incorporates elements of traditional stamp collecting

石田 徹

植物の分類体系順に配列した切手コレクションです。図案によるいわゆるトピカルコレクションですが、伝統郵趣の分類を多く取り入れています。イントロダクションには、世界と日本で初めて発行された植物切手にも触れています。

図案別収集というと、切手の図案のみに分類の重きが置かれがちで、比較的最近発行された切手で構成される事も多くなるのですが、このコレクションは切手そのものの分類に重きを置くことと、製造面要素のエッセイやプルーフなどのアーカイブ、使用例のカバーなどを含んで構成されています。

国際切手展審査基準は、トピカルから派生したテーマティックに置かれており、トピカル部門はありませんが、単に初心者に取り組みやすいとされるトピカルが、伝統的郵趣の要素を十分に含んだコレクションに発展するということを国際展の機会に示すのも意義があると考え出品したものです。



北ボルネオ発行、タビビトノキ図案切手の分類

なお、作品オーナーのご好意で本作品は全リーフが付録に収められています。付録は「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。入手後は個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

被子植物門
ユリ綱(単子葉植物)
ヤシ亜綱

アブラヤシ属

ヤシ科 *Arecaceae (Palmae)*

アブラヤシ *Elaeis guineensis*

Proof Progress Die Proof



The Progress Die Proof printed by the engraver himself with an unfinished die (original plate) to check the progress of the engraving. Characters such as the face value and country name of the stamp have not been engraved yet. Since the die being engraved is soft, the number of Progress Die Proofs that can be manufactured is limited to about five.

Engraver: Hertenberger, Claude (1912-2002)

彫刻者自身が彫刻の進捗状況確認のため、未完成のダイ（原版）により印刷したプログレス・ダイ・ブルーフ。額面や国名等の文字はまだ彫刻されていない。彫刻中のダイは軟らかいため、プログレス・ダイ・ブルーフの製造枚数は限られ5枚程度とされる。

コンゴ発行、アブラヤシの油抽出図案切手の彫刻過程を示すプログレス・ダイブルーフ

切手コレクション紹介

全日展2021 銀賞受賞作品 付録1に全リーフ掲載 (1F)

<支那>加刷・大正白紙切手

柳川 英幸

<支那>加刷・大正白紙切手は在中国日本郵便局で使用されました。1913年8月31日に2種、10月31日に9種 計11額面の切手が発売されました。そして翌年には旧大正毛紙が発売され、短命な切手でした。この作品は使用済を中心にまとめ、最近報告された定常変種も入れました。支・大白は発行数も残存数も少ない。楽しみ苦しんで約40年かけて集めました。どうぞご覧ください。



9 ページ目

なお、作品オーナーのご好意で本作品は全リーフが付録に収められています。付録は「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。入手後は個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

＜支那＞加刷・大正白紙切手

＜支那＞加刷・大正白紙切手は在中国日本郵便局で1913年（大正2年）8月31日から発売・使用された。次の＜支那＞加刷・旧大正毛紙切手は翌年1914年（大正3年）5月20日より発売・使用された。この為＜支那＞加刷・大正白紙切手（11額面）は短命であり、発行数は普通切手としては少ない。この為 残存数も少ない。

＜支那＞加刷切手は当時の中華民国の各都市にあった在中国日本郵便局で有効でした。日本局の所在地は 上海、芝罘、天津、蘇州、杭州、厦門、漢口、北京等にありました。

この作品は＜支那＞加刷・大正白紙切手の使用済みを手を主にまとめました。最近報告された定常変種を未使用も加えて提示・説明します。

- ・＜支那＞加刷・大正白紙 1 ½ 銭と 3 銭（2 額面 T. 2. 8. 31. 発売）：P. 1 ～ 5
- ・＜支那＞加刷・大正白紙 ½ 銭～ 1 円（9 額面 T. 2. 10. 31. 発売）：P. 6 ～ 16

初日印

1913年8月31日（記念押印）

Tientsin2 (天津・紫竹林出張所)



両切手とも櫛型目打 13 X 13 ½：P. 13 X 13 ½

タイトルリーフ

切手コレクション紹介

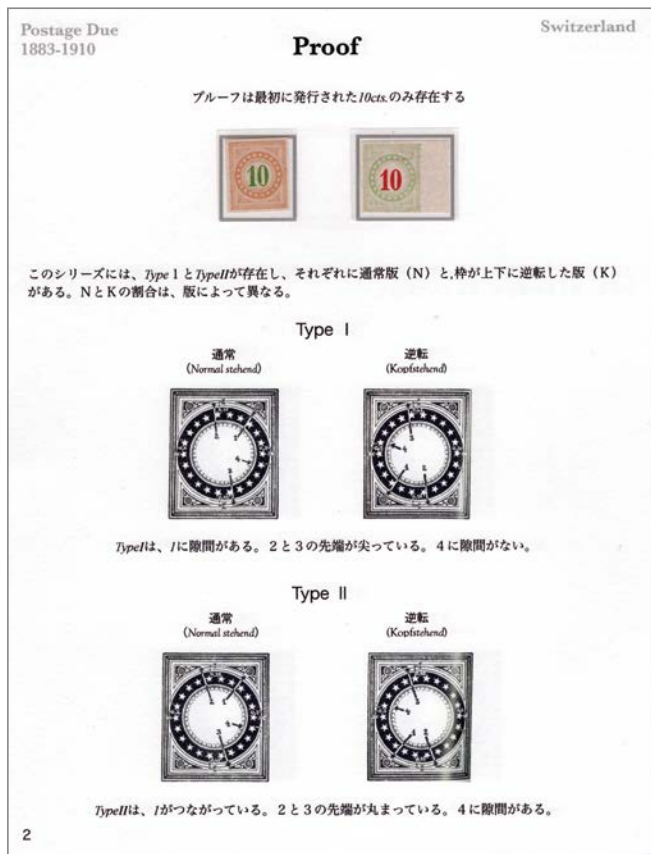
全日展 2021 大金銀賞受賞作品 付録2に全リーフ掲載 (5F)

スイス不足料 1883-1910

有吉 伸人

1883年から1910年に発行されたスイス不足料切手第2シリーズの伝統郵趣コレクションです。同シリーズには26の版が存在し、そのすべてに枠の図案が上下逆転した版があるなど、製造面の多彩さが特徴です。本作品では全8額面について、外見上判別できるすべての版を展示しました。

また、使用面に於いては、バイセクトカバーなど内外からの変化に富んだカバーを選び、郵便料金や逓送ルートを示しました。なお、リーフ左上に1883-1909と記されている頁がありますが、正しくは1883-1910です。



2 ページ

なお、作品オーナーのご好意で本作品は全リーフが付録に収められています。付録は「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。入手後は個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

スイス不足料 1883-1910

【展示の目的】

この作品は1883年から1910年に発行されたスイス不足料切手第2シリーズの伝統郵趣コレクションである。本シリーズには26の版が存在し、製造面のバラエティが豊富である。版ごとの製造面の変化と、内外からの変化に富んだ使用例を展示し、本シリーズの魅力を伝えるのが作品の目的である。

【スイス不足料第2シリーズとは】

未払いの郵便料金などを徴収するために1878年に発行された不足料切手"postage due stamp"第1シリーズに続き、1883年から1910年まで発行されたシリーズ。第1シリーズと枠、数字ともに同デザインであるが、シェードが青から緑(枠)と赤(数字)に変更された。額面は1cts, 3cts, 5cts, 10cts, 20cts, 50cts, 100cts, 500ctsの8額面。紙はすべて繊維紙で目打ちは11²/₃。版は1版から26版までであるが、シェードやすかし等によって外見上版別できる版区分は13で、ツームスタイン・スイス専門カタログではアルファベットによって表記されている(下記一覧表を参照)。すべての版に通常版(Normalstehend, Nと表記)と、枠が上下に反転した逆転版(Kopfsteehend, Kと表記)が存在し版によってはタイプIとIIがある。通常版と逆転版の比率は額面、版によって異なる。タイプIは0.5%と極端に少ない。

【展示のプラン】

8つの額面を発行順に展示。すべての額面について、外見上判別可能なすべての版を展示し、本シリーズの特徴である通常版と逆転版、多彩なバラエティにも力を入れた。版は基本的にツームスタイン専門カタログに従ってシェードやすかしの組み合わせから分類(A-J版)を行い、より詳細な版分類(1-26版)が可能なものはそれも記した。通常版と逆転版の割合も付記した。使用例については、国内便、外信便ともに変化に富んだ使用例を選び、郵便料金、搬送ルートのできる限り簡明し表記した。*ツームスタインカタログの版区分は第1シリーズから通し番号が付けられており、第2シリーズは9版から35版であるが、本作品では9版を第2シリーズとしての"1版"として版番号を付している。またツームスタインではアルファベットの版表記において、すかしが変わる23版以降に再びA版、B版、C版を付与しているが、本作品では第2シリーズ全体で表記を一貫させるため、23版はH版、24版をI版、25、26版をJ版とした。

<参考文献> ツームスタイン・スイス専門カタログ2000

額面毎に存在する版の一覧

発行年	版	***	1C	3C	5C	10c	20c	50c	100	500	発行年	版	***	1C	3C	5C	10c	20c	50c	100	500
1883	1	A			○	○	○	○	○	○	97/98	14	Ga	○		○	○	○	○	○	○
1884	2				○	○	○	○	○	○	98/99	15		○		○	○	○	○	○	○
1885	3	B	II		○			○	○	○	99/00	16	I + II	○		○	○	○	○	○	○
1886	4				○	○	○		○	○	00/01	17	Gb	○		○	○	○	○	○	○
1887	5				○	○	○	○	○	○	1902	18				○	○	○	○	○	○
1888	6	C			○	○	○	○	○	○	03/05	19		○		○	○	○	○	○	○
1889	7	Da		○	○	○	○	○	○	○	04/05	20	Gc	○		○	○	○	○	○	○
90/91	8			○	○	○	○	○	○	○	1905	21				○	○	○			
1892	9	I + II		○	○	○	○	○	○	○	06/07	22	II			○	○	○			
1893	10	Db			○	○	○	○	○	○	07/08	23	H			○	○	○	○		
94/95	11				○	○	○	○	○	○	08/09	24	I	○		○	○	○	○	○	○
95/96	12	E			○	○	○				1909	25	J	○							
1897	13	F	○		○	○	○	○	○	○	1910	26		○							

タイトルリーフ

郵趣振興協会 活動報告（18）

2021 年度 第2Q

2021 年 6 月 8 日～2021 年 9 月 6 日

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

特定非営利活動法人 郵趣振興協会（以下「当協会」と略す。）は、その活動について広く伝えるため、3ヶ月に一度レポートを発行し、電子メール等で正会員・賛助会員にお伝えすると共に、無料でご掲載いただける雑誌媒体に同一内容を提供しております。

全国切手展「スタンペックス ジャパン2022」の開催を決定

全国切手展「スタンペックス ジャパン」ですが、共催の郵政博物館（通信文化協会）ならびに審査委員会（審査委員長：佐藤浩一氏）と、日程・内容について合意を得ることができ、3年連続の開催が決定しました。日程は来年 2022 年 3 月 26 日から 28 日の三日間です。

開催時期が 4 月から 3 月に移動したことで、当協会の 2021 年度決算期間中に 2 度の全国展を開催することになりました。しかし、前クオーターの活動報告でご案内差し上げました通り、スタンペックスジャパン2021に関する当協会拠出金額は、予算 30 万円に対して 94,100 円（32%）に抑えて運営できております。20 万円以上の予算が残っていますので、現時点ですぐに新予算を組まずに当面はこの範囲で運営を進めるよう実行委員会に委ねています。

なお当協会からは、斎享理事が実行委員長に、横山裕三理事が実行委員会事務局長として、本事業に携わります。

詳細は今週金曜日までにホームページで発表するほか、協賛・後援を中心に、郵趣メディアにリリースを送付予定です。この 3ヶ月間に多くのことを決定して参りましたが、全国切手展という催事では公平性が重要なため、本活動報告の発行時点では、正会員・賛助会員のみなさま宛であってもこれ以上の発表が難しい性質であることをどうかご理解ください。そして、詳細につきましては金曜日にホームページなどで発表しますので、どうぞご覧いただければ幸いです。

定款の事務所住所の変更を総会で決定

当協会は、事務所経費節減の為、定款に記載が必要な事務所の住所を、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社（以下、スタンペディア社）の本社住所に置いています。この度、スタンペディア社が移転することになり、それに伴い、当協会も 6 月に移転しましたが、NPO 法人の場合は、定款に定める住所の変更には総会決議が必要なため、7 月 15 日に総会を開催し、これを決議しました。なお、スタンペディア社からは今後も当面の間、無料で住所を使わせていただけるお申し出をいただいています。従いまして本移転によりかかる家賃負担はありませんが、法令の定める登記手続きにより印紙負担が必要となります。

各種事業の進捗について

当協会は5つの事業「エキシビション事業」「フィラテリー必需品サプライ事業」「リサーチ及び研究推進事業」「フィラトリックPR事業」「次世代育成事業」を行っています。当クォーターにおける、各事業及び総務ほかの進捗をご報告いたします。

エキシビション事業

スタンペックスジャパン2022実行委員会（横山裕三 実行委員会事務局長）の立ち上げ
 郵政博物館（通信文化協会）との打ち合わせ
 審査委員会（佐藤浩一審査委員長）との打ち合わせ
 郵博 特別切手コレクション展（2021 年度）の開催を決定。
 9/25-10/24 第8回ヨーロッパ切手展
 11/20-12/23 第4回南方占領地のフィラテリー展
 郵政博物館主催事業への協力
 9/23-11/28 スポーツ切手展 & from 1896 to 2016 への展示作品の紹介

フィラテリー必需品サプライ事業

「ヒンジ・カバー用コーナー・透明マウント」の3品目を最重要対象品とした、Amazon.co.jpにおける供給体制を維持。（本事業は随意契約の形で、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社に委託しています）

リサーチ及び研究推進事業

リーフ作成雛形提供事業の準備を継続中

フィラトリックPR事業

ウェブサイトにおける情報発信を実施（6-8月で28件。対前四半期-40%）
 オンライン郵趣例会 振興プロジェクト（斎享リーダー）の活動の継続
 当協会が、技術および宣伝協力した、オンライン郵趣例会の開催 4団体 23回
 オンライン郵趣例会を開催する切手サークルに対する集客支援方法の提供 2団体 14回

次世代育成事業

特になし

総務ほか

総会の開催・住所の変更（7/15）
 総会決議を受けて、登記変更の準備（対応中）
 日常的な経理業務、問合せ業務への対応

（報告者：代表理事 吉田敬）

日本国際切手展 2021 競争展示特集



写真：入場口の景観を撮影していたら、ボスクマが映り込んできました（笑）。

右下：パシフィコ横浜の入口。恐竜科学博の横で国際展も宣伝されていました。右奥はグランドインターコンチネンタルホテル（公式ホテル）

2021 年 8 月 25-30 日で日本国際切手展 2021（PHILANIPPON 2021）が、パシフィコ横浜で開催されました。十年に一度の国際切手展という事で、これから暫くの間、郵趣雑誌にはこの記事が掲載されることが増えると思われます。会場における新切手の発売や記念印の使用、ディーラーブース・オークションなど中々楽しい企画もありますが、それらは他誌にお任せして、当誌は国際展の根幹である競争展示及びその出品者にスポットをあて、特集を組むことにしました。

さて東日本大震災の影響で参加を取りやめた国もあった PHILANIPPON 2011 から十年が経過しました。日本国際切手展 2021 は日本郵便 150 周年を記念し企画された国際展ですが、COVID-19 流行の影響で残念ながら世界からの出品作品の募集は苦渋を舐めることになりました。

このような状況で国際展を開催するために、当初予定した「世界切手展」を断念し、大陸別国際展である「アジア切手展」の枠組みで日本国際切手展 2021 は開催されました。

金賞以上を狙う出品者にとり、この変更の影響は大きく、その最大のものは受賞結果が国際郵趣連盟のデータベースに掲載されないという点でした。金賞や大金賞を今回初めて獲得しても、またグランプリに選ばれても、それはあくまで大陸別国際展であるアジア展の結果であり、次回の世界展の審査の場では、前回までの賞が審査員には認識される為、今回と同じ賞がつくとは限らないというのは、世界展での金賞（以上）を狙ってきた人にとっては、当てが外れた形となりました。

一方、「次回 8 フレーム出品資格」を得られる大金銀賞を狙っていた人にとって、この変更の影響はありませんでした。これはアジア展であっても、本展覧会で大金銀賞を獲得すれば、次回の国際展（世界展、アジア展を問わず）では、8 フレームの展示権利が得られる為で、本展覧会でも複数の出品者が初の大金銀賞に輝き、次回の世界展では 8 フレームを展示できる権利を獲得しました。

予定通りに行った方も行かなかった方もいらっしゃると思いますが、COVID-19 感染症の流行以来、世界で初めて開催された国際切手展であり、まずは開催できて良かったというのが多くの参加者の本音ではないかと思えます。ちなみに海外からの競争展示（文献除く）は香港、韓国、台湾、モンゴル、ベトナム、イラクからの 17 作品にとどまりましたが、日本からの出品が多く集まり、競争展示のフレーム数は 544 フレームでした。

単にフレーム数だけを見れば、JAPEX などの全国切手展の方が多いのですが、国際展は各国の全国切手展で金銀賞（75 点）以上を獲得した作品でなければ出品自体が受け付けられません。この結果、どの競争展示作品もハイレベルなものばかりでした。

一例をあげれば、人気の伝統郵趣（日本）は、手彫・小判・菊・田沢・富士鹿風景・昭和・新昭和まで震災切手を除けば全てのシリーズが勢揃い。いずれのシリーズも現在のトップコレクターの作品で、戦前の普通切手については全て金賞以上の作品が含まれた状態で一堂に並びました。この水準は史上初で、ここでしか見る事のできない珍品も多数集結しました。

郵便史や外国部門やその他の部門にも見応えのある作品が多数並び、真剣に見れば、毎日通っても足りなかったのではないかと思います。そもそも、出品資格をクリアして国際競争切手展に出てくるレベルの作品の場合、出品者の想いや意気込みは各リーフの隅々にまで表れるのが普通で、1 作品を見ただけでも、受け取る情報量は莫大になります。

それが 544 フレームも続くわけですから、限られた時間で見ようと思えば、自分の収集範囲だけ見ようとか、珍品だけを探そう程度の見方しかできません。会期が6日間も続き、混雑していない状況というのは真剣な参観者にとっては、この上ない好条件だったのではないかと思います。

次ページ以降は、本展覧会にご出品された方からのご寄稿を掲載しています。展覧会が終わり 1 週間ほどの時点でのホットな想いをお伝えします。

【重要】 賞の見方

現在の競争切手展はポイント制の審査競技となっていますが、昔の名残で点に応じて大金賞から銅賞までの賞が授与されます。

右の表を見ると、例えば国際展では 95 点以上を獲得すると大金賞が授与されることがわかります。しかし 95 点以上は完成度の高い限られた作品にしか授与されない点であり、国際展でも数は限られます。国内展で正確な審査を行った場合に、該当セロになっってしまうことも多く催事の盛り上がりにも悪影響の為、日本に限らずどの国も、右表の様に全国展のメダルは一つずつ点数帯のランクを下げて授与することが慣例として行われています。

従いまして、同一の点数を得た作品は、国内展（JAPEX、全日展、スタンパックスジャパン）では国際展より一つずつ上のランクの賞を得られることになります。



展示会場の様子 人はまばらだったが、コロナが原因ではなく、過去も展示を見る人は限られていたかも…

得点	国際展	全国展
95-	大金賞	大金賞
90-	金賞	
85-89	大金銀賞	金賞
80-84	金銀賞	大金銀賞
75-79	大銀賞	金銀賞
70-74	銀賞	大銀賞
65-69	銀銅賞	銀賞
60-64	銅賞	銀銅賞
55-59		銅賞

伝統郵趣（日本）部門 大金賞受賞

ナショナルグランプリ

オリンピックと私

山田 祐司

何年か後にこの記事をお読みになった方のために、東京 2020 オリンピックについて最初に触れておきます。2019 年末から流行が始まった新型コロナウイルス感染症は猛威を振るい、2020 年 7 月に予定されていた東京オリンピックは 1 年延期となりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症は、デルタ株が猛威を振るい、収まるどころかいまだにパンデミック状態です。結局、東京 2020 オリンピックは 1 年延期して開催され、日本は 27 個の金メダルを獲得しました。

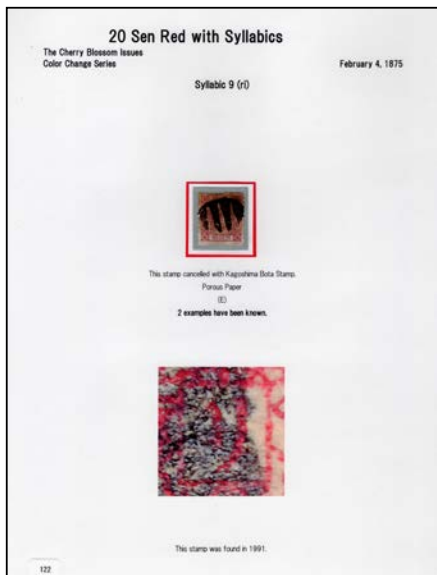
PHILANIPPON2021 に応募しようとしていた私は、東京 2020 オリンピックが延期された後も、1 年後には何とかなるだろうと思っていました。しかしながら、PHILANIPPON2021 が開催されるかどうかは、直前になるまで連絡がありませんでした。

海外渡航が制限される中、海外から来る観客どころか審査員すらも日本に来ることが難しい状況になりました。PHILANIPPON2021 は、海外審査員は Web 審査をすることで、アジア展として開催するとの連絡が入りました。新型コロナウイルス感染症に翻弄されたとはいえ東京 2020 オリンピック同様、開催ができたことは喜びに堪えません。2012 年私が竜 500 文額面逆刷を手にした私は、この 9 年間 PHILANIPPON2021 出品を目標に収集を続けてきました。たとえアジア展にはなったとはいえ、PHILANIPPON2021 が開催できたことは、参加者からすれば、感謝の気持ちでいっぱいです。この紙面を通じて、関係各位に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

幸い私はナショナルグランプリを獲得することができました。PHILANIPPON2021 出品を標準に合わせて収集を続けてきた私としては、目標が達成されました。これまで 10 年に一度国際切手展を開催してきた日本は、おそらくもう 10 年後 PHILANIPPON2031 が開催されることでしょう。

私の手彫切手コレクションは、谷喬先生のコレクションを基本にしています。谷先生のコレクションを引き継いだことが大きな進展になりました。切手コレクションは、引き継いでいくものだという気持ちが私の中に強くあります。目標を達成した私は、今後手彫切手コレクションをどなたかに引き継いでほしいと思っています、10 年後 開催されるであろう PHILANIPPON2031 では、おそらく竜 500 文額面逆刷を含んだコレクションがナショナルグランプリを獲るものと思われます。

東京 2020 オリンピックで金メダルをとれたアスリートも、私同様達成感を感じ、今後の次の目標を立てていることと思います。今後どなたが私のコレクションを引き継いでくださるのが、楽しみです。



500 文 Inverted と並ぶ手彫の珍品 20 銭「リ」

Kingdom of Prussia 1850-1867

伝統郵趣（外国）部門 大金賞受賞 インターナショナルグランプリ ゼネラル収集の末に

吉田 敬

2011年のPHILANIPPONが国際展初参加だった私の十年前のメイン収集は、一種一枚のゼネラル収集。世界中から切手を大人買いしてFMを聴きながら頭を空っぽにして図入リーフに切手を埋め、疲れたら寝転がるという子供時代からの夢をかなえていました。それなのに10年後には全く違うフィラテリーに没頭しているとは…。我ながら驚きです。でも百年以上の歴史のある欧米のフィラテリーの結晶といえる「競争展」にはそれだけの魅力があると実感した十年間でもありました。

収集方法が変わると同時に、他の収集家との関わり方にも大きな変化がありました。海外にいたこともあり、私は2007年に切手を集め始めると同時に海外の切手展を参観しています。でもゼネラルコレクターだから競争展の見方も分からないし、興味もなく、ひたすら切手商ブースをまわっていました。だから全国展で展示を見ずにブースを見て回る人の気持ちはよくわかります。

切手サークルに入会しようとも収集家の友人を作ろうとも考えず、WIPA2008などは半日参観して残りは観光して過ごしていました。今考えたらオーストリーまで行ってたいへん勿体ない話ですが、最低限見方の知識がなければ競争展は楽しむことができないのですから仕方ありません。

日本で初めてフィラテリストの集まる懇親会に参加したのはPHILANIPPON 2011出品者の懇親会及びパルマレスでした。それ以来色々なところから呼ばれる様になり、参加した懇親会は数え切れないほどですが、十年前出品していなかったらその様にはなっていなかったかもしれません。

ところで、十年前の国際展に出品した作品「ドイツ帝国成立までの諸侯の切手（German States before German Empire）」は、今の私が審査員なら75点と採点するところを85点を頂いてしまい、8フレーム化の権利を得ました。一度きりの記念出品ならこれでハッピーエンド（良い方の誤審）ですが、上位賞を追求しようとするとうるさく苦勞します。国際展のルールをろくに勉強もせずに作った作品が良い点を取れないのは当たり前ですが、当初の私はそんな事も理解できていませんでした。

そこで、その作品作りは2016年のニューヨーク展を最後に止めることを決め、その後はドイツステーツの一つであるプロイセンに絞ることに決めました。決めてからは、過去の作品や存在する珍品の把握をした上で珍しいマテリアルをオークションで落とし切るのはもちろん、審査規則や他の作品から学ぶことを繰り返しました。この作品はコレクション買いをしたわけではないにも関わらず、取組3年という極めて短期間で2018年に大金賞に到達しますが、その背景には正しい戦略があったと思います。

ところが、この賞の獲得により、それまでライバルが居らず、オークションで欲しいものはなんでも落とし切ることができたプロイセンのマーケット環境が激変します。しかし値段が高くなったことで、何十年もマーケットに出てこなかったマテリアルの入手機会が増えたのも事実です。

今回のコレクションには、この3年間で入手できたマテリアルを大量に加えることができ、グランプリを頂けたことはありがたいと感じております。しかしながら、このグランプリはFIP展ではなくアジア展のそれであることは、ゆめゆめ忘れてはいけないとも感じています。

今後も狙っているマテリアルの入手を待ち続けると共に、研究を続け、審査規則を勉強し、より完成度の高いプロイセンのコレクションを形成していきたいと考えています。

France Definitives 1849-1862

伝統郵趣（外国）部門 金賞受賞 感謝を込めて

有吉 伸人

PHILANIPPON 2021 において過分にも金賞＋特別賞をいただきました。この数年間、目標にできた8フレームでの金賞を獲得することができたのは、様々な先輩方、収友のみなさんからの的確かつ暖かいご指導、アドバイス、激励のおかげです。この場をお借りして、心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました！

お世話になった方は数えきれませんが、なかでも、佐藤浩一さんと吉田敬さんからいただいたご指導は何にも変えがたい貴重なものでした。感謝を込めて、自分の作品作りを振り返ってみました。長文拙文をお許し下さい。

私はいわゆる「復活組」です。再開してから10年以上一人で好きな切手を集めていましたが、2015年の春、吉田敬さんが始めた「アルプス・ヨーロッパ切手の会」に入会したことがきっかけで、多様な切手の楽しみ方を知ることになりました。その1つが競争展への出品です。

吉田さんからいただいたリーフのファイルを使って見よう見まねでリーフ作りを始め、競争展に初出品したのが2015年のJAPEx。「Napoléon non lauréat-France 1852-1863」と題しフランスクラシックのナポレオン3シリーズを5Fにまとめた作品でした。その時、望外の賞をいただいて舞い上がってしまい、夜の懇親会で「国際展めざします！」と口走ってしまったことから、無謀な“世界への挑戦？”が始まったのでした。

その後、改善を重ねて、2016年にFIAP展のChina 2016、2017年にFIP展のBandung 2017に5Fで出品し、こちらも幸運なことに金賞をいただきました。とにかく出来すぎなのですが、自分なりに分析するとナポレオンは入手しやすい切手なのに1850年代発行で立派に見える、そしてリーフにまとめるとシェードが美しく“見栄えがする”ためか、期せずして、めちゃくちゃ競争展向きの“戦略的な”分野だったのかもしれません。加えてフランスの古いところを伝統郵趣部門で出品する人が極めて少ない、というよりほぼ皆無であることから、実力以上に評価していただいた気がしています。

次に目指すのはいよいよ8F化です。ところが、多くの方から「ここからが大変だよ」「急いで8Fにして薄味の作品で出品したらLV以下になる。そうするとGに戻るのには相当難しいよ」とサジェスションを受けました。どの人もどの人も口を揃えて同様におっしゃるので、「そ、そ、そんなに8Fは大変なのか!!」とショックを受けましたが、その壁の本当の高さを当時の自分は全くわかっていませんでした。そして、それをご後、数年にわたり嫌と言うほど思い知ることになります。

フランスのクラシックの場合、製造面の変化が少ないため、切手のボリュームを増やすのが難しいというハードルがあります。カバーで増量すれば伝統郵趣として評価が下がるのは必至ですから、どうやって作品を充実させながら3F増やすのか。悶々と悩んでいたところ、佐藤浩一さんから「ナポレオンの前のシリーズのセレスを伸ばしてはどうですか」という思いもよらないご指導をいただきました。ナポレオンはカバーも切手も豊富に残っており、時間をかければ何とか作品を作れました。しかし、ファーストイシューのセレスは未知の世界です。バンドン展のクリティークで審査員に「8Fに向けてセレスを加えることをどう思うか」と聞いたところ、「やめとけ、やめとけ」という反応でした。吉田さんに相談すると「さすが佐藤さんですね」という謎めいた答えが返ってきました。

とにかく、まずは実物を見てみようと思案面のシェード違いとカバーをいくつか入手しました。そして簡単なリーフを作ってみたところ、びっくりしました。たまたまいといいますか、品格といいますか、なんともいえない雰囲気があって、私はすっかりセレスに惚れ込んでしまったのです。もうこれはやるしかないと思悟?を決めた瞬間でした。

とはいうものの、サラリーマンコレクターには当然資金に限りがあります。それまで集めていた他ジャンルのものを手放して軍資金を作るのと同時に、少しでもコスバの良いマテリアルを入手すべく、フランスはもとより、他の欧州諸国やアメリカ、南米の切手商のオークションサイト、そして ebay や Delcampe を見まくりました。

欧米のセレブとオークションで張り合っても勝ち目はないので、無理はせず、手の届く範囲でオークションに挑戦し続けていると、ごく希ですが、欲しいマテリアルが最低値近くで落ちてくるようになりました。これは推測ですが、フランスクラシックの一定以上のランクのマテリアルには“競争”はあるもののそれほど多くのコレクターが群がっているわけではなく、同時期に注目のマテリアルの出品が重なると、一部に競争が起きない「エアポケット」状態が発生するのだと思われます。これなら、私にも時にはチャンスがあるかもしれません。またフランス国内の主要オークションはほとんどがメールオークションなので、場で競りあって値がががが跳ね上がると言うことがあまりありません。最低値から少し上乗せのケースが多いので、低い最低値を見つけ出し、粘り強く“エアポケット”を拾っていく作戦で行こうと決めました。作品の中でもお気に入りのセレス 25 c 青のテートベッシュカバーや最高額面 1 F 3 枚ストリップ貼りの仏領マルティニーク差し立てカバーは最低値で入手できたものです。

また、おっと思う逸品がアンソールドになっているケースにも遭遇しました。私のコレクションの目玉である難関額面セレス 15 c の最古カバー（現存一点）はコリンフィラのネームセールで残っていたもので、吉田さんにオークションニアとアンダービッドの交渉をして頂き、入手が叶いました。どれもただただ幸運に恵まれたとしか言えません。それから、アメリカの小さなオークションサイトなど欧州の主要ディーラー以外のところに出てくる“掘り出し物”を狙うことも意識しました。10c テートベッシュカバーはアメリカの切手商のオークションでびっくりするような値段で見つけたものです。



アンソールドで入手したセレス 15 c の最古カバー

この時期を振り返ると、かなり無理をして頑張っていたなあと思います。というのも、翌年、ブラハでFIP展が開かれることになっており、是非そこに8Fを出品し、妻と共にブラハを訪ねたいと思っていたからです。

ブラハに向け、初めて8Fをまとめたのは2017年のJAPEXでした。スタンプレスカバーで0.5F、セレス1.5F、ナポレオンは1F増やして6Fという構成でした。これをもう少し改善してブラハへGo！という魂胆だったのですが、会場で作品を佐藤浩一さんに見て頂いたところ、「短期間によくセレスを増やしましたね」という優しいお言葉に続いて「まさか、これで国際展に出そうと考えているわけではないですね。自分が審査員なら85, 86点をつけますが…」とのこと。冷や汗が止まりませんでした。「以前のナポレオンは目立つところにブロックがあって、全体にボリュームがあったのに、セレスが薄味なのでその良さが全く消えている」というご指摘もいただきました。ブラハへの出品をすっぱりあきらめ、2020年のロンドン展に向けてマテリアルの増強にじっくり取り組もうと目標を切り替えました。

やはり伝統郵趣作品で効くのは目立つブロックですよね。それはわかっているものの、クラシックのブロックはそう簡単には買えません。どこに置けば、目をひくのか。とにかく目立つ場所に置けるものの入手を優先する作戦を立てました。たとえばセレス10cは現状3Fの最下段で目立たないのでスルーと割り切りました。

もうひとつコツコツ続けたのが、クラシック切手の特徴である印面のバラエティを使用済みで拾っていくことです。サイトに掲載されている画像を拡大し、印面の欠けや点、線の消失などを見つけ出し、リーフの空白を埋めていこうと考えました。ほぼ毎日、ルーティンのように各国の切手商サイトを回り、画像拡大、チェック、画像拡大、チェック。。オークションでは軍資金の残額を見ながら、低い最低値にビッド、討ち死、ビッド、討ち死……。アンソールドの逸品を見つけたときはアンダービッド、アンダービッド……。無駄なお金は使えないので、行くかスルーか、悩んだときには吉田さんにメールしました。「どう思います？」「僕なら行きますね」「ですよねー」。幾度、同じやりとりが繰り返されたことでしょうか（笑）。メールにはいつもはつとるような理由説明が添えられていて、それ自体が私にとっては貴重な学びでした。

2020年のロンドン展はコロナで延期となり、目標は2021年のフィラニッポンに移りました。そこにむけて、大きかったのがスタンペックスジャパンの存在です。（きっと多くの出品者の方が同じ感想をお持ちだと思います）。2020年の第一回スタンペックスジャパンはコロナ禍で開催中止となりましたが、PDFで作品の画像を送るとクリティークを受けることが出来、これが本当に大きな大きな指針となりました。コロナ禍のなか、この取り組みを全力で推進して下さった吉田さんにはどれだけ感謝しても感謝しきれません。

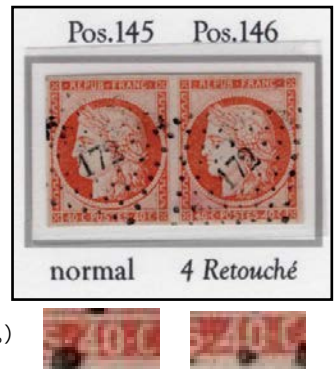
この時送った作品は、スタンプレス0.5F、セレス2.5F、ナポレオン5Fの構成です。詳細なクリティークをして下さったのも佐藤浩一さんで、88点という採点でした。クリティークをまとめた冊子をむさばるように何度も何度も読み返しました。「Gを目指すならば、まずスタンプレスカバーを外すのが最短距離」「伝統郵趣なのにカバーが多すぎる。特に最終フレームは各額面で切手1リーフ、カバー3リーフでバランスが非常に悪い」。

2020年はこのクリティークの指摘にひたすら向き合う日々となりました。まず、審査員が注目する第1フレームをアーカイブとセレス20c黒だけで作りきると決めました。そのために20cのシェード違いのブロックとバラエティの掘り出しに注力しましたが、引き続き運にも恵まれました。エッセイのテートベッシュのブロックがオークションに登場しましたが、高額なため泣く泣く諦めたら、まもなく、別のオークションに、より安い最低値で同様のブロックが出品され、あっさり落ちてきたりとか。この時はさすがに「神ってるかも」と思いました。神ってる時に入手したエッセイのテートベッシュブロック



最終フレーム（ナポレオン目打ちありで4段）で製造面のリーフを増やすことについては、セレスに資金を投入するため、いかにお金を抑えるかを最優先で考えました。ebay と delcampe で印面バラエティ（できればペアかブロック）を探しまくり、なんとか各額面の製造面を2リーフに増やしました。

春のスタンペックスジャパン 2021 の1か月前、忘れられない出来事がありました。セレス 40c の超有名バラエティ “4 リタッチ” の掘り出しです。額面の 40c の4 が大きくリタッチされているもので、ノーマル切手と4リタッチのペアはフランスクラシックの代表的珍品の1つです。カタログ評価は2万ユーロ（もちろん市場価格はずっと低いですが）。出てくるのは基本、著名オークションなのですが、「もしかしたら掘り出しがあるかも」とセレスを集め始めて以降、40c ペアはほぼ全て画像チェックを続けてきました。百回以上、見ています。その4リタッチのペアがついに Catawiki というサイトに出了たのです。最低値 150 ユーロ。普通の使用済みペアとしてもかなり安い値段で、明らかに出品者は見落としています。「誰も気づくな、誰も気づくな」と祈りつつ、締め切り日までビッドしないでひたすら観察。ところが最終日の締め切り数時間前でした。ガーン。ひとつビッドが入ったのです。Catawiki は2番札の1つ上がリアルタイムで表示される方式です。この時点の表示は最低値でどれだけ入れているか全くわかりません。相手の出方を探るため、2度、探りのビッドを入れてみましたが、はねられました。相手はリタッチに気づいているのか、それとも普通のペアと思っているのか。。。深入りせず、あとは締め切り直前に一発ビッドで勝負と決めました。高い値段を放り込んだのでは掘り出しになりませんし、安ければ届きません。悩みに悩んで金額を決め、ぎりぎりまでビッド。数秒後、表示されたのは・・・WIN でした。ビッド金額よりわずかに下の 550 ユーロ。パソコンの前で、思わず「やった」とつぶやいてしまいました。数え切れないほど繰り返してきた “画像チェック” が走馬燈のように脳裏をよぎりました。笑。（大の大人が何をやってんだか。。）



そうこうするうちに、春のスタンペックスジャパン 2021 を迎えました。もうやれるだけのことはやったという気持ちでセレス 3 F ナポレオン 5 F の作品を出品。90 点 + 特別賞をいただいたことで、PHILANIPPON への視界がようやく開けました。

会場で佐藤さんに「可能な限り、カバーを減らしましたが、どうでしょうか」とおそろおそろお聞きしたところ「まだ、多いですな」。そして、「セレスのテートベッシュが増えてくると作品全体の見え方が変わらなう」というお話もありました。

そして、ちょうどこの時期のことでした。セレスの最高額面 1 F のテートベッシュ使用済みペアがオークションに登場したのです。この5年間、オークションに出たセレスの逸品はほぼ全てチェックしていたのですが、1 F テートベッシュが登場したのは2度目でした。1度目は最初から無理だとビッドすらしませんでした。しかし、このタイミングに運命を感じないコレクターはいないのではないのでしょうか。PHILANIPPON はせっかくの日本開催の国際展です。できれば、その時点で自分にとって最良の作品を作り、得点を1点でも上げたいと思い、メールビッドに臨みました。サイトの入札ボタンをクリックするとき、「念」を込めたのは初めてでした。

結果、1 F テートベッシュは無事に拙作品に仲間入りしてくれました。同じ時期にセレスの大家がいくつかオークションに登場したことが影響したのか、大競争にはいならず、1 F テートベッシュは前述の “エアポケット” にすっぽりはまってくれたのです。セレスとナポレオンの4シリーズの中でテートベッシュが存在するのは10額面ありますが、これで8額面が揃いました。未収の2額面はセレス 15c とナポレオン無目打ち 20c。どちらも世界的大珍品で私の手が届くマテリアルではありません。正直、何かひとつ大きな区切りを付けたような気持ちになりました。

そして迎えた PHILANIPPON。会場に行けたのは仕事の都合で土曜の1日だけでした。

日本切手の素晴らしいコレクションの数々に圧倒されましたが、結局、一番長くいたのは自分の作品の前でした（笑）。この後どう発展させていくか、吉田さんをはじめ収友のみなさんと語り合った時間は至福のひとときでした。ずっとご指導を仰いできた佐藤さんからお祝いの言葉をいただけたのも感激でした。

嬉しかったのは 92 点をいただけたこと。バンドン 2017 での 5 F が 90 点。スタンベックスジャパン 2020 が 88 点、同 2021 が 90 点。今回の 92 点はこの 4 年間が無駄ではなかったということでしょうか。ご評価いただいた審査員の皆様に厚く御礼申し上げます。

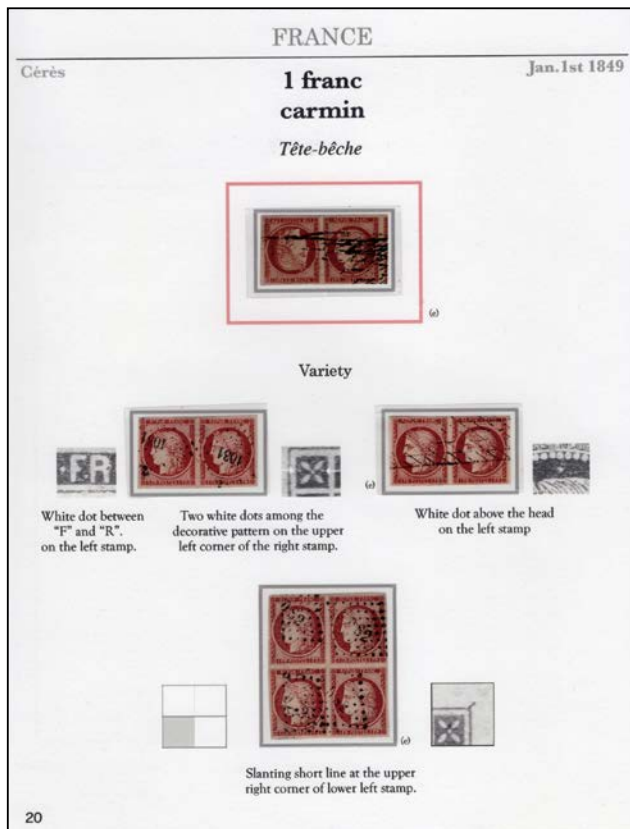
会場を訪ねたその日の夜。ベッドの中でスタンベックスジャパン 2020 の佐藤さんのクリティークの冊子を読み返しました。高いハードルを示される一方で、随所に何気なく記されていた激励の言葉が目にとまりました。こうした言葉に背中を押されていたのだなあとと思い、胸が熱くなりました。

切手収集には様々な楽しみ方があります。その中の 1 つである「競争展への出品」は大人の趣味にふさわしい、生涯に渡って楽しめる高度な知的ゲームだとこの数年の作品作りを通して知ることができました。

その楽しみ方と奥深さを教えて頂いた佐藤浩一さん、吉田敬さん、そして諸先輩、収友のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。

そして、これからもよろしくお願いいたします。



World War II in Asia

テーマティック（文化）部門 大金銀賞受賞 目標の大金銀賞を獲得できて

虎頭 雄彦

今回出品したテーマティック作品の目標は、「LV85 点をいただき、次回から 8 フレーム作品にできること」でしたので、まずはその目標が達成できてほっとしています。これまで改善指導くださった内藤さん 榎澤さん 大沼さんはじめテーマティック研究会の皆様と、審査員の皆様に感謝したいと思います。ありがとうございます。

今回、直前の全日展でのクリティークを生かasetたのが大きかったです。作品の制作時間や公開タイミング等から、国際展に出す直前の国内展出品は悩んだのですが、特に国際展に向けたクリティークをいただけたとのことで全日展に出品しました。その評価は LV84 点、以前の国内展と同点で、85 に至らなかった改善ポイントをクリティークで詳しく伺うことができました。その改善点は参観ガイドに詳しく書きましたので割愛しますが、もし全日展を経ずに国際展に出していたら結果は厳しかったと思います。

今回は国内開催、コロナ禍の特殊な状況もあっていただけた点かとも思いますが、ともあれ 8 フレームのチャンスを戴きましたので、また作品作りに励んでいきます。ただ、枢軸側だった日本視点の第二次世界大戦史の国際展での展開の難しさ（と読後感）もひしひしと感じているので、8 フレーム化にあたっては根本的にストーリーを練り直すつもりです。少し時間がかかるかもしれませんが、ぜひまた 8 フレームになった作品を見ていただければと思います。



Japan Definitive Issues 1914-1925

伝統郵趣（日本）部門 金賞受賞

PHILA NIPPON 2021 に出品して

丹羽 昭夫

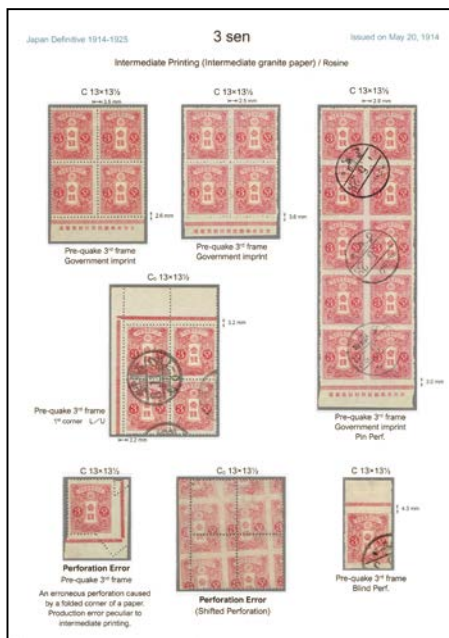
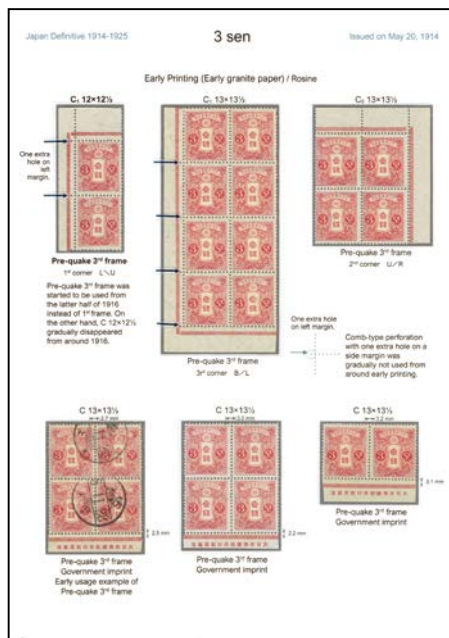
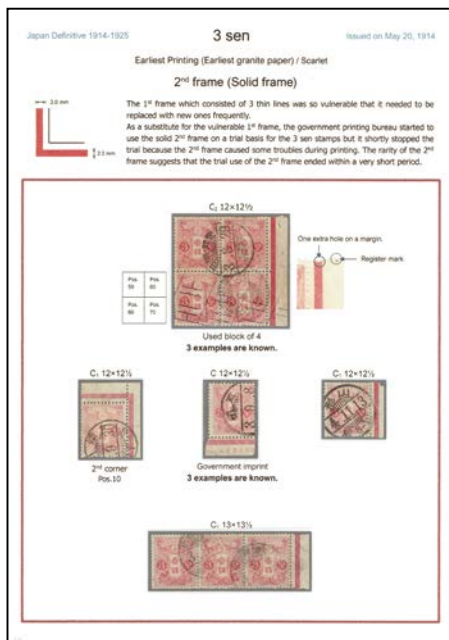
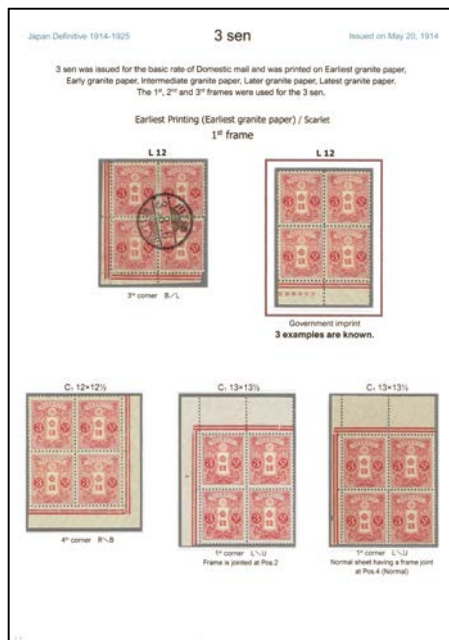
10年前のPHILANIPPON 2011の時は、ただの参観者でした。当時、田沢切手ではLVが最高でGが出ておらず、国際的に見たら田沢切手のインポートランス（当時はその意味もあまり分かっていませんでした）は低いものだと思っていた。なので、作品の構成とかは興味がなく、自分の収集範囲である田沢切手の名品・稀少品を見に行っただけでした。国際切手展は雲の上の存在だったので、出品資格はあったのですが、全く出品は考えていませんでした。

2015年に国内展で大金賞を獲った記念にと国際切手展に出品し、初出品としてはまずまずの賞（LV）が獲れました。しかし次はもっと良い賞（G）を獲れると思いメルボルン展に出品したのですが、国内展の点数がスライドせず、期待に反して低い点数しか出ませんでした。国内展はFIPのルールに沿って審査しているとの事でしたが、国際展との現実のギャップを知ったのもこの時です。そしてリベンジを果たすべく国際展でG（90点以上）を獲るのが目標になりました。元来競技スポーツが好きなので、昨今の競技的な要素が強くなって来ている国際展に、はまったのだと思います。

PHILANIPPON 2021はホームなので、日本では必ずGを獲ろうと思い、ぶっつけ本番は不安なので、その前の海外の国際展でGを獲る計画を立てました。途中88点（LV）と90点（G）の壁に当たりましたが（大抵の人はそうなる）、何とかクリアし2019年の中国の武漢展で目標のGが獲れ、今回のPHILANIPPON 2021に至りました。

自分の考えですけれど、国際展で点数UPする一番の方法は審査員の意見と国際展を頻繁に観に行っている人の話（雑談？）よく聞く事だと思います。「〇〇〇が無い。〇〇〇を入れない。」と言うのはすぐには出来ませんが、「△△△のカバーは汚いから外しなさい。」「シートはダブルリーフに収めない。」「1リーフにカバーを2通入れなさい。」「構成や、リーフの書き込みは×××さんの作品を参考にしなさい。」などは即実行出来るので、やった方が良いと思います。





The streamline of Efficiency and Automation in Japanese Postal Services

郵便史（日本）部門 大金銀賞受賞 国際展初出品を振り返って

水谷 行秀

切手展への出品再開

元々あまり整理が得意ではない、ハッキリ言って苦手な私はリーフ作りも減多にせず収集品をストックリーフなどに突っ込んでおくタイプであった。切手展にはそれまでも大学祭の切手展や現代切手展などに何度か出品した経験はあったものの競争展出品は1999年のJAPEXを最後にしていた。

2016年2月、JAPEX 委員会より企画展示（新動植物国宝）への出品のお誘いがあり、折角なのでそのお誘いに乗ることにした。「新動植物国宝1966年シリーズ」5フレーム80リーフを結果的に平均3回は作り替え、やっとの思いで出品した。結果としてこんな新しい時代の切手で大金銀賞（80点）をいただき満足していた。

フィラリストマガジンに連載させていただいている「和欧文機械印」は2018年に使用開始50年を迎える年であった。「和欧文機械印」で出品するには絶好の機会と思い8フレームにて構想を練っていた。2018年7月の「郵便番号導入50周年展」にお誘いして頂いたのでJAPEX出品のことを考え前史、1期、2期、3期を各2フレームの構成で作品を作り出品したところ吉田氏より3期を減らし前史を増やしたらどうかとアドバイスを頂いた。これに従い急遽前史を3フレームに増やして一番新しい3期を1フレームとした。この修正が功を奏し JAPEX 2018に「自動取り揃え押印機の開発とその使用」のタイトルで出品したところ平成のアイテムを含む作品であるのにこちらも大金銀賞に評価して頂いた（83点）。更に前史と1期に絞り、修正を加えた作品を全日展2019に出品したところ85点で金賞+日本郵便賞を頂くことが出来た。この時からぼんやりと国際展への出品が頭に浮かんできた。

PHILANIPPON 出品を目指して

2019年秋、郵趣振興協会から STAMPEX JAPAN 2020 の出品案内を頂いた。そのコンセプトなどに魅入られ国際展出品を意識しての出品を決意した。今回は和欧文機械印を原則外して、前史の開発部分のみで5フレームの作品とした。元は2フレームであったものが3フレームを経て5フレームである。少々の無理は当然あった。残念ながら COVID-19 の流行で切手展は中止となったが、主催者様の好意でクリティークに替わる審査員のアドバイスと日本人以外の審査員が見たらこうであろうという評価も記された小冊子をいただいた。この評価は85点で国内では金賞、国際展なら大金銀賞である。この段階でこの評価は戴きすぎではないかと思ったくらいである。

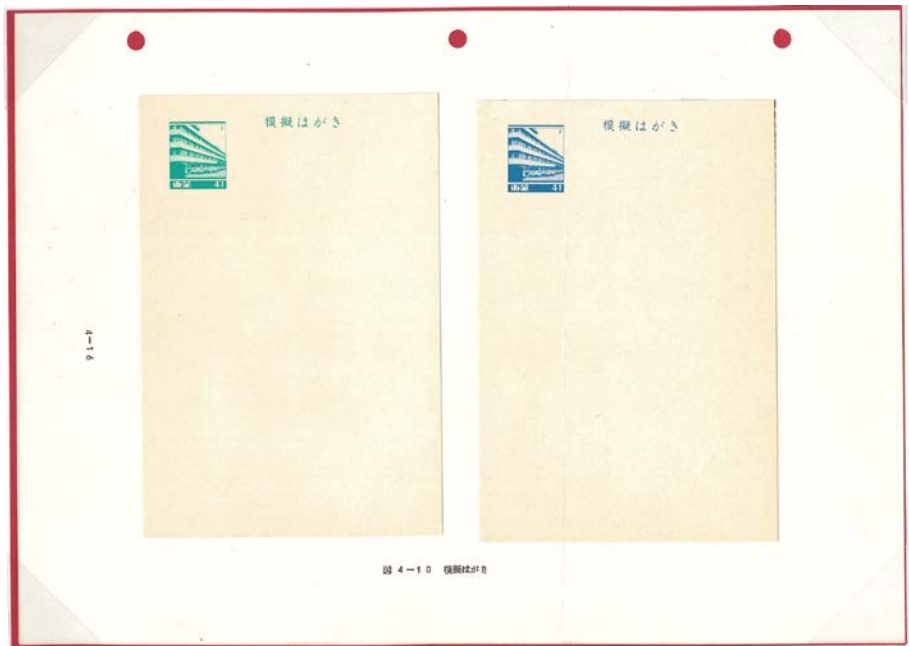
この作品をベースに新規アイテム追加や修正などを施した作品を JAPEX 2020 に出品したところ、こちらでも86点の金賞+JAPEX 委員会賞を戴いた。この時の作品評にあった注意点を修正すべく構成を変えることとした。これまでではどちらかというと時系列を主に、サブに項目別として構成していたが、郵便局での作業「選別」「取り揃え」「押印」「区分け」「把捉」のうち「取り揃え」と「押印」という分け方として構成し直した。

また、時系列的に前後するが、STAMPEX JAPAN 2020 時のアドバイスにはいくつかのポイントがあった。その中で特記すべきものは郵便史でも未使用や写真なども使える出品クラスが国際展では正式に存在していることを示して頂いたことである。JAPEX の規則を読んでも郵便史部門では未使用は原則含めることは出来ないとされている。しかし航空郵趣では航空切手に加えエチケット

yalルートマップ、時刻表を加えることが出来るように国際展では未使用なども使用可能となる郵便史部門に2Cというクラスが既に存在していたのである。

STAMPEX JAPAN 2021 では、これまでのクリエイティブや審査評に従い構成を変え、アーカイブ類を増やし、思い切って発光切手や発光はがきの未使用をタイプ別で示した。これは発光検知の効果を試すために印刷ごとに印刷順序やインクを変えたことを示すためである。アーカイブ類は各種入手したが、特に東芝の色検知の最初期実験に使用されたアイテムを取り入れることが出来た。点数は85点で下がることはなく、そして新たなアドバイスを頂いた。さすがにタイミング的にPHILANIPPON までにアイテム不足などを含め全てのアドバイスを取り入れることは困難であったが、可能な範囲で修正と英訳に取り組むこととした。私は元外資系企業の会社員であったが、15年以上も英語を使わない生活が続いておりすっかり英語力が落ちていることと、当時使っていた単語などと郵便の専門用語が異なりすぎて英訳に非常に時間が掛かった。それでも何とか少々余裕を持って完成させることが出来、期日を待って郵送した。

今年は昨年よりも酷い COVID-19 の蔓延で静岡県にも非常事態宣言が出た。経営する会社の社員にも県境を越える移動についていつも注意している立場もあり参観を断念せざるを得なかったのである。会期3日目の朝、大学の切手研の先輩より LINE に写メが届いた。LV である！目標としていた賞の評価を受け非常に嬉しく感じた。更に後日枝点を含む点数が公表され、87点と記されていた。国内展を含めてこれまでの最高点数である。もう満足以外の何物でもない。届いたばかりのメダルを眺めて感慨にふけている現在である。そう言えば切手展への参観は JAPEX2019 が最後で、それ以来一度も行けていない。今年の JAPEX も諦めているが、来年には参観出来る状況になっていることを期待している。



Republic of China Definitive Stamp 1938-1941

伝統郵趣（外国）部門 大金銀賞受賞

大満足の結果に終わった PHILANIPPON2021

重山 優

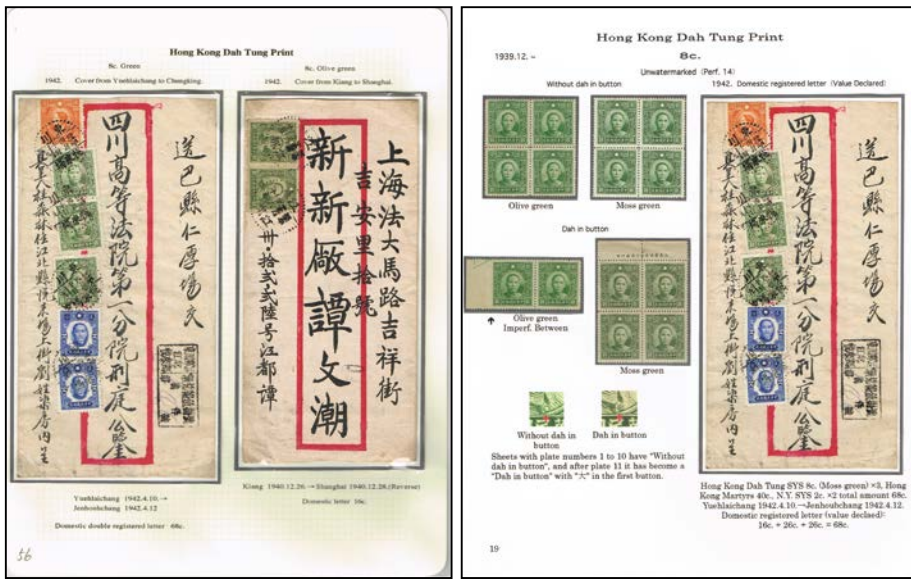
開催3日目となった8月27日午後、ちょうど受賞結果が発表された直後のタイミングで会場に入り、自分の作品の展示を確認したところ大金銀賞であることがわかりました。と同時に小さくガッツポーズを取る私がいまいました。それだけ、今回の大金銀賞は私にとって嬉しいものだったのです。なぜならば、遡ること約10ヶ月前そこにはほぼ出品を諦めていた私がいたからです。

約10ヶ月前、ある方とお話をさせていただく機会がありました。同じ趣味を持つ者同士としてその時話題になったのは当然PHILANIPPON2021のことです。出品する・しないの話になった時に私は、出品は難しいのかなという旨の話をしました。しかし、その方はこういった構成にすればいいのではないかと、ダメ元で申し込みしてみたら？と具体的にアドバイスを下さったのです。最初私は半信半疑でしたが、お話を聞いてゆくうちにひょっとしたら出来るかもしれないと考え方を変えて申し込みをしてみることにしました。

無事に作品の出品が認められてからは、作品作りに没頭しました。まず、リーフは使用するリーフそのものを変更するつもりでしたので全リーフ作り替えです。しかし、現状のリーフをそのまま移し替えていたのでは芸がありません。そのため、マテリアルの追加・入れ替えはもちろんですが、構成・書き込みも見直しながらの制作となりました。

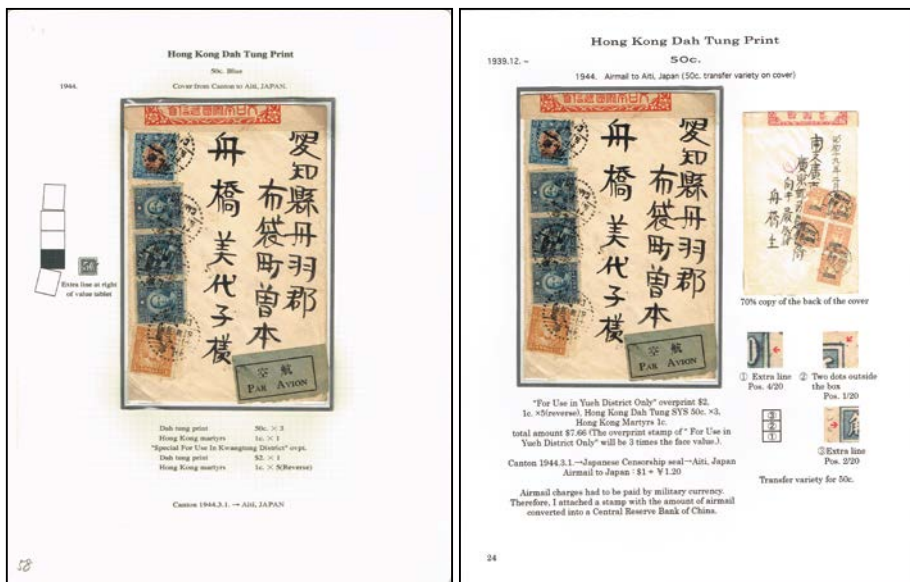
変更点をガラガラと文章で表現しても分かりにくいと思いますので、リーフの画像を使って説明してみたいと思います。まずは、カバーが2通貼ってあるリーフです。このリーフだけ見てるとなんの違和感も持たないかもしれませんが、以前の作品は作品全体に対するカバーの割合が多くなるようにしてカバーの取捨選択を行うかが課題の一つでした。

そこで、2通のうち1通を外し、空いたスペースに切手を配置してリーフを構成してみました。もちろん、カバーのテキストも見直していることは言うまでもありません。今までは切手は切手だけ、



カバーはカバーだけ、というリーフ構成にしていたので「カバーだけのリーフが並ぶと郵便史のリーフを見ているようだ」との指摘を受けていました。そのため、このようなリーフを作ることによってカバーの数を減らし、なおかつカバーのリーフを分散させることによって、カバーの数はあまり多くないと印象付ける効果も狙いました。

もう一つ、具体例をお見せしたいと思います。これはカバー1通だけのリーフです。今度の場合は1通だけです。カバーそのものは変わっていません。しかし、書き込みは全面的に変更しました。以前はこの切手のメジャーな定常変種だけを示しているだけでしたが、マイナーなバラエティーも含めて図示しました。そして、一番変わったのは料金のテキストです。実は、以前のリーフでは正しい料金の内訳が理解できていませんでした。そこで、仕方なく料金内訳については何も書かなかったのですが、今回リーフを作ってゆく過程においてようやく料金の内訳が理解できるようになりそのことを含めて書き込みを行いました。裏面の画像も添付したのでマテリアルは同一でもリーフの印象は大幅に変わっているのがお分かり頂けるかと思います。



ここまで変更点について簡単に説明させて頂きましたが、実はそれ以上に気を付けていたことがあります。それは「余裕を持って早めに仕上げる」ということです。今回、日本開催であり直前の発送あるいは搬入でも大丈夫というのは理解していましたが私の性格上直前に慌てて仕上げていたのでは間違いを誘発させる原因となりメリットはありません。そのため、できるだけ先行してリーフづくりを行い、8月初めには全リーフ完成させることができました。そこから発送までの3週間弱は見直しを行い細かい間違いや足りない所(テキスト)について修正を行うことができました。そして、納得した気持ちで作品を発送(提出)することが出来たのは結果として良かったのではないかと思います。

今回作品を出品し実際に参観することで審査員の皆様をはじめ多くの方からアドバイスを頂きました。今後それをどのようにして反映させてゆかが課題となりますがまだ終わったばかりです。明確なビジョンがある訳ではありません。新しいマテリアルの入手も必要でしょうし、さらに調査は必要な箇所もあります。私の作品のように誰もが見てわかるような希少性(現存〇点あるいは現存〇点の内の一点等)のあるマテリアルが知られていない場合にはそれなりの工夫が必要になってくると思います。そのためいつ頃迄に8フレームの作品にできるかは不透明ですが皆さんのご意見を参考にしながら少しずつ進めてゆくことができたと思っています。

最後になりましたが、私にとって今回の結果は大満足です。その結果をもたらして下さった全ての皆様に感謝の意を表して終わりたいと思います。

Postal History of Chinese Imperial Post 1897-1912

郵便史 (外国) 部門 金銀賞受賞

望外の喜び 初出品で予想以上の賞をいただきました

藤本 博嗣

「ええV?」

池田健三郎さんのブログで賞を知ったとき（それも変な話なのですが・・・実はコロナ禍で主治医から横浜行を止められてしまったので賞がわからなかったのです）、びっくりしました。提出した後、フロントページの間違いを見つけ、「ああプレゼン点はだめだな」と思い、これはLSどまりだろうと思いました。山崎太郎さんのブログに載っている表を見ると、やはりプレゼン点は3点。国内展と同じでした。でも、主題構成・重要性や状態・希少性で点が上がっていたので、少しびっくりしています。

そもそも、このコレクションは、1995年にJAPEXに出品し、SからSBに落ちてしまっただけから25年間、アルバムの中に眠っていたものです。この間、大病を患い、闘病生活を続けたため、切手収集を完全に中断しておりました。健康を回復し、一昨年から収集を再開、JAPEX2020に出品しました。しかし、25年間のブランクは大きく、中国切手収集家の先輩方からアドバイスをいただきながら作成しましたが、結果はLS(73点)でした。

あと2点でV。これが自分を奮い立たせました。何とかVを得て、国際展へ。その気持ちが強まりました。その後スタンペックスジャパン2021に出品した動機は、国際展審査員の方々のクリティックを受けられることでした。



佐藤審査員のクリティークと審査評は、私にとって厳しいものではありませんでしたが、私のその後の指針となり、今も意識しながら収集を進めています。それは、まず自分が行っていたような分類は一般的でない、外国局を経由した使用例を増やさない、希少性のあるカバーを各フレームに散りばめなさいということでした。また、展示を通して何を訴えたいのかということが伝わってこないことが最大の問題点と言われたことは、少しショックも受けました。しかし、この時にいただいた審査評は、今までの展覧会での審査評の中で一番具体的で、自分が何をすべきかわかるものでした。本当に感謝しております。

さて、その切手展では、V (76 点) をいただきました。この頃は、リモートでの講演を聞きながら、自分の作品をどうしようか考えていました。でも、日本国際切手展にはエントリーできないので、まだまだ先の話だと思っていました。ところが6月に2次募集の連絡がありました。講演のアンケートを送った後、吉田敬氏より背中を押してくださるお話があり、やろうと決心しました。もし、この一言がなければ、出品していなかったことでしょう。感謝申し上げます。

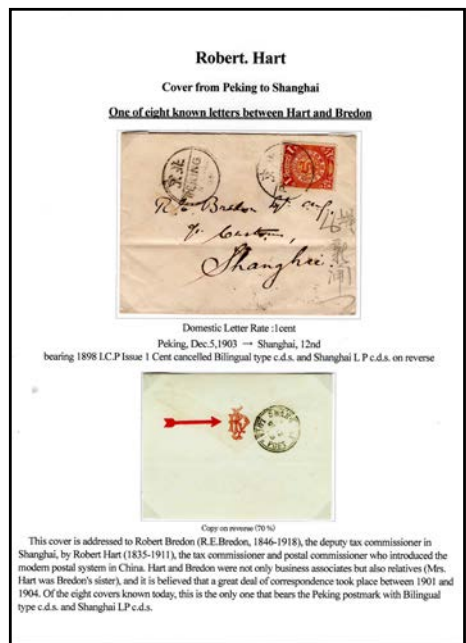
しかしながら、私は一度も国際展を見たこともありません。しかも、英語。講演で聞いた DeepL を駆使して、文献を参考に見様見真似でリーフを作りました。そして、先輩方や吉田氏に、一部分のリーフを見ていただき、アドバイスをいただきました。吉田氏のアドバイスで、リーフ自体が小さいので縦 290mm のリーフを使うといいとアドバイスをされたので、全部を作り直しました。また、章立てをすることと、縁取りを暗くせず枠線を引くことなどのアドバイスをいただきました。その結果、すっきりとしたリーフが作ることができました (前ページ左はアドバイス前、右はアドバイス後)。

構成も、まずロバート・ハートの手紙を冒頭に置き (下図)、そのあと外国郵便、国内郵便、崩壊の3パートに分けました。ロバート・ハートの手紙は、30 年ほど前にアメリカのオークションに出ていたものを、偶然入手したものです、当時の台湾の郵趣雑誌に載っていた記事を見て知っていたもので、それまで知られていた7通の次に位置する8通目のカバーで、私にとっては思い出深いカバーです。

日本が郵政 150 周年で前島密が中心人物なら、中国ではその位置にいる人物は、やはりハートではないか。構成は変だと思われるも、自分の考えを出したい。そんな思いでここに置きました。でも、本当に、よかったのでしょうか？

長々と駄文を連ねましたが、今回私が感じたのは、多くの方々の親身なアドバイスです。本当にありがとうございました。そして、私の転機はスタンベックスジャパンとその時期に行われたオンライン講演会でした。ここで、世界展をめぐる考え方や取り組み方、多くの技法を教えていただきました。本当にありがとうございました。来年度も行われれば、ぜひとも参加したいと思います。

これからのことですが、クリティークを受けていないので、JAPEX とスタンベックスジャパン 2022 に出品する予定です。次の国際展は、そのあとに。もう少しマテリアルを充実させないと・・・



P.2 ロバート・ハートの手紙

Japan Definitives: New Showa Series, 1946-1948

伝統郵趣（日本）部門 金銀賞受賞 初出品の国際切手展まで

飯澤 達男

日本国際切手展 2021 に初出品し、幸い、82点・金銀賞を受賞することができました。これまでお世話いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

国際展は遙か遠くの出来事で、近年まで私が出品できるなどとは全く考えられませんでした。国内切手展へは「新昭和切手」で20年ぶりに出品したのが全日本切手展2016です。続いてJAPEX2016にも出品しました。

この時の構成スタイルは、単片満月印が主体で、後は銘版未使用が少々という現在の競争展には全く相応しく無いものでした。その後、いかに単片満月印を無くして未使用を充実するかという、展示スタイルの180度変換を余儀なくされました。（単片満月印が今でも大好きなのは変わりありません。）

この2回の切手展の審査指導を受けて挑戦したのが、翌年の全日本切手展2017で大金銀賞でした。ここでようやく製造面と使用面のバランスをなんとかとれたかなと思います。そして吉田敬様のご厚情により、無謀にも作品集として出版することが叶いました。全く未熟な内容で冷や汗もの内容でしたが、これを機に収集に弾みがつきました。

次に出品したのがスタンベックスジャパン2020です。これまでの切手展審査員からの改善指導や諸先輩方等からの指摘を受けて、何でもかんでも改善点を取り入れたつもりで作りましたが、1額面1リーフもあるが7リーフもある等という、かえってちぐはぐな作品になってしまいました。この切手展は新型コロナウイルスで中止になりましたが、もし開催されていたらとても恥ずかしい作品を見せることになっていたと思います。この時は審査員から詳細な審査をしていただき、結果を小冊子に纏めたものまで頂戴しました。各ページの細かい改善点や特定のマテリアルについてなどの指摘の他、作品はバランスが重要であるという指導はその後多いに参考になっています。

そして、次のJAPEX2020では、思いがけなく金賞を受賞することができました。この時は丁度、新昭和切手75年の企画展でもありましたので、背伸びした得点をいただいたのかなと思います。これで国際切手展に出品することが明確な目標となりました。そこでスタンベックスジャパン2021に再度出品して、国際切手展に通用するように指導を受けることにしました。スタンベックスジャパンの主な開催趣旨は、国内展である程度の評価を得ても国際展でがっかりすることがないようにとのことですが、全く自分の事が該当するだろうなと思った次第です。

今年も新型コロナウイルスにより参観は適いませんでしたが、オンラインでのクリティークを実施して頂き、実行委員及び審査員の皆様方には本当に感謝申し上げます。ここでもタイトルやリーフ構成、個別のマテリアルに関わる細部まで様々ご指導を貰い、この度の日本国際切手展へと導いていただきました。

切手収集は趣味ですから、いかにように集めても良いのですが、競争切手展となると矢張りルールがあります。そのルールに従った作品の質を向上させるには、何度も切手展に出品し、審査やクリティークを受けることが大変有効であると実感しています。

私の作品は、文字を切り貼り細工して作るという旧態依然の方法のため、パソコンを駆使した自在なリーフを作成するという大きな課題が残っていますが、今後も皆様からご指導を得ながら、少しでも改善していければと思います。

2nd New Showa 50 yen/ Noh Mask July 1947

Manufactured by Printing Bureau

"B" edition
Space between imprint's
"HP" and the stamp: 3.4mm

"E" edition
Space between pos. 95 and pos. 96: 2.8mm

"C" edition
Space between pos. 95
and pos. 96: 2.7mm

Manufactured by the Japan Printing Bureau

"Mihon" (specimen)
Space between pos. 95 and pos. 96: 2.7mm

Column "D":
branch office postmark

Telegraph Service
Office postmark

6 5

2nd New Showa 100 yen/ Plum Blossoms July 1947

Written from right, manufactured by the Printing Bureau

"A" edition
Space between the imprint
and the stamp: 2.8mm

"B" edition
Space between the imprint
and the stamp: 2.9mm

"C" edition
Space between the imprint
and the stamp: 2.9mm

Pos. 95
Tiny convex on outside of
the lower corner within right frame

"Mihon" (specimen), "D" edition

Written from left, manufactured by the Printing Bureau

"A" edition
Pos. 95, 96: a guideline
in the center of right side

"B" edition,
pos. 96, a dot above the right corner

"C" edition
Space between the imprint
and the stamp: 2.9mm

Perforation
discrepancy

Punched

Z-shaped postmark

Roller postmark,
European writing
Black-colored

Roller postmark,
European writing
Blue-colored

Roller postmark
Blue-colored

6 7

郵便史（外国）部門 大金賞受賞

久方ぶりの全面見直しに取り組んで

小岩 明彦

1 出品作品の紹介

(1) 作品の概要

今回私が出品したのは、1780年から1900年までの間にインド亜大陸及びそれ以外の地域に派遣された英領インド軍（1858年までの東インド会社の軍隊を含む。以下「インド軍」と言います）の軍事郵便の郵便史作品です。

一般的な日本軍の軍事郵便の作品といえば、日清戦争、北清事変、日露戦争、第1次世界大戦…など、戦争の際に使用された軍事郵便をまとめたものというイメージがあるかと思います。

私のインド軍の軍事郵便の作品も基本的には同様で、第2次～第4次マイソール戦争、第2次・第3次マラータ戦争、第1次・第2次シーク戦争、第1次～第3次ビルマ戦争、第1次・第2次アフガン戦争、アヘン戦争、アロー号戦争、エジプトのオラビー・パシャの反乱、義和団の乱のように、高校の世界史の教科書にも出てくるような有名かつ大規模な戦争の際に使用された軍事郵便を含みます。さらに、数百人規模の兵力がごく短期間派遣された際に使用されたものなども含んでおります。それに加えて、インド大反乱（セボイの反乱）のような兵乱や、ロシア軍の侵入に備えて配置されたものの戦争には至らなかった軍事行動なども対象とし、その際に使用されたものも含んでおります。

当時イギリスは世界の超大国で、イギリスのインド軍は、イギリスのアジアやアフリカ東部などにおける勢力拡大に大きな役割を果たしましたが、本作品はインドがイギリスの勢力圏となる様子やアジアやアフリカの各地に派遣された様子を表現したものです。

構成としては9章立てで、第1章は東インド会社時代にいわゆる「インド」で使用された軍事郵便、第2章が東インド会社時代に「インド」から離れた遠征先で使用された軍事郵便、第3章はインドがイギリスにより直接統治される契機となったインド大反乱の際の軍事郵便、第4章は1860年代にさまざまな地域に派遣された際の軍事郵便です。第5章以降は1870年代以降1900年までの範囲で方面別に軍事郵便をまとめたものとなっておりますが、第5章はアフガニスタン方面、第6章はエジプト・スーダン方面、第7章はビルマ方面、第8章は英領インド、第9章がアフリカ方面と中国です。それぞれの章の中では、基本的に時系列にしたがってエンタィアを展開させております。

郵便史の主要三要素のうち最も力を入れたのは消印で、野戦局や基地局など軍事局で消印の押されたものに加え、非軍事の郵便局や外国郵政の郵便局で消印の押されたものも対象としております。消印以外にも料金やルートを明示するよう努めました。

(2) インド軍の軍事郵便収集の難しさ

第1次世界大戦よりも前のインド軍事郵便を収集していてつくづく感じるのは、現存数の少なさです。上に記載したような教科書にも載っているような戦争の際の軍事郵便という現存数も多いのではないかと、という印象もあるかもしれませんが、そのようなことは決してありません。

その理由としては、第一に低い識字率が挙げられます。英領インドの男性の識字率は記録が残っている1900年の段階でも僅か10%程度であり、なかでも貧しい家庭からの応募が多かった兵士の識字率は著しく低く、インド人部隊の兵士はほとんど読み書きができない状況にありました。また、インドにはインド人部隊に比べて少ないもののイギリス人部隊も配置されておりましたが、1860年頃までのイギリス人男性の識字率は70%以下で、やはり貧しい家庭からの応募が多かった兵士

の識字率は著しく低く、イギリス人部隊の兵士もインド人兵士と同様にほとんど読み書きができない状況がありました。一方、士官クラスは兵士クラスに比べると人数はかなり少ないものの、当然ながら全員が読み書きできたので、軍事郵便として存在するのはほとんどが士官の郵便であり、兵士の郵便はかなり少ない、という結果になります。

また、相対的に士官クラスの家の方の方が余裕があったため、士官による軍事郵便が多く残されたという事情もありそうです。

そのようなこともあって、英領インド軍の軍事郵便の現存数は少なく、野戦局の消印は現存1点のみというものも少なからず存在し、なかには遠征の際に使用された軍事郵便が1点しか確認されていないというケースも散見されます。

このように収集が難しい分野であることも原因の一つかもしれませんが、私がこのテーマで国際展への出品を開始してから20年以上経過しているのにも関わらず同じテーマの専門収集家についてほとんど聞いたことはありません。また、同じテーマの作品は過去に出品されたことはありますが、私が出品を始めてからは国際展に出品されたという話を聞いたことがありません。

2 今回の見直し内容

(1) 概説

本作品はFIPフィラ日本2001で大金銀賞を受賞、FIPワシントン2006で金賞を受賞した後、FIPフィラ日本2011で大金賞、FIAP香港2015で大金賞・インターナショナルグランプリを受賞しましたが、FIP中国2019では金賞に留まりました。そのため、作品を全面的に見直すこととしました。

作品の見直しはこれまでも出品のたびごとに少しずつ行ってきたところですが、全面的な見直しはフィラ日本2011で最後となっておりますので、最近のトレンドも踏まえると大幅な見直しが必要となることが分りました。主な見直しの内容については、(2)以下で詳述することといたします。

なお、作品の見直しにあたっては、国内展開催の際に行われた審査員の方による講演やクリティーク、他の国際展上位入賞作品などを参考とするとともに、ネットによる情報収集にも力を入れました。

動画については、FIPの郵便史部門の重鎮がYouTubeに投稿したものは、英語ではありますが気になる部分を繰り返し確認できるので、大いに参考になりました。

ご参考までにYoutubeに掲載されているものをご紹介しますので、ご覧になっておられない方は一度ご覧になってみてはいかがでしょうかと思います。

Chris King 氏 : Presentation
FIP Postal History Webinar on PRESENTATION by Chris King - YouTube

Dan Walker 氏 : Treatment
FIP Postal History Webinar on TREATMENT by Dan Walker - YouTube

Andrew Cheung 氏 : Knowledge & Research
FIP Postal History Webinar on KNOWLEDGE & RESEARCH by Andrew Cheung - YouTube

Henrik Mouritsen 氏 : Rarity & Condition
FIP Postal History Seminar: The importance of Rarity & Condition in PH exhibiting; with questions - YouTube

(2) タイトルリーフの見直し

前回は目的 (Purpose)、背景 (Background)、構成 (Structure) については明確に表現しておりましたが、今回はそれらを項目として掲げ、その内容について記載する形としました。

特に悩んだのが「背景」の部分です。背景については、必要なことが書いていないと「理解できない」、書きすぎていると「関係ない、スペースの無駄遣いである」といった意見をいただきます。本作品のように世間で理解されづらい分野については、タイトルページである程度しっかり書いておきたいと思っていたのですが、スペースの関係で本当に必要な部分のみに留めました。

参考文献 (References) については、前回は限定的に挙げていたのですが、国際展審査員の方から、多方面にわたるものを扱う場合は関連する文献をそれぞれの分野を代表する文献を書いておいた方がよい、という意見をいただきました。そのご意見を踏まえたところ最下部にある「参考文献」の部分が膨らんだのですが、それは致し方ないものと考えております。

目的、背景、構成、参考文献だけでかなりのボリュームになってしまいましたので、プラン (Plan) と見どころ (Highlights) もできる限り圧縮することとしました。プランについては表形式としましたが、フレームの位置と連動させた結果、全体的に分りやすくなったと思っております。

INDIAN CAMPAIGNS 1780~1913

The Indian Army was originally formed with the armed groups organized by the British to protect the trading posts of the British East India Company. These were converted to the first fighting force. The Indian Forces were involved in many campaigns both internally, within India, and externally around the world, in such foreign lands as China, Netherlands India, Siam, Sikkim, Burma, Tibet, Nepal, Afghanistan, Persia, India, Egypt, the Sudan, Abyssinia, British Somaliland, Uganda, Natal, Transvaal, etc. All these happened before the start of WWI. Indian military postal offices were quickly mobilized to act when these events started, as in many cases of communication. In many cases, special military mail routes were arranged, as in many events in the early period, where mail posted during these campaigns were sent through Field Post Offices or those offices with communications allocated to each post. There were some exceptional treatments, where mails were not sent through Indian military postal service, but were sent through the Indian civil postal service or yet another postal system. Some of the smaller campaigns lasted for a very short time, and having in mind the low literacy level of soldiers at the time, there were few communications with even those surviving them.

In this exhibit, the word "campaigns" is not limited to mean only war, but it also includes conflicts without a declaration of war, for example, the Indian Mutiny 1857-1858 and also the mobilization of force neither with a declaration of war nor even a battle, for example, the Punjab Field Force of 1885. This exhibit includes military mail posted during operations.

This exhibit is a specialized postal history collection to include various postal services offered to officers, soldiers and clerks of Indian Army or Navy for about eighty campaigns over a period of hundred-year ending before the start of WWI. This exhibit includes campaign mails sent through Indian military postal service and mails sent through Indian civil postal service or sent through foreign postal service. This exhibit also shows different routes, routes and cancellations.

This exhibit is arranged into eight chapters as shown below, principally in chronological order.

- I) Unification of India 1780-1800
 - Including Officers's Letters of Operations against Durand in 1807.
- II) Early External and Internal Border Expeditions 1780-1800
 - Including Soldier's Letter sent before the 2nd Burmese War 1824-1825, Officer's Letter with Impaired Seal, during Persian Field Force 1856-1859, etc.
- III) Against Rani in Benares 1825-1826
 - Including Letter from Afghan state cancelled at Indian F.P.O., etc.
- IV) Occupation of Egypt and the Sudan 1882-1886
 - Including Nine letters of postcard cancelled at Indian F.P.O. during Egyptian Expeditionary Force 1882, etc.
- V) Annexation of Burma 1885-1889
 - Including various letters written by members of small field forces during expedition period like Eastern Karen Field Force 1880, Kachin Hills Field Force 1882, etc.
- VI) Uprisings in India 1873-1913
 - Including Registered Letter used during Rajahmundry Field Force 1882, letter cancelled at P.O. during 2nd Malay Field Force 1895, etc.
- VI) Protection of Benefits in Western Indian Ocean Area 1897-1904
 - Including letters to or from members of East Africa Field Force 1897-1904, letter from Indian state cancelled at British A.P.O. during Boer War 1900-1902, etc.
- VI) Protection of Benefits in the East 1900-1904
 - Including various messages of Chinese Field Force 1900-1902 like C.E.F., Hong Kong, Canton, etc., Travelling F.P.O. stamps, covers with Imperial/field stamps, etc.

Bibliography: History of the Indian Army Postal Service Volume 1 1854-1913. J.B.Pond

INDIAN CAMPAIGNS 1780~1900

Purpose: This exhibit shows various postal services offered to members of Indian Force in Indian Sub-Continents and other phases of the world in 18th-19th Century.

Background: Indian Force was originally armed guards of the British East India Company, but it was converted to the fighting force in late 18th Century. Since then, it was involved in many campaigns in various phases of Indian Sub-Continent, South East Asia, Persia, India, East Coast of Africa and China. From early stage, Indian military postal services were quickly mobilized when the events started. After Persian Field Force 1856-1859, cancellations of military post office were used. Sometimes, mails were not sent through Indian military postal service. Then, Indian civil postal services or other systems were used. The literacy level of the soldiers was very low and most of the smaller campaigns were very short lived. Therefore, surviving Indian campaign mails are generally very scarce to very rare.

Structure: This exhibit is a specialized postal history collection to include various postal services offered to officers, soldiers and clerks of Indian Army or Navy in the areas of Indian campaigns. Campaign mails used between 1780 and 1900 are included, i.e., from the beginning of the war to acquire territory of British East India Company to the end of 19th Century when British rule was completed. This exhibit is arranged into nine chapters consisted of about seventy campaigns, principally in chronological order.

In this exhibit, the word "campaigns" means not only war but also conflict without a declaration of war, for example, Indian Mutiny 1857-1858 and the mobilization of force neither with a declaration of war nor even a battle. This exhibit includes messages sent through Indian civil postal service or sent through foreign postal service. Markings are focused mainly, but also routes and routes were described.

Plan	Chapter	Plan	Chapter
1-2	I) Unification of India 1780-1800	4-5	V) Securing influence in Afghanistan 1878-1880
2-3	II) External Expeditions under East India Company 1780-1800	5-6	VI) Occupation of Egypt and Sudan 1882-1889
3	III) Indian Mutiny 1857-1859	6	VI) Annexation of Burma 1885-1889
4	IV) External Expeditions under Government of India 1850-1880	7-8	VI) Frontier Expeditions 1871-1900
		8	VII) Uprisings in India and China 1872-1900

Highlights: In addition to the following messages, many unique known messages of small wars are included.

- One of three known 1824 95 1st Burmese War Soldier's Letters. (Chapter II)
- Unique known 1831 32 Nating War letter. (Chapter II)
- Unique known 1852 54 2nd Burmese War letter used during battle in operations. (Chapter II)
- One of two known 1856-1858 Persian Field Force covers franked Imperforata 2 Annas. (Chapter II)
- One of two known 1857-1859 Indian Military Army Soldier's letters franked G.B. Penny Red cancelled at Indian civil post office. (Chapter III)
- Unique known 1867-1868 Abyssinian Field Force double rate via Manshiet cover. (Chapter IV)
- One of two known Indian Indian combination messages cancelled at India F.P.O. (Chapter VI)
- Unique known 1885-87 2nd Burmese War cover cancelled by Single Ring of F.P.O. 3s.3. (Chapter VI)

References:

- The London Philatelist: RPSL
- India Post: India Study Circle for Philately
- History of the Indian Army Postal Service Volume 1 1854-1913: E.W.Pond
- Catalogue of The Handwritten Postage of India & its Dependencies: D.L.Gilbert
- Penny Red Stamp Used Abroad, 9th Edition: M.Harty
- The Postal History of Ceylon 1795-1857: G.F.Osley
- Cover Catches of the Indian Forces in the 1882 Campaign in Egypt: Circular of Egypt Study Circle: E.W.Pond
- Nineteenth Century Wars in Egypt and the Sudan: J.Franklin
- The Military Mail through Indian P.O. in Egypt in 1882: A Collection of Philatelic Articles in Commemoration of the 100th Anniversary of King George V: A.K. Sanyal
- The Postal History of Burma: E.W.Pond
- Burma Postal History: G.Davis & M.Martin
- Military Mail of India Bhokhoda and Datta Field Force 1872-1875: Stampede Philatelic Journal 2015: A.K. Sanyal
- The China Expeditionary Force 1900-1902: D.S.Vark, J.Huang, D.Liang & G.Sattin

タイトルリーフ 前回→今回

(3) リーフの体裁の見直し

最近、そのリーフが全体のなかでどの位置にあるか分りやすくなるのがトレンドになっているようです。そのため、左上の見やすい部分に章（時代や地域等の区分）を、その下に該当する項（戦争）を、管理番号を付して記載しました。

また、前回まではリーフの上部にラインを引いておりましたが、最近ラインのない作品が多く、またラインをなくすことにより2行ほどスペースが生じるので、今回はラインをなくすこととしました。字体については、欧米圏で一般的に用いられている見やすい字体に変えました。

さらに、1838年から1842年の1st Afghan Warの消印AFGHANISTAN/Bearingや1856年から1858年のPersian Field Forceの番号印131、1867年から1868年のAbyssinian Field Forceの記号印F.F.のように、珍しくかつ有名な消印については、トレースした画像を貼り付けました。

それから、各章の最初のリーフにある章の説明の部分については、変化をつける観点から、水色の枠線で囲むこととしました。

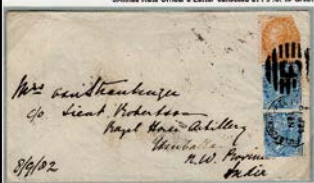
INDIAN CAMPAIGNS

— IV) OCCUPATION OF EGYPT AND THE SUDAN 1882-1896 —

It was important for Great Britain to dominate Egypt to secure the route to India. In 1882, Arabi Pasha rose to wrest internal power from the hands of British in Egypt. After that, Mahdi in the Sudan in Egyptian territory rose against British and Egyptian, and the Sudan remained independent until 1898.

IV.1) EGYPTIAN EXPEDITIONARY FORCE 1882

3 Annas Rate Officer's Letter cancelled at F.P.O. to Great Britain



On arrival cancelled by Duplex Type of "P" and "FIELD FORCE P.O. EGYPT No. 1" (Hemilia, 8/9/1882).

Earliest known usage from this campaign.
Unique known cancelled by Duplex Type used during this campaign.

Written by Lieutenant-Colonel Van Strauchman, Commander of Royal Horse Artillery from India.

[Route] - Ismailia - Suez - Railway - Suez - Aden - Steamer/Force
- Aden - Bombay - F&O Steamer/Sea P.O.D. : 14/9/82 - Bombay - Umhaila/30/9/82 - Railway
[Rate] 3A - Letter to Great Britain (~30c.)

Fronted Stamp	Cover / Postcard	Cancellation	Indian F.P.O.	British A.P.O.	Egyptian P.O.	Destination
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 90			G.B.
India 11A	Postcard	L.F.F.O.	No. 10 (Zagazig) : 150			G.B.
Egypt 1P	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 210		Ismailia : 220	India
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 210			India
G.B. 25A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 210	APOC (Cairo) : 250		G.B.
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 210			India
Egypt 20P	Postcard	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 250	APOC (Cairo) : 250		G.B.
Egypt 1P	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 210		Ismailia : 270	India
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 250		Suez : 280	India
Egypt 1P	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 250			G.B.
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 170	APOC (Cairo) : 310	Cairo : 310	G.B.
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 510			India
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 610			India
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 1210			Egypt
Toward	Cover	India	No. 10 (Hemilia) : 1310			

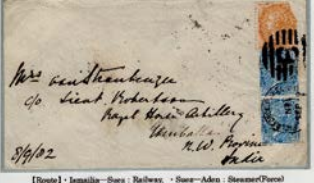
INDIAN CAMPAIGNS

V) OCCUPATION OF EGYPT AND SUDAN 1882-1896

It was important for Great Britain to dominate Egypt to secure the route to India. In 1882, Arabi Pasha rose to wrest internal power from the hands of British in Egypt. After that, Mahdi in the Sudan against Great Britain and Egypt. As a result, Sudan remained independent until 1898.

V.1) EGYPTIAN EXPEDITIONARY FORCE 1882

3 Annas Rate Officer's Letter Cancelled at F.P.O. to Great Britain



On arrival cancelled by Duplex Type of "P" and "FIELD FORCE P.O. EGYPT No. 1" (Hemilia, 8/9/1882).

Probably Earliest Known Usage Used during This Campaign.^{1,2}
Probably Unique Known Usage of Duplex Type.^{1,2}

Written by Lt-Colonel Van Strauchman, Commander of Royal Horse Artillery
[Rate] 3A - Letter to Great Britain (~30c.)

[Route] - Ismailia - Suez - Railway - Suez - Aden - Steamer/Force
- Aden - Bombay - F&O Steamer/Sea P.O.D. : 14/9/82 - Bombay - Umhaila/30/9/82 - Railway

Fronted Stamp	Cover / Postcard	Cancellation	Indian F.P.O.	British A.P.O.	Egyptian P.O.	Destination
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 90			G.B.
India 11A	PC	L.F.F.O.	No. 10 (Zagazig) : 150			G.B.
Egypt 1P	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 210		Ismailia : 220	India
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 210			India
G.B. 25A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 210	APOC (Cairo) : 250		G.B.
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 210			India
Egypt 20P	PC	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 250	APOC (Cairo) : 250		G.B.
Egypt 1P	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 210		Ismailia : 270	India
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 250		Suez : 280	India
Egypt 1P	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 250			G.B.
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 170	APOC (Cairo) : 310	Cairo : 310	G.B.
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 20 (Cairo) : 510			India
India 3A	Cover	L.F.F.O.	No. 10 (Hemilia) : 1210			India
Toward	Cover	India	No. 10 (Hemilia) : 1310			Egypt

© G. A. Baker - A Collection of Philatelic Articles in Commemoration of the 40th Anniversary of Elinor Knudsen's Obituary
© Licensed on Facebook Messenger's Country Plans in Egypt and the Sudan (1887-1914)

同一リーフ 前回→今回

(4) 期間の圧縮とバランスの確保

FIP の郵便史作品評価の特別規則 (SREV) では、1875 年までが第 1 期、以降 1945 年までが第 2 期、それ以降が第 3 期ということで区分するのが基本とされております。

たとえば日本のように 1871 年に近代郵便制度が始まった国や、中国のように 1878 年に海関郵政の切手が発行された国のような場合、比較的 FIP の基準に沿った時代区分で作品を展開させやすいのではないかと思います。インド軍の軍事郵便でこの基準に沿った作品をつくろうとすると、想像を絶する大変さが待っております。

上述のとおりインドの軍事郵便の現存数は少なく、市場に出てくるのを見付けるだけでも大変で、私もフィラ日本 2001 年で大金銀賞を受賞してから 3 フレーム分増やして 8 フレームで出品できるようになるまでに約 5 年の歳月を要したところです。

現在の私の作品でも 1875 年までの分で構成できるのは 4～5 フレーム程度ですので、第 1 期のエンタィアのみで 8 フレーム作品を構成することは不可能と言っても過言ではありません。しかし、私の作品では 1913 年までが対象となっていたため一般的にみてスパンが長かったことは確かです。国際展の審査員からも期間を短くした方がよいという意見をいただいていたので、できる限り期間を短くする方向で見直すこととしました。

期間を短くするに当たっては 1875 年頃以降のものとするとも考えられたのですが、そうした場合、注目度も重要性も高い初期のエンタィアが抜けてしまうことになるので、19 世紀最後の 1900 年までを対象とし、1901 年から 1913 年までの約 2 フレーム分をカットすることとしました。

実は 1901 年から 1913 年までの部分のなかにも、チベット遠征やソマリランド遠征の珍しいエンタィアが含まれており、そういった物が欠けることによる悪影響も懸念しておりました。しかし、国際展審査員の方から、小さな戦争の軍事郵便についてよく捕捉しているのは理解できるが全体のバランスという観点からもっと大きな戦争のものを加えた方がよい、という意見を伺っておりましたので、割とすっきりと諦めることができました。

後の部分をカットすることによって、大きな戦争の部分の厚みが増してバランスも良くなったので、だいぶプラスになったのではないかと考えております。

(5) 根拠の明確化

英領インドの軍事郵便については著名な郵便史研究者・収集家・ディーラーであったブラウド氏が History of the Indian Army Postal Service (計 3 巻) を出版し、本分野の基本書として広く使われております。

しかし、上述のようにインド軍はインド洋を中心とする世界各地に展開しており、特にビルマやネパール、チベット、アフガニスタン、ペルシャ、アデン、ソマリランド、エチオピア、スーダンなどのように、インド軍の軍事郵便がその地域における最も早い近代郵便であったという例も多く、それぞれの地域郵便史の収集家の間でも重要視され、活発に収集や研究が行われております。そのため、ブラウド氏の本のみを金科玉条として扱えば十分というわけではなく、真摯に地域郵便史の文献等を確認することも重要です。

地域郵便史の本はこれまでに多数入手してきたところですが、その他の関係がありそうな文献

をすべて入手するわけにもいかないので、まずはその地域を専門とする団体に入会し、インドの軍事郵便に詳しい専門家と情報交換を行うこととしました。インド側から見た情報は彼らにとっても概して有益であるらしく、ほとんどの場合は情報交換に応じてもらえました。とりわけ、ビルマやエチオピア、スーダン、セイロン、イギリスのレッドペニー、ボーア戦争などの専門家とはかなり踏み込んだ情報交換、意見交換を行い、稀少性に関する情報の確認もかなり進みました。

外国の国際展審査員からは、単に「現存確認〇通」と書くのではなくその根拠についても書いた方がよいという意見をいただいていたので、今回はあらたに入手した情報も含め、稀少性の根拠についても個々のリーフの中で記載することとしました。

具体例としては、下の 37 リーフや 38 リーフにあるとおりで、いずれもカバーの左右もしくは下に現存確認数を記載し、最下部にその根拠を記載しております。たとえば、37 リーフの最下部にはこの遠征の際に同じ切手を貼ったカバーは 4 通あり、その存在はいつ確認されたかということも記載してあります。少しくどい印象を受けるかもしれませんが、このカバーは私の作品の中でも最も重要なものであって、審査員にも注目されるものであるため、ここまで細かく書いてあります。付言しますと、現存 4 通といっても 2 通は損傷が大きく、もう 1 通もマージンが十分ではないため、状態に問題のないカバーは今回展示されたもののみということになりますが、それは言わずもがなです。

ちなみに 38 リーフ上段のカバーは、この戦争に際しては唯一の兵士郵便料金の軍事郵便であるうえ、2 通しか存在が確認されていない第 2 野戦局の消印のうち無料使用の消印の押されたエンタピアとしては唯一のものであり、単に現存数の少なさという意味においては、このカバーは 37 リーフのカバーに勝ります。

そうは言っても理解しやすいエンタピアを強調した方が間違いはありませんので、インド全域用が発行された最初のシリーズの切手であるインド無目打 2 アンナ切手が貼られており、有名な 131 の番号印が押されている 37 リーフのカバーを三重座布団にして、スポットライトを当てることとしました。



P.37



P.38

(6) コンディションの向上

インドの切手やカバーと言えば、比較的新しいものでもシミが出ているものやボロボロのものが少なからず見られます。当然、古い時代のインドの軍事郵便も状態の良くないものが多く、加えて現存数も少ないため、状態の良いものの入手に苦労します。

過去のインド軍の軍事郵便関係のネームドセールを見ても、特定の人の収集品を除いて状態の悪い物が多く、いかに「アウト」ではないエンタィアで作品を構成するのが困難かということがよく分ります。

審査基準のなかでは、その国で使用されたエンタィアの一般的な状態を考慮することとされておりますが、仮に審査員に代替性のないことを理解していただいたとしても、状態の悪い使用例は全体の印象を悪くします。

そのため、今回は、状態は悪いものの現存確認1〜2通であるためやむを得ず使用することとしていたエンタィアも外すこととしました。

(7) マウントの方法の統一化

タイトルページで見どころとして挙げたエンタィアについては、前回は三重座布団のものも他のエンタィアと併せて2通を1リーフに配置したケースも多かったのですが、今回は基本的に三重座布団のものは1リーフに1通のみとしました。

3 最後に

十年ひと昔と言いますが、十年もすると本当にいろいろなことが大きく変わっており、作品の見直しに多大なる時間と労力を要しました。今さらながら最新のトレンドや審査の動向に注意して作品を見直すことの重要性を強く感じております。

昨年以降、多くの国際展が延期されフィラ日本もアジア展に変更されるなかで、自分自身出品してよいのか迷ったところもあります。しかし、今回出品することにより作品を大幅に見直すことができ、アジア展でのチャンピオンクラスの資格も得ることができました。出品して本当に良かったです。

今回のフィラ日本は開催できるかということすら不透明でしたが、そのようななかで開催され、無事閉会に至りました。企画、運営、審査に携わられた皆様方のご努力に頭が下がる思いです。この場を借りて心より御礼申し上げます。



Japan Definitives 1992-1998, The Nature of Japan Series

現代郵趣 (伝統郵趣) 部門 金銀賞受賞

国際展に日本の現代郵趣を展示できて

虎頭 雄彦

Japan Definitives 1992-1998, the Nature of Japan series

今回出品した現代郵趣作品ですが、実は私にとっての目標は「日本現代を国際展に出すこと」そのものでしたので、出品できた時点で満足でした。平成切手の国際展登場も、これが史上初かもしれません。評価も望外のVをいただきまして満足しています。審査員の皆様、どうもありがとうございました。

そもそもですが、郵趣に関してトピカルからテーマティックの世界に入った私には「伝統」はまるでチンプンカンプン。よく理解もできてなかったのですが、吉田さんの動植物国宝を見て作品がきれいだなぁと思ったのと、違うジャンルの作品作りの経験もテーマティック作品に活かせるのではと思ったのが、「伝統」にチャレンジするきっかけとなりました。ただ日本伝統ではどのジャンルにも踏み出す勇気が出ず、結果、伝統ではなく現代で、やられている方が少なそうな平成切手にたどり着きました。

しかし消費税導入以後の普通切手は国内展でも見る機会が少なく指標がわからず、そもそも作品化できるのか、作っても評価されないかもと何度も思いながら、この数年試行錯誤してきました。モダンなのでメインナンバーを揃えるのに苦労しない分、一枚一枚切手を見ながらシェードや細かい印刷ズレを探したり、カバーも料金体系よりもリーフの美観から横型外信封筒の適正料金、その単貼または同額面の複数貼、にこだわって探し続けました。その結果と言っているのでしょうか、日本モダンにも国際展に出せるポテンシャルがあることをお示しできたのは、何よりの喜びです。

今後、まずはクリティークでも指摘された製造面研究にしっかりと取り組み、それを受けての表現の変化・開発につなげられればと思っています。

Japan Definitives 1992-1998
The Nature of Japan Series

The Object
The object of this exhibit is to show a specialized collection of Japan Definitive 1992 issue. The Ministry of Posts and Telecommunications (MPT), which was conscious of the unified design of definitive stamps, began issuing "the nature of Japan series" in 1992. The series issued 26 types of unified stamps for almost 20 years while facing the changes of postal services and changes in social conditions.

On This Series
Of the series, three of the 62 Yen period were issued with a color detection frame, but the stamps after the 80 Yen period gradually shifted to luminance detection. In addition, as anti-counterfeiting stamps, there are stamps with special pearl ink printing. A face value printing coil stamp was issued with the aim of improving efficiency by narrowing down the stamp designs to two types for sale at vending machines and printing multiple face values. In a mechanization experiment of stamp distribution at the post office, sheet stamps with barcodes appeared, and 10-sided sheets were issued for inventory control purposes. All of these various trials of the MPT can be seen in this collection.

The Plan & Remarkable Items

Frame	Face Value	Remarkable Items
1 1992-1994	Production: 41 Yen, 62 Yen, 72 Yen, 9 Yen, 18 Yen	✓ Full sheet of 20 Yen specimen (p4)
2 1994	50 Yen, 80 Yen, 90 Yen, 270 Yen, 350 Yen, 420 Yen, 15 Yen	✓ Various 50 Yen errors (p19) ✓ Fungus 50 Yen (p21) ✓ 420 Yen usage for return (p30) ✓ 110 Yen return to sender by 9.11 Attacks (p48)
3 1994	130 Yen, 190 Yen, 430 Yen, 700 Yen	✓ 15 Yen usage for the disabled (p32)
4 1997	390 Yen, 1000 Yen, 70 Yen, 110 Yen	✓ 80 Yen same usage of 1995 Great Hanshin Earthquake (p61)
5 1997-1998	10 Yen, 20 Yen, 30 Yen, 120 Yen, 140 Yen, 160 Yen, Booklets, Panels, Souvenir Sheets	✓ Errors of face value printing coil stamp (p73) ✓ 130 Yen coil commemorative usage (p77) ✓ 10 Yen & 270 Yen error stamp usages (p78, p80)
6	Coil Stamps, Face Value Printing Coil Stamps	

Original Study
Various books and articles said that there is no variety in the production of this series, but the exhibitor discovered many varieties of shades or printing positions and reported them in this exhibition.

Literatures
- "Detailed explanation of the Heisei Series" (S. Takasaki, Yushu Vol.56 No.1-12, 2002)
- "Tips for collecting the Heisei Series" (K. Suzuki, Yushu Vol.63 No.1-12, 2009)
- "Guide of the collecting the Heisei Series" (M. Yamamoto, Yushu, Vol.73 No.2-12, 2019)
- "Specialized catalogue of the Heisei Definitives Issues 1989-2019" (Nanami, 2019)
- Heisei definitives picture book (Philatelic Museum, 2019)

Specimen
Overprinted to Specimen (p18 & 19). Type I is 10.5 mm in width, Type II is 11 mm in width.

Type I, Red (Nov.30.1992)
 Type II, Red (Nov.30.1992)
 Type II, Red (Nov.30.1992)
 Type I, Red (Jan.11.1994)
 Type I, Black (Jan.11.1994)
 Type I, Red (Jan.11.1994)
 Type I, Red (Jan.11.1994)
 Type I, Red (Jan.11.1994)
 Type I, Red (Jan.25.1994)
 Type I, Black (Jan.25.1994)
 Type I, Red (Jan.25.1994)
 Type I, Red (Apr.25.1994)
 Type I, Red (Apr.25.1994)
 Type I, Red (Apr.25.1994)
 Type I, Red (Apr.25.1994)

The Hand Etched Documentary Revenue Stamps of Japan, 1873-1874

印紙部門 大金賞受賞

ナショナルグランプリ候補

フィラニッポンへの色々な思い

長谷川 純

フィラ日本 2021 で、大金賞と特別賞を受賞して、色々な思いがあります。ちなみに私のこれまでの出品記録は以下の通りです。

- 1995 年 WESTPEX、米国国内展で手彫り印紙を 5 フレームに纏めて金銀賞を受賞。
- 1997 年 PACIFIC97 という、サンフランシスコで初めて開催された国際展で、金銀賞を受賞しました。この時には日本からも多くの参観者が来桑されました。
- 1997 年 INDEPEX97 で国際大金銀賞を受賞して、8 フレームの資格を取りました。そして 1999 年、CHINA'1999 で初めて国際金賞を受賞しました。
- 2001 年 PHILA NIPPON'2001 で国際金賞に入賞しました。
- 2002 年 PHILA KOREA では国際大金銀賞に降格されました。それから、11 年の冬眠を経て、日本に米国から移住しました。
- 2013 年 全日本切手展に参加して、国内金賞。
- 2014 年 全日本切手展で国内金賞。
- 2014 年 MALAYSIA'2014 では国際大金銀賞と SP。
- 2015 年 全日本切手展では国内金賞と切手文化博物館賞。
- 2016 年 NEW YORK 2016 では国際大金賞を初めて受賞しました。
- 2016 年 PHILA TAIPEI 2016 では国際金賞。
- 2017 年 全日本切手展では初めて国内大金賞と通信文化協会賞。
- 2018 年 全日本切手展では国内大金賞と日本郵趣協会賞。
- 2019 年 全日本切手展では国内大金賞と特別賞。
- 2021 年 全日本切手展では国内大金賞と日本文化振興機構賞。
- 2021 年 PHILA NIPPON'2021 では国際大金賞と特別賞。

2011 年に行われた PHILA NIPPON'2011 は名古屋に移住していたので、日本から出品をしようと思い、開催関係者に連絡を取ったら、アメリカから出品して下さいと云われ、アメリカのコミッショナーに連絡したところ、日本に住んでいるなら、日本で申請すべきと云われ、名古屋から出品物をフロリダに送り、アメリカのコミッショナーが日本に持参して、終了後、アメリカに持ち帰り、名古屋の私宛に郵送すると云うのは、無駄が多いと云われ、再度、日本の委員会に説明したところ、前例がないとかで、受け付けて貰えず、出品を諦めたのですが、その年、東北大地震が起り、外国から多くの出品が取り消されて、展示場には展示されないフレームが多く見かけられました。

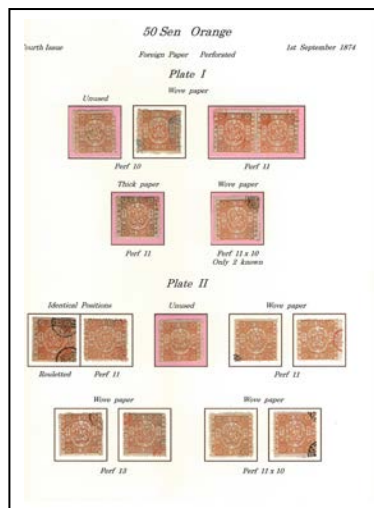
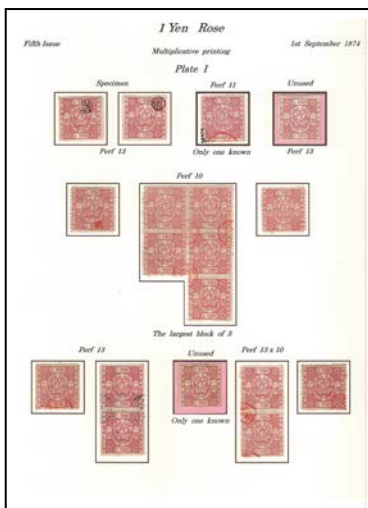
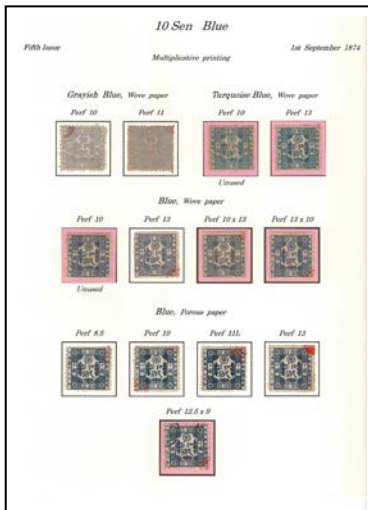
後で聞いたところ、フレームの空きスペースを埋めるため、複数の出品依頼を受けたという収集家もいました。私はその時点で直ぐに出品出来る作品が、8 フレーム分ありましたが、誰からも出品依頼の連絡はありませんでした。日本人が、外国の切手展に現地出品していることは知って



いましたので、私に対する個人的感情から、受け付けなかったのだらうと思っています。

今回の出品もかなり以前から、出品しようと思い、複数の関係者に話しておりましたが出品の受付が始まったら、印紙部門は外されたこと知り、縁が無いと諦めていました。今年になって井上さんから電話にて、印紙部門が付け加えられたら、出品されますかと尋ねられました。そして、正式に第7部門に印紙が付け加えられ、出品の申し込みをしました。結果的に、私一人の印紙部門への出品となりましたが、国際展に9回、国内展に8回出品して、アメリカと日本で、国際大金賞を受賞できたのは幸せだと思います。

初めのころは透明な糊付きシートに印刷して、切り取ってリーフに貼りつけるページを用いましたが、直ぐに、コンピューターでページを作る方法に切り替えました。一度に作品を作ったのでない為、ページのレイアウトも今から見直すと、多少のずれがあります。



トータルでは 300 リーフほど、リーフがあります。ある時点では最古使用例の証書付きも、後にデーター更新の証書が手に入ると、そのリーフはもう使えなくなります。同じように大きな塊も、それ以上の物が手に入ると、当然、入れ替えるので、使えなくなります。

人の作品を見ていると、色々気づきますが、大切なポイントは、展覧会の作品は見る人が分かるように作るべきで、余りにも書き込みの説明が多かったり、同じようなカバーを並べたり、私なら、どんどん省いて、状態が悪ければ、作品には使いません。説明も最低必要な事を書き、文章を短くすれば、読みやすくなるので、読んでもらえる確率が高くなります。

これから出品を考えている方は、切手展で多くの作品を見て、貼り込みのレイアウトや、カバーやハガキの展示法、そして、審査員の方たちのクリティークを聞けるなら、聞くことも大いに参考になります。又、出品者から直接、出品物の説明を聞くことも大事で、出品者も聞かれたら、喜んで説明してくれます。特に国際展では、普段、みる事の出来ない作品を身近で見られますから、こんな良いチャンスは逃すべきではありません。

今回の展覧会設定に関して、私が感じたことを記しておきます。あくまでも私個人が感じた事柄ですので、今後の参考にできれば幸いです。

インターネットで入場の前登録をするようにとホームページに有ったので、登録すべく情報を打ち込みましたが、登録が終了という返事がメールで来ませんでした。結局、3 回、送りましたが、エラーとでたりして、そこにあった電話番号に電話しましたが、録音になっており、メッセージを残しましたが、返事がありませんでした。

私は全日展の前日に出品物を持参して、終了後に持ち帰る日程で、今まででしたが、今回は開催初日の 2 日前に、持ち込むようになっていたので、ゆうパックで送りました。そして金曜日に会場に行き、入口で、紙に氏名住所等を記入して、入りました。翌日の土曜日も入口で、昨日と同じ手続きを受け、週末と云うので、少し並びました。その翌日の日曜日にも全く同じ手続きをして、20 分くらい並ばされました。

最終日の月曜は 10 時からクリティークがあり、私は前日に「参加したいので、時間が間に合うか心配だ」と、稲葉さんに伝えたく、探してもらいました。稲葉さんに直接伝えましたら、必ず、間に合うように審査担当に伝えと云われ、初めて安心しました。切手商の方たちは身分証明カードを胸から下げているので、入場は簡単にできます。もし、出品者も同じように入出りが簡潔ならば、毎日、同じことを紙に記入したり、外で一般人と並ぶ必要が省けます。アメリカなら、こんな時には、出入り担当者が紙片か名刺にサインして、応急的処置を取りますが、日本は前例のない事や、自分の直接範囲以外は後に責任問題になる事を避ける傾向があります。会場で私は色々な人に直接話して、意見具申しましたが、度々、アメリカと日本の違いを感じさせられました。極端論を言えば、トップの人は即答で解決策を決められますが、中堅や現場では即答が出来ない事です。勿論、現場の人はボランティアの方ですから、何かを決定する権限はありませんから、その問題を誰に聞けば解決すると云う事を事前に決めておけば、直ぐに担当者に聞けたと思います。そういう事項は聞いてない場合はどうしてよいか、分からず、私から想定外の質問を受けた当人は困ったと思います。

会場は広くて、作品も見やすかったのですが、会場内に座る所が無かったのは不便でした。お陰で、二階にあった店に毎日通いました。たまたま、ジャパンスタンプオークションの開催とぶつかって、パルマレスが開催されたので、私は不参加となりました。時間的調整が出来なかったので残念でした。

なお、最終日の作品引き渡しの手続きをした方々は、実に適切な対応でした。郵送した時の箱も保存してあったので、持ち帰る時に便利でした。

コロナの影響下の切手展開催は、本当に大変であったと推察します。私は外国で開催された国際展に比較して、作品数が少なかった事を除けば、素晴らしい切手展であったと感じました。ここ数年、海外の国際展も延期となり、今度、何処で行われるか分かりませんが、機会があれば参観してみたいと思っています。

伝統郵趣（日本）部門 金賞受賞 富士鹿・風景で国際展金賞

吉田 敬

横矢さん、富士鹿・風景で国際展金賞が獲れました！

中高生の頃に集めていた「動植物国宝」にだけはノスタルジーから思い入れがあるものの、ゼネラル収集をしている私にとり日本切手は世界の切手の一部でしかなく、富士鹿・風景切手についても当初は思い入れはありませんでした。

2015年頃だったでしょうか、広島市で開催されていた広島蒐郵会の例会に参加した時に、故 横矢仁さんに「富士鹿・風景切手」の製造面分類コレクションを見せていただきました。横矢さんはリーフ作りが大変お上手でいらっしゃり、緑・赤・青のUPUカラーの美しさの映えるリーフを展開されていました。そして、それを見た瞬間に「集めたいなあ」と思いました。

その後、国際展における日本の伝統郵趣の受賞結果を調べていくと、戦前の普通切手シリーズで唯一国際展金賞を獲得できていないのは「富士鹿・風景」だということがわかりました。日本切手は専門収集範囲ではなかったものの、「これは挑戦しがいのある分野だ」と感じ、収集を開始しました。

横矢さんからはその後も電子メールなどを通じて色々とお教示いただき、富士鹿・風景切手については私の先生でした。時には期せずしてオークションで互いに競っていた事が判明し、後で笑い話になったりした事も一度や二度ではありません。残念ながら2019年にお亡くなりになられましたが、今回の金賞獲得を一番に伝えたい方です。きっと喜んでくださると思います。

セミクラシックで国際展金賞を狙うには・・・

国際展に出品するにあたっての戦略は至ってシンプルで、日本の普通切手っぽくない作品を作ろうということでした。1番に参考にしたのは同時代の外国切手の伝統郵趣コレクションで、国際展参観時には特に欧米のそれらの作品を最初に見学し、展開や研究の仕方の参考にしました。

コレクションを遠目で見た時の美しさ、マテリアルやカバーの美しさ、迫力ある大型マルチプルや多数貼りの活用、それからなんといっても独自視点による製造面のオリジナル研究はセミクラシックでは必須だと感じました。

とはいえこの様なアプローチは日本の普通切手では珍しい事もあり、国内では予想通り理解されず、全日展2017では80点しか取れませんでした。結果は結果として素直にお聞きしましたが、審査された方の国際展経験をお聞きしたところ、あまり十分でない事がわかりましたので、翌年の世界展には、敢えてほぼ同じ作品をそのまま出し85点を獲得することができました。なお蛇足ですが、この経験から、世界レベルの審査と改善指導を受けられる全国切手展がそろそろできてよいのではないかと感じ、スタンベックスジャパンを開始しました。今となっては日本の郵趣振興において極めて重要な展覧会になったと感じています。

さて85点を獲得すると8フレーム化の権利が得られます。ここで私が信頼している方からもらったアドバイスは「日本のこの時代の切手をそのまま8フレームにしても外国人審査員にはさして魅力的な作品には見えない」ということでした。このアドバイスをお聞きして感じたのは、よくわからないシリーズの場合、審査員は第一フレームの印象で、大まかに賞のレベルを決めてしまおうということでした。最初のフレームに珍品と製造面のオリジナルスタディを集中させることがポイントだろうと考えてChina2019に出品したところピンゴ！でした。国際展金賞目前の88点を獲得できクリティークでは「ほぼ金賞」というFBを外国人審査員よりいただくことができました。その後2年間、製造面スタディの納得性を更に高めるマテリアルの入手に力を入れると共に、美観を損ねる封筒を減らす努力を行い、狙っていた金賞を獲得でき、嬉しく思っています。

日本国際切手展2021 競争部門 審査結果

CLASS 一覧

1A 伝統郵趣 (日本) 1B 伝統郵趣 (アジア、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ) 2A 郵便史 (日本) 2B 郵便史 (アジア、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ) 3 ステーションナリー 4 航空郵趣 5A テーマティック (自然) 5B テーマティック (文化) 5C テーマティック (技術) 6A 現代郵趣 (伝統郵趣) 6B 現代郵趣 (郵便史) 6C 現代郵趣 (ステーションナリー) 7 印紙 8 オープン 9B ワンフレーム (郵便史) 9C ワンフレーム (ステーションナリー) 10A ユース (10 歳 -15 歳) 10B ユース (16 歳 -18 歳) 10C ユース (19 歳 -21 歳)

CL	作品名称	F	出品者名	S1	S2	S3	S4	合計	賞
1A	Japan 1871-1876 Hand Engraved Issues	8	Yamada Yuji	29	34	29	5	97	LG
	Japan Hand-Engraved Stamps 1871-1876	5	Takikawa Tadashi	24	31	24	3	82	V
	Hand Engraved Stamps of Japan 1871-1876	8	Ota Katsumi	28	34	28	5	95	LG
	Japan Hand-Engraved Stamps 1871-1876	5	Koyama Takashi	25	32	25	4	86	LV
	Japan 1 Sen Blue Cherry Blossom, Native Paper	5	Miyama Hironaga	26	33	26	5	90	G
	Japan Old Koban Issues 1876-1979	8	Inaba Ryoichi	28	34	28	5	95	LG
	Japan Definitives 1899-1908	5	Utsumi Shoichi	23	30	24	4	81	V
	Japan Chrysanthemum Stamps 1899-1910	5	Kato Shigeki	23	30	25	4	82	V
	Japan Chrysanthemum Series 1899-1910	5	Murayama Kosuke	23	30	25	4	82	V
	Chrysanthemum Series of Japan: 1899-1910	8	Iida Fumio	26	33	26	5	90	G
	Japan Definitive 1913-1937	8	Yamada Yuji	28	34	28	5	95	LG
	Japan Definitive Issues 1914-1925	8	Niwa Akio	26	33	27	5	91	G
	Japan Definitive Stamps 1914-25	5	Nagatake Kazuhiko	26	33	26	5	90	G
	Japan Definitives 1922-1937	8	Yoshida Takashi	26	33	26	5	90	G
	Japan Definitives 1937-1940	5	Kikuchi Emi	25	31	25	5	86	LV
	Japan Showa Series, 1937-46	8	Ito Sumihide	27	33	27	5	92	G
	Japan Definitive Stamps 1937-1945	8	Hayashi Kunihiro	28	34	28	5	95	LG
	Japan Definitives: New Showa Series, 1946-1948	5	Iizawa Tatsuo	24	30	24	4	82	V
	Japan Definitives 1952-1959	5	Yajima Hideaki	23	28	23	4	78	LS
	Ryukyus 1945-52	8	Ishizawa Tsukasa	28	34	28	5	95	LG
1B	Manchukuo 1932-1945	5	Kawasaki Tetsuo	24	30	25	4	83	V
	Japanese Occupation of the Philippines 1942-1945	5	Kaburaki Akira	23	30	24	4	81	V
	Japan Commemorative Issues 1894-1944	8	Nishikawa Satoshi	26	33	27	4	90	G
	Siam 1883-1899	8	Iwasaki Zenta	27	31	26	4	88	LV
	Republic of China Definitive Stamp 1938-1941	5	Shigeyama Masaru	24	31	25	5	85	LV
	Japanese Occupation Issue of China	8	Kojima Yoshimasa	24	32	25	5	86	LV
	Republic of Korea 1945-47	5	Kido Yusuke	24	30	24	4	82	V
	Great Britain Mulready Letter Sheets and Envelopes One Penny Black and Red, Two Pence Blue	5	Nagahama Akihiko	23	29	23	3	78	LS

多くの部門における枝点 (S1, S2, S3, S4) の配分 : Tr&Im (30) Kn&St (35) Co&Ra (30) Pr (5)

CL	作品名称	F	出品者名	S1	S2	S3	S4	合計	賞
1B	France Definitives 1849-1862	8	Ariyoshi Nobuto	26	33	28	5	92	G
	Kingdom of Prussia 1850-1867	8	Yoshida Takashi	29	34	28	5	96	LG
	Nova Scotia Pence & Cents Issues 1851-1867	8	Tada Yuichi	27	33	27	5	92	G
	Swiss Definitive Stamps (1854-1907)	8	Kobayashi Kanji	24	26	24	4	78	LS
	Romania "King Ferdinand I" Series 1920-1926	8	Itabashi Yuki	24	32	25	5	86	LV
	Estonia Skyline Issue 1920-1924	5	Itabashi Yuki	23	30	24	4	81	V
2A	Swedish Definitives 1858-1885	8	Agren Johan (香港)	25	33	24	4	86	LV
	The Japanese Couriers 1570-1873	8	Yamazaki Yoshiyuki	25	33	26	4	88	LV
	French Post Offices in the Far East 1855-1880	5	Wakakuwa Shoichi	25	33	25	4	87	LV
	Foreign Mail in Nagasaki, Japan 1865-1905	8	Ito Sumihide	24	30	23	3	80	V
	Enhancement and development of Japan's postal system 1899-1913	5	Aiba Toshiaki	23	28	23	4	78	LS
	POW Mails in the Japanese War 1904-1955	5	Numazaki Hiroyuki	23	28	23	4	78	LS
	Siberian Intervention War	5	Suzuki Takao	24	32	23	4	83	V
	Early Cancellation of Mimasaka, Bizen, Biccyo-Han in Okayama prefecture	8	Ando Gensei	23	32	24	4	83	V
	Japan Overseas Printed Matter 1877-1949	5	Morita Misako	22	26	23	4	75	LS
	The Development of Japanese Express Delivery Service in Early Period	8	Ikeda Kenzaburo	26	33	26	5	90	G
2B	The streamline of Efficiency and Automation in Japanese Postal Services	5	Mizutani Yukihide	26	32	25	4	87	LV
	Iraq: The Royal Air Force Desert Air Service	5	Abdulwahab Nader (イラク)	24	32	25	4	85	LV
	The Opening of China 1745-1897	8	Ohba Mitsuhiro	27	33	26	4	90	G
	Postal History of Chinese Imperial Post 1897-1912	5	Fujimoto Hirotsugu	25	28	24	3	80	V
	Postal History of Manchuria	8	Iitsuka Hiromasa	24	32	26	4	86	LV
	Indian Campaigns	8	Koiwa Akihiko	28	34	28	5	95	LG
	The United States Registry System, 1880-1910	8	Wada Fumiaki	24	32	23	3	82	V
	German inflation 1922-1923	8	Ito Fumihisa	26	32	24	4	86	LV
	Hungarian inflation 1945-1946	8	Ito Fumihisa	26	33	25	4	88	LV
	The U.S. Return Receipt Requested & Avis de Reception 1866-1945	5	Wada Fumiaki	23	30	24	3	80	V
3	The Diversity of Mukungwha Date Stamps	5	Shong Ilho (韓国)	22	29	22	4	77	LS
	Honduras Postal Stationery	5	Ho Michael (台湾)	26	34	28	5	93	G
	Postal Cards of Japan 1873-1874 Cherry Blossom Issue	8	Sai Touru	29	34	28	5	96	LG
	Japan-Postal Stationery 1898-1908	5	Furuya Yoshikazu	24	30	26	5	85	LV
	Commemorative Postal Cards of Japan 1936-1962	5	Sudani Nobuhiro	25	32	24	4	85	LV
4	Postal Stationery under Japanese Naval Occupation Area	5	Morikawa Tamaki	25	32	25	4	86	LV
	Airmails carried by South America Flights of Graf Zeppelin	5	Tatsukawa Kenichi	24	30	24	4	82	V

テーマティック、オープン、文献などの枝点 (S1, S2, S3, S4) の配分はそれぞれの審査規則に依る

CL	作品名称	F	出品者名	S1	S2	S3	S4	合計	賞
5A	Frogs and Toads -in the Biodiversity-	5	Nagashima Hironobu	25	23	20	4	72	S
	Floriculture	5	Kanomi Satoko	31	25	24	5	85	LV
	Journey of Roses -its background and relations ship with people	5	Yamada Seiichi	28	25	23	4	80	V
	The Tiger	5	Kim Jin Soo (韓国)	28	24	22	4	78	LS
5B	The History of Artist's Portraits	8	Emura Kiyoshi	30	27	25	4	86	LV
	World War II in Asia - the butterfly effect of war	5	Koto Takehiko	29	26	25	5	85	LV
	The History of Cartography - Mapping the World and Regions	8	Nishiumi Takao	34	28	26	5	93	G
	History of Voyage	5	Nam Sang Chul(韓国)	30	25	26	5	86	LV
5C	Evolution of Space Development	5	Nakao Kinzo	26	22	20	4	72	S
	The Telephone Story -Sending very long-distance voice messages-	8	Katsui Akinori	31	28	27	5	91	G
	Journey to the taste with agriculture	5	Park Kwang Seok (韓国)	30	25	25	5	85	LV
	Intercosmos	5	Dorjhorloo Mischeel(モンゴル)	26	22	20	4	72	S
	The Eyes in the Dark Sea - Lighthouses	5	Thai Tri Trong(ベトナム)	29	25	23	5	82	V
6A	Japan Definitives 1992-1998, The Nature of Japan Series	5	Koto Takehiko	26	28	25	4	83	V
	Definitive Stamps During the Basic Rate was 300 won in Korea	5	Min Kyoung OG(韓国)	21	29	23	4	77	LS
6B	The Postal History of Lithuania Registered Mail 1989-1996	5	Araki Hiroataka	27	33	20	5	85	LV
6C	Postal Cards and Envelopes 2014 of Taiwan	5	Liu Yu-Chi (台湾)	24	29	23	4	80	V
7	The Hand Etched Documentary Revenue Stamps of Japan, 1873-1874	8	Hasegawa Steven Jun	29	34	28	5	96	LG
8	Japan: The Meiji Restoration	5	Nobehara Takashi	20	24	22	4	70	S
	History of Sumo	5	Sudani Nobuhiro	23	28	23	4	78	LS
	Shiko Munakata -His Life and work of art-	5	Ikezawa Katsunari	23	27	24	4	78	LS
	Republic of Finland -its independence and the struggle-	5	Kikuchi Tatsuya	21	27	22	3	73	S
9B	Advertised Postmarks in JAPAN	1	Iwasaki Tomoyuki	26	32	24	4	86	
	Japanese Military Mail During Boxer Rebellion	1	Shimizu Masaaki	23	31	22	4	80	
	Postmarks of Miyakojima, Ryukyus 1946-1958	1	Ohi Michio	22	30	24	4	80	
9C	British Military Air Mail Stationaries in WW II 1941-1945	1	Sugihara Masaki	25	32	24	4	85	
10A	Taiwan 2018 Postal Cards and Envelopes	3	Shih Miao-jen(台湾)	23	22	18	22	85	LV
	The Culture of our country	3	Hwang Chae Hyun(韓国)	25	16	15	20	76	LS
10B	World National Clothes	3	Altankhuyag Irmuun(モンゴル)	20	17	17	11	65	SB
	Camel - Bactrian	4	Tsetseg-Ulzii Ashid(モンゴル)	24	20	20	12	76	LS
10C	Taiwan ATM Stamps - Tung Blossom	5	Wu Shih-Han(台湾)	26	32	17	8	83	V
	Postal Cards and Envelopes 2015 of Taiwan	5	Liu Li-Chi (台湾)	28	30	17	8	83	V

文献部門の結果（日本のみ）

CL	作品名称	出品者名	S1	S2	S3	S4	合計	賞
11A	Japan 1871-1876 Hand-Engraved Stamps	Sobue, Yoshinobu	33	35	13	4	85	LV
	The Dragon Issue 1871-1872	Yamazaki, Yoshiyuki	32	36	13	4	85	LV
	Specialized Catalogue of The Showa Definitives Issues 1966-1989	Yamazaki, Yoshiyuki	33	35	13	5	86	LV
	Guide to military postal analysis with examples during the Pacific War Sino-Japanese War	Asano, Norio	31	30	11	4	76	LS
	Pioneering Study of Bisected Circle Type Datestamps, Japan 1888-1909 - Base Collection of Yutaka Tanaka's Pioneering Study -	Nagatomi, Isao	28	27	12	4	71	S
	THE 69th All Japan Stamp Exhibiton 2019	Kofujita, Hiroshi	31	29	11	4	75	LS
11B	Modernest Stamp	Yamazaki, Taro	24	26	10	3	63	B
	Stampedia Philatelic Journal	Stampedia Inc.	36	37	13	4	90	G
	Yushu Bound Volume for 2020	Japan Philatelic Society	31	30	12	4	77	LS
11C	Japanese Stamps Specialized Catalogue Vol.1, Vol.2, Vol.3	Japan Philatelic Society	36	37	14	5	92	G
	Japanese Stamps Specialized Catalogue 1876-1908	Japan Philatelic Society	37	38	14	4	93	G
	Sakura Catalogue of Japanese Stamps 2022	Japan Philatelic Society	32	32	12	4	80	V



大金賞受賞者
左から山田、稲葉、林、石澤、
吉田、小岩、斎+日本郵便の
プレゼンターの方



金賞受賞者
左から伊藤、丹羽、吉田、多田、
池田、大場、稲葉、JPS、正田

写真の受賞者紹介は敬称
略とさせていただきます。

パルマレスの記録



日本郵便 衣川社長



コロナ禍にも関わらず競争展出品者の為に開催されたパルマレス 審査トップの佐藤浩一氏による審査総評

グランプリ・インターナショナル

Kingdom of Prussia 1850-1867 吉田敬

グランプリ・ナショナル

Japan 1871-1876 Hand Engraved Issues 山田祐司

同候補 Postal Cards of Japan 1873-1874 Cherry Blossom Issue (斎享)

The Hand Etched Documentary Revenue Stamps of Japan, 1873-1874(長谷川純)



グランプリ受賞者への記念品贈呈 (左: 吉田、右: 山田)

国内競争切手展 受賞結果抜粋等

全日本切手展 2021

2021/6/25（金）～6/27（日） 会場：すみだ産業会館

競争展示作品（文献除く） 30作品 99フレーム

部門	作品名称	F	出品者	賞
伝統日本	和紙桜青一銭	5	高橋 卓雄	LV
	玉六	3	山崎 好是	LV
	第1次新昭和切手	4	濱谷 彰彦	LS
	観光地百選	3	宇佐見 比呂志	SB
	通常はがき（1873～1876）	3	村上 信和	SB
伝統外国	スイス不足料 1883-1910	5	有吉 伸人	LV
	POSTCARDS of MANCHUKUO	5	岩崎 善太	LV
	ドイツの普通切手 ブランデンブルク門図案 1966-67	4	田中 勝善	S
郵便史日本	東京と大阪の商圏	3	近辻 喜一	B
	震災郵便史	4	遠藤 浩二	LS
	日本の近代郵便の歴史	5	吉田 敬	G
	美作國の二重丸印	5	安藤 源成	LS
	支局の丸一型日付印	3	上遠野 義久	V
	丸二型日付印とその時代	5	山田 理治	SB
	満州国の鉄郵印	3	黒原 和男	S
	日本の軍艦郵便	3	森下 幹夫	LS
郵便史外国	Indian Army Postal History of WW1	5	榎沢 祐一	LS
テーマティック	World War II in Asia the butterfly effect of war	5	虎頭 雄彦	LV
オープン	明治の東京・深川 郵便局ぶらり散歩	3	鎌倉 達敏	LS
	Republic of Finland its independence and the struggle	4	菊池 達哉	V
	オリンピックと日本	5	犬飼 英明	LV
ユース	日本の国立公園	2	千葉 郁実	S
現代郵趣	Japan Definitives 1992-1998 the Nature of Japan Series'	5	虎頭 雄彦	LV
ワンフレ	外信実通 初日カバー	1	安藤 源成	LS
	<支那>加刷・大正白紙切手	1	柳川 英幸	S
	教育勅語記念	1	木下 朋英	S
	平成郵便切手の変遷	1	下園 康治	B
	低料年賀郵便制度	1	山田 克興	SB
	完全参加と平等を目指してー国際障害者年40周年ー	1	山口 弘幸	SB
	日芬関係史	1	菊池 達哉	S

*チャンピオンクラスに2作品が展示されましたが、FIPの定める同クラスの上限を超えた展示であるため、記録には割愛します。

全日展 2021 参観記

長野行洋

昨年はコロナ禍の下中止となった全日展が、去る6月25日(金)～27日(日)、恒例の東京錦糸町・すみだ産業会館で2年ぶりに開催された。短時間の参観で、今回は1行程度コメントにてご容赦を。敬称略。

招待出品

郵便操業150年にふさわしい2作品。「龍切手」切手文化博物館、門外不出の故金井コレクションが東京初お目見え。豪華文献出版されているが、実物の迫力は格別。「静岡の不統一印」日本切手社、故松島コレクション渾身のライフワーク作品。見ごたえが。

チャンピオンクラス

国際展金賞の2作品、共に大金賞。「飛脚」東京・山崎好是、「手彫証券印紙1873-1876」愛知・長谷川純、共に郵便150年の周辺作品として花を添えている。

伝統郵趣・日本

手彫2作品が大金銀賞。「和紙桜青一銭」静岡・高橋英雄、全体のバランスが取れた構成、年季を感じさせる。「玉六」東京・山崎好是、たんぶるぼすと連載をリーフに具現、完成度マチマチも仮名別リコンストラクションで作品に重み。目玉の仮名ヨは嫁入りとか。横浜国際展のどなたかの作品で拝見できるか。

「第1次新昭和切手」東京・濱谷彰彦(大金賞)、話題にならないが新昭和切手発行75年タイムリーなご出品。製造面・使用例の基本に加えて未使用シートも上手く配されていた。

「観光地百選」愛知・宇佐見比呂志(銀銅賞)済と使用例の構成。伝統郵趣としては未使用がないと高評価は難しい。座布団が切手のみ。大きく目立つカバーにも座布団がある方が統一感がとれるのでは。

「普通はがき1873～1876」岡山・村上信和(銀銅賞)、未済のゼネラルコレクションは好感が持てるが、往復はがきがないのが残念。

競争展示作品(文献) 6作品

単行本部門・名称	出品者	賞
創業150年 郵便の歴史	星名 定雄	G
第69回全日本切手展・全日本切手展史	小藤田 紘	V
エコー葉書カタログ	鈴木 幸宣	LS
新動植物国宝切手カタログ	山崎 好是	V
ハンディ版 平成切手カタログ	山崎 好是	LS
和欧文機械印の研究 第2期 1979-1990	水谷 行秀	LS

雑誌部門・名称	出品者	賞
月刊「たんぶるぼすと」	山崎 好是	V

伝統郵趣・外国

大金銀賞2点。「POSTCARDS of MANCHUKUO」兵庫・岩崎善太、製造面のバラエティと特殊扱いの使用例を多用、単調さをカバー。

「スイス不足料 1883-1910」神奈川・有吉伸人、不足料切手はこの国でも小型でリーフ作りが難しいが、カバー含め上手く見せて見事 高位入賞。

「ドイツの普通切手 ブランデンブルグ門図案 1966-67」愛知・田中勝善（銀賞）、短期間のコイル専用切手を要領よくリーフにレイアウト、佳作。

郵便史・日本

金賞・日本郵便賞「日本の近代郵便の歴史」東京・吉田敬、国際展において日本の郵便史で大金賞を狙うとの大作。三十数年前には手彫伝統郵趣作品の冒頭だった各国在外局カバー・初期からの手彫カバーの数々とスケールの大きな作品。

「支局の丸一型日付印」埼玉・上遠野義久（金銀賞）、ある意味二重丸印より難しい丸一の支局印。京都・広島などの地方の珍印他、先輩の収集も引き継いだ東京支局の充実ぶり。

大銀賞3点。「震災郵便史」福島・遠藤浩二、このところ、伝統郵趣から郵便史に軸足の震災ベテランの連続ご出品。

「美作の二重丸印」岡山・安藤源成、地方マルコフィリー（郵便印郵趣）の評価はとかく厳しいが、見慣れない局名を見る楽しみが。

「日本の軍艦郵便」群馬・森下幹夫、軍事郵便の一分野、マルコフィリー・郵便史・テーマチックと作品作りの上でボーダー難しい。

「満州国の鉄道郵便」大阪・黒原和男（銀賞）、難しいテーマにチャレンジ、これからが苦しみも1点入手の嬉しさ格別。

「丸二型日付印とその時代」京都・山田理治（銀銅賞）、このところ、短期間で使用局限られる丸二作品が全国展にしばしば。逆にまとめ方がそれぞれ個性的。

「東京と大阪の商圏」東京・近辻喜一（銅賞）、明治期葉書で毎回ユニークな着想でのご出品の数々。今回も通信史の定量分析。



「美作の二重丸印」

郵便史・外国

1点。「Induan Army Postal History of WW1」愛知・榎沢祐一（大銀賞）、大きなテーマを堂々5フレに展開。国際的評価を判り易くを心がけることに注力。

テーマチック

1点、同じ戦争物こちらはテーマチックで大金銀賞。「World War II in Asia the butterfly effect of war」東京・虎頭雄彦。

オープン

全日展では珍しく3作品。大金銀賞「**オリンピックと日本**」東京・犬飼英明、1年延期もタイムリーな作品。1940年の幻の東京五輪のシール等の非郵趣アイテム、近代オリンピックの父・クーベルタン男爵やアジア初のIOC委員・嘉納治五郎の書状といった郵趣アイテムと目玉こじっかり。NHKの大河、見ておいてよかった。

「**Republic of Finland Its independence and the struggle**」新潟・菊池達哉(金銀賞)、親日フィンランド史をその度に構成を改善ご出品の労作。

「**明治の東京・深川郵便局 ぶらり散歩**」神奈川・鎌倉達敏(大銀賞)、愛着の生誕地・深川の厳選された郵趣品と地元の観光協会顔負けの名所案内・局めぐ。郵趣家も一般の人にも楽しめる二刀流も、コロナで一般参観者少なく残念

ユース

1点でも出品あってなにより。

「**日本の国立公園**」兵庫・千葉郁実・16才(銀賞)、小学生の頃よりご出品、リーフ作りお手のもの。しっかりしたタイトルリーフに好感。

現代郵趣

1点も国際展仕様英文リーフで大金銀賞・通信文化協会賞「**Japan Definitivs 1992-1998 The Nature of Japan Series**」東京・虎頭雄彦、平成切手でも製造面・エラー等作品がに重み。平成切手カタログ刊行の集大成かも。

ワンフレーム

伝統郵趣4点、郵便史・テーマ・オープン各1点。

「**外信實通 初日カバー**」岡山・安藤源成(大銀賞)、大ベテラン引き出しの多さは驚くべきも、さらに作品に昇華の着想がユニーク。

「**<支那>加刷・大正白紙切手**」静岡・柳川英幸(銀賞)、支那字専門家でも1フレ構成は年季が必要、最新製造面バラエティもしっかり。

「**教育勅語記念**」長崎・木下朋英(銀賞)、記念1シリーズ1フレ作品連続出品。使用例カバーのレベル落ちずさすが。

「**平成郵便切手の変遷**」岐阜・下園康治(銅賞)、洪水の新切手使用済での収集の基本。

「**低料金年賀郵便制度**」東京・山田克興(銀銅賞)、1フレに収まらず3フレ以上のレギュラー作品に伸ばせるテーマだからとの事が辛目評価。

「**完全源参加と平等を目指して - 国際障害者年 40周年 -**」長崎・山口弘幸(銀銅賞)、切手中心も判り易いストーリー構成。

1フレオープン「**日芬関係史**」新潟・菊池達也(銀賞)、レギュラーこだわりのフィンランドの親日ぶりの補足編。ご親切なこと。

横浜国際展の年、出品数は少なかったが、コロナ禍下2年ぶりに開催。直前に緊急事態宣言解除で公共会場が使えたが、その後再緊急事態宣言で時期ギリギリであった。出品者・関係者の皆さまに感謝。来年も楽しみ。

ジャパNSTAMPオークションニアレポート

鯛 道治

2021 年 8 月 29 日開催の第 118 回フロアセール他のレポートです。

超速報ベースなのですが、PA は落札率 65.14% で想定範囲内です。MA は従前の不落札品の値段を下げての再出品が大部分あり、結果としての落札率は 57.08% に留まりました。

こちらの最低値はかなり割安なのですが、弊社のオークションでの需要は、安いから買うのではなく、欲しい物を買うのだということが分かります。

手数料抜きのハンマープライスは、PA・MA 合計で 1 億 739 万 8050 円、最低値の合計とほぼ一致しています。日本国際切手展の Special Sale なのですが、やはりコロナの影響は否定できず、フロアへのご参加数は実人数で 80 名、代行札を入れて 100 数名でした。期待値より 3 割位少なかったと思います。

出品物の方は、各分野で良い物が随分と並んだのですが、トラッド向きの超一級品の小判切手の高値は当たり前のことなのです。物が良ければその道のトップコレクターならば見落としは有りません。だから、ここでは本筋を少し外した裏ネタをピックアップして書いてみます。

Lot389 東宮婚儀銘付 4 x 2 B 未使用 銘版の下に天地逆の銘版の一部が残る

最低値 60,000 応札 5 スタート 100,000 落札値 195,000

出所はコレクションでなく、ストックブックに入ったディーラーズアキュムレーションの一部でした。この品物を見て、一瞥でギョッとしたのです。下耳が不揃いでやや長く、二重銘版かなと思いました。でもよく見れば、半銘の方は正規のそれと天地が逆なのです。50 面シートを多分 2 面掛けで、テートベッシェで刷っています。

製造面では昔から推測されていたかも知れませんが、窓口から出たアイテムでこの事実が確認されたのは初めてかと思います。説得力が有って、戦前の記念切手の製造面を語るには最高のマテリアルです。大きい事はプラスだし、見栄えが良いのでコレクションの質が上がるのです。この分野の専門コレクターはノンリミットで落し切るつもりだったでしょう。逆算ですが、オークションでのハンマープライスは落札者でなく、アンダービッダー（2 番札＝競って負けた人）が決めるというメカニズムを明瞭に証明したケースです。



Lot665 竜半銭 1 版 4 枚貼 □土居撿+◎作州土居郵便所→N1B1 大阪 7.4.8

最低値 200,000 応札 6 スタート 310,000 落札値 410,000

Lot666 竜 1 銭 2 版横ペア貼 □土居撿+朱□土居郵便役所→N1B1 大阪 7.1.26

最低値 200,000 応札 5 スタート 370,000 落札値 370,000

Lot669 和桜黄 2 銭貼 □上市撿査済+朱□上市驛/郵便取扱所

最低値 30,000 応札 6 スタート 78,000 落札値 78,000

Lot665～678 は極直近の蔵出しです。全てのカバーが余りにもスッキリして封の状態がピンシャンで、素人さんの蔵出しなら当然あるはずの郵趣マテリアルとしては邪魔な中身の手紙も無いのです。

余りにも状態が綺麗に整い過ぎて不思議な程にスマートなので、一瞬疑って見たのです。悪意で見れば、筆跡もよく似ているように見えるのです。差し出し地は色々で、宛先は奈良で同じ。

出品物の持ち込み者は長年のコック稼業をリタイアして、ずっと夢見ていたであろう京都の小さい紙物の市を梯子して、エンタ漁りにどっぷりとつかって、今やっと至福の時を過ごしている人なのです。2 年ほど前から、東京のメジャーな催事に看板を挙げて出店する楽しみを覚えたばかりなのです。値付けが甘いというか、人柄ゆえに優しすぎるので、鵜の目鷹の目のハイエナ・狼・ハゲタカの鴨になっていると思います。私とはかなり前からの付き合いなので、何時でも値段を聞いてよと言っているのですが、それを潔しとしない善良な人なのです。

今回は手彫のエンタだし、量も有るので売り先の一つとして真っ先に物を見せてくれたのです。竜を扱うのは普段は無いでしょう。この人なら変なルートとは付き合いは無いし、ご本人が悪戯をしないことは分かっています。でも、念を入れるに越したことは無いでしょう。慎重に調べました。物的には、XRF を使うに相応しい出来栄えなので。勿論、危惧は杞憂に過ぎませんでした。あらゆる要素で真正品で通ります。

ハンマープライスは Lot665 の竜半銭 1 版が 41 万、Lot666 の竜 1 銭 2 版が 37 万、美作・土居は単片で抹消印は知られていても、オンカバーでの証示印は未確認だったと思います。ルックスを加味すれば、応札数も落札値も至極まともな数字です。

ちょっとびっくりが、Lot667～677 までの桜のエンタの結果でした。ビッド数も、ハンマープライスも予想をはるかに超えました。前もって尋ねられていたのが、桜 2 銭貼りの大和上市の値段です。まだまだたくさんあるのだそうです。この人は売るテクニクは皆無です。有るだけ全部を馬鹿安の均一値で並べてしまうかも知れません。

この山の買い値は安かったと聞きました。でも、それはそれで、バツ売りは NG です。代表例として聞かれた、沢山有って綺麗な上市レベルなら、無難な数字として 5 万円で売れるでしょうの答えをしていたのです。

今回のオークションの結果は私の読みも外れていたかと思います。綺麗な物は欲しい人が一杯いるのです。次の大きい催事は、JAPEX です。行く前にもう一度念押しして知恵を付けておきましょう。ミスミス鴨られるのが目に見えているだけに、なんとか手当をしてあげたいのです。



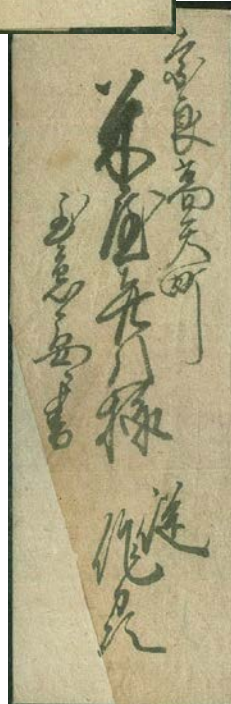
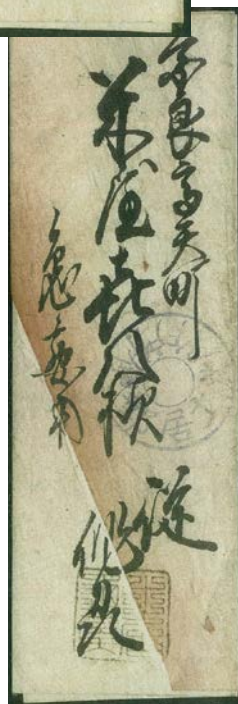
Lot 665



Lot 666



Lot 669



Lot771 支那字入旧毛 5 円・10 円 未使用 OH 10 円鑑定サイン鉛筆書き

最低値 500,000 応札 3 スタート 950,000 落札値 950,000

組合カタログ値で 5 円が 45 万、10 円が 90 万です。ハンマープライスの 95 万+手数料 16%では 110.2 万=型価の 81.6%です。イギリス帰りのフレッシュな物で、リッチガムの OH、勿論リガムでは有りません。ポストークコレクターの需要が期待できるのですが、弊社レベルでも 1 年に数点は扱っていると思います。

10 年ぐらい前の事、アメリカのオークションで極美のセットが 10 組ほど出たのです。田型が一組、後は単片です。超フレッシュで NH、ウエルセンターなので、全部を飛び込んで買いました。田型はフル型よりも若干安く、他も 2 種のセットで 100 万位で何時の間にか綺麗さっぱり消えました。

仕入れ時のグロスの支払額は大きくても、銘柄が良い物で、極美の未使用なら商売とすれば、目一杯頑張っても大丈夫だという実例です。今回のセールでのお買い上げは、ごく最近にヤフオク経由でやって来てくれた人。メールビッドはフル型を遙かに超えた数字でした。

ヤフオクの意地の張り合いでの競り合いなら、ビッドしてくれた数字近辺まで行ってしまったかも知れません。この類は場でシャカリキに競り合うのではなく、冷静なメールビッドで決着がつくのです。今回の落札値なら、出品者もハッピーだし、落としてくれた人も、ペーパーのオークションの良さを感じてくれたと思います。



Lot990 青島軍事 未使用 小 OH 美 日本郵趣連合鑑定書付

最低値 1,200,000 応札 5 スタート 1,850,000 落札値 2,300,000

ガチガチのご要望を受けていました。これが有ればポストークがコンプリになる。お支払い能力に問題は有りません。でも状態への要求は厳しいのです。センターが良くないと駄目なのです。ヒンジは一応 OK です。組合型価の 220 万なら割高ではありません。但し鑑定書が必須です。

今回の物は 10 年以上前に、弊社で表紙に載せた現物だったと思います。当時は 1 年間で 3 点ほど、立て続けて扱ったことが有りました。でも、ばったりと止まっていて、条件に見合う売り物は本当に出てこないのです。

2 年ほど前に JPS オークションに出て、結果としてくっついて 8B になった左耳付田型ですが、買うか否かをかなり迷っていたのです。複数のお客は居る、田型を切って、3 人に売って元が取れる計算でした。そろばん勘定は合うのですが、肝心のセンターが厳しいのです。3 人そろって買ってくれてこそそのビジネスです。だからパスを選びました。正解だったと思います。

良い物は、型価や過去の実績は度外視しても良いのです。でも、青島で最初に書いた条件を満たすものはホントに稀にしか出て来ません。今回のお買い上げは、私の想定に無かった人、メールビッドにはまだまだ十分に余裕が有りました。綺麗なカバーが楽勝で買える値段でした。未使用のポストークコレクター、恐るべし、でも即売で売る場合は、カタログ値が Max です。このレベルの物はやはりオークションで売るべきだと改めて認識できた次第です。



Lot1237 菊 5 円・10 円 みほん 未発表タイプ NG

最低値 50,000 応札 4 スタート 52,000 落札値 290,000

ブログにちょっとした情報を書いたら、長竹一彦さんが教えてくれました。同じ物が旧毛の 1 円の初期印刷にも有るのです。このタイプは、山本義之さんの本にも、直近の日専にも出ていませんが、素性は容易に想像できるのです。

菊 5 円・10 円の発行時の周知用の“みほん”は逓信省では漢字の見本です。同時に台湾と朝鮮にも異タイプの見本が有るのです。5 円に多い大型みほんの成り立ちは判りませんが、後年の照鑑用だと思います。菊の 18 額面でもほぼ同じ理屈です。

【見本】と【みほん】の違いというのはド派手ですが、周知用と照鑑用での複数タイプの存在は結構多いと思います。手彫から U 小判までは墨点があるので、竜から U 小判の【みほん】は照鑑用だと分かります。作られた時代は早くても明治 21 年の新小判発行時を遡ることは無いでしょう。収集ポイントとすれば、新小判の 3 銭とそれ以外の目打 12 が要注目です。

今回の物は田沢の初期の照鑑用だと思います。有る事が分かれば探すことも出来るでしょうが、かなり希少な物でしょう。

みほんと言えば、正規のみほん加刷に後で支那字を加刷した物が知られています。字体が違っているので、永らく偽加刷呼ばわりされていたのですが、今ではきちり戸籍が付いています。外地での照鑑用に本物のみほんに、支那字を後で加刷したのです。

今回の物も、数が増えれば謎解きが出来るかも知れません。でも 29 万はいい値段、菊高額の未使用のそこそこの状態の物と同じです。3 人が接近した値段だったことは嬉しい驚きでした。



Lot1998 U小判 5 銭藁紙貼ハワイ宛 和歌山ボタ 21.8.14 桑港經由ホノル宛
O HONOLULU DEAD LETTER 差出人戻し→丸一紀伊和歌山 22.5.8 へ

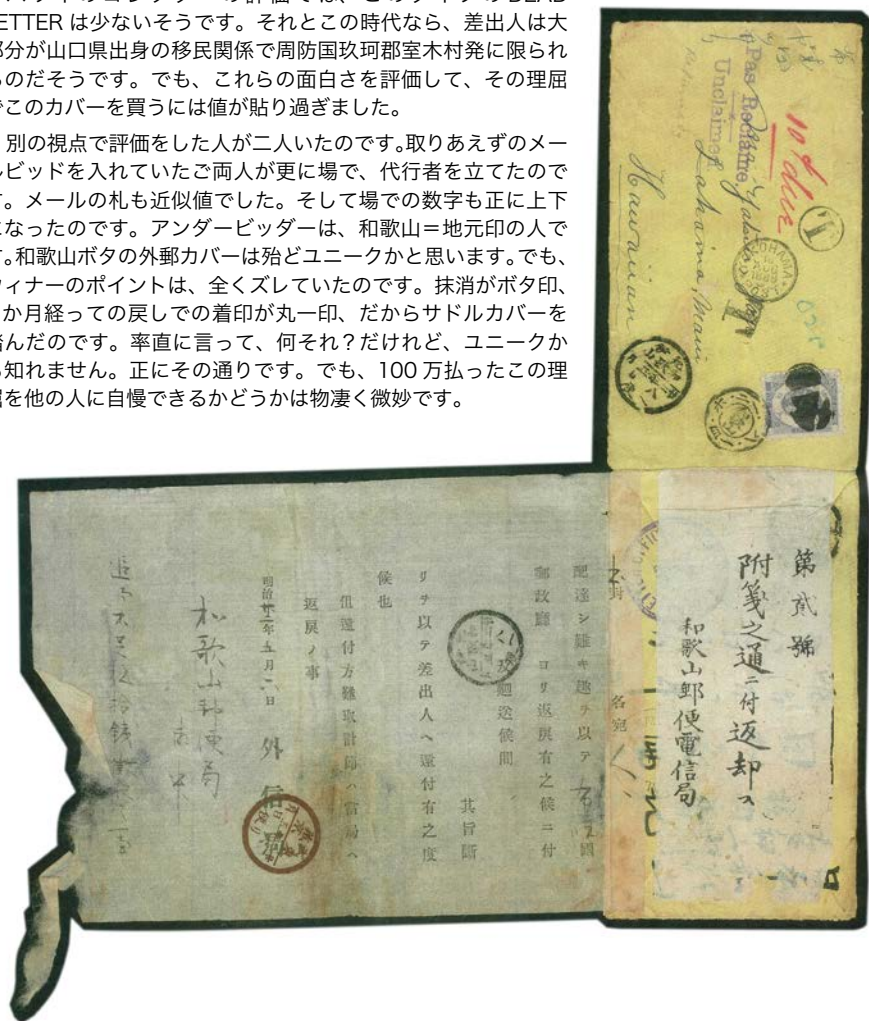
最低値 200,000 応札 5 スタート 660,000 落札値 850,000

書けるネタが満載のカバーです。ハワイ宛の料金を紐解きます。ハワイ王国の UPU 加盟は 1882 年 1 月 1 日です。その後 1907 年 10 月 1 日に、プエルトリコ・フィリピンと共に、US Possession として米国と同じ扱いになっています。つまりこのカバーの 1888 年では、アメリカ・上海・カナダ以外の UPU 加盟国宛と同じなのです。桑港経由がこの料金、イギリス・ドイツ宛と同じで書状料金は 10 銭です。だから 5 銭不足の T 10 C Due です。

でも、例外が有って、アメリカへ行く前のダイレクトのハワイ宛なら、10 銭でなく 5 銭なのです。この理屈は片山七三男先生が実例に基づいて解明してくれました。因みにアイホン君の情報では、この頃のホノルル港は水深が浅くて大型船が入れないので、基本的にハワイダイレクトは無いのだそうです。

ハワイのコレクターの評価では、このタイプの DEAD LETTER は少ないそうです。それとこの時代なら、差出人は大部分が山口県出身の移民関係で周防国玖郡室木村発に限られるのだそうです。でも、これらの面白さを評価して、その理屈でこのカバーを買うには値が貼り過ぎました。

別の視点で評価をした人が二人いたのです。取りあえずのメールビッドを入れていたご両人が更に場で、代行者を立てたのです。メールの札も近似値でした。そして場での数字も正に上下になったのです。アンダービッダーは、和歌山＝地元印の人です。和歌山ボタの外郵カバーは殆どユニークかと思います。でも、ウィナーのポイントは、全くズレていたのです。抹消がボタ印、9 か月経っての戻しでの着印が丸一印、だからサドルカバーを踏んだのです。率直に言って、何それ？だけれど、ユニークかも知れません。正にその通りです。でも、100 万払ったこの理屈を他の人に自慢できるかどうかは物凄く微妙です。



スタンペディアオークション

第 18 回セール (2021.7.3 フロア 綿商会館) レポート

スタンペディアオークション株式会社

7月3日に日本橋富沢町の切手市場第二会場（綿商会館）で第18回セールを開催しました。これまで7月は毎年、全日展で特別セールを開催していましたが、今年はその機会がなかったため、他の月同様に切手市場第二会場で開催しました。

コロナ禍でマスク着用、手指消毒をお願いした上でフロアセールを開催しましたが、人の入りも悪くなく、外部イベントに頼らなくても単独でフロアセールを開催できる目処が立ちました。全日展との併催でない事について、ご出品者・入札者ともご不満の声もありませんでしたので、今後は毎年切手市場さんにお世話になることにいたしました。

事前入札は302名(-5名)にとどまりましたが、フロア来場者数は36名(+2名)と増加し、活発な競りが行われました。最終落札率69.0%、流通額20,483,905円。

恒例の事前入札ベストテンは以下の通りです。(単位：円)

	事前入札 件数	Lot	最低値	落札値	ロット内容
1 位	9	1814	5,000	39,000	中国 1920-1930 年代の葉書 5 通。 1 通は帆船 (北京新版) 5C、10C。貼で瀋陽 (MHK DEN) 引受、オーストリアウィーン宛外信便。4 通は 1913 ~ 1931 年の帆船葉書 (3 通は切手加貼) の日本宛で、引受局は、太平哨、天津、古北口、奉天。
2 位	8	705	6,000	52,000	陽明門 10 銭 銘付 8 枚ブロック 裏うつり 未使用
	8	789	8,000	16,500	立太子札 10 銭 済 櫛型印 根室・
4 位	7	12	3,000	5,400	香港 1865 8c、1871 30c。 2 枚組。 済 横浜局 抹消印 (青, Y1) YOKOHAMA イギリス横浜郵便局
	7	1362	40,000	100,000	北ボルネオ Brunei 加刷 15c、明治神宮 8 銭 日付印 皇紀 2604 6 23 クチン中央 → Djakarta 南方占領地 マライ書状書留 到着印: 7/22 検閲あり
	7	1363	80,000	170,000	北ボルネオ Brunei 一行加刷 30c 福刈 1 銭 キズ 日付印 (紫) 皇紀 2604 1 27 ブルネイ中央 書留北ボルネオ書状重量便 中継印: Mihi 1/28 検閲あり
	7	1484	10,000	21,000	インド 1902 25r Telegraph cancel 済 日付印 (紫) 1910-11-28 CALCUTTA カタログ価: 33,000 円
	7	1759	5,000	12,500	トルコ 1863 - 1992 不足料、新聞、寄付金付き、公用切手等 総数 436 枚。不足料切手の 1863 年ファーストイッシュタイプ 3 種など興味深い評価の高いものを含む。新聞切手の 1891-1892 年の加刷は as is でカウント外。 自製リーフ 27 枚に整理収納されている。 未済混合 主に使用済 完全揃いではない カタログ価: 50,000 円
	7	1819	3,000	7,200	韓国 1902 - 1903 2re -15ch 16 枚組 (別に参考品 1 枚)。 未使用 済 ヒンジ跡あり 裏一部薄い RC カタログ価: 20,000 円

スタンペディアオークション

第18回セール（2021.7.3 フロア）最終落札結果

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
1	72,000	56	3,000	116	6,800	193	50,000	243	2,200
2	25,000	58	8,500	117	3,600	194	45,375	244	2,000
3	14,500	64	3,000	118	9,000	195	6,600	247	5,000
4	52,000	65	4,000	119	10,500	196	50,000	251	6,050
5	41,000	66	3,200	121	6,050	197	78,000	252	4,000
6	46,000	68	25,000	122	6,050	198	50,000	253	4,033
7	52,000	70	8,500	123	3,000	199	50,000	255	10,083
8	31,000	71	4,200	126	4,000	200	26,000	256	2,400
10	47,000	73	20,000	128	5,000	201	6,400	258	7,000
11	105,000	74	11,774	129	4,000	202	15,500	264	7,200
12	5,400	75	5,000	130	9,000	203	10,000	275	3,000
13	10,500	76	12,500	131	3,000	204	5,000	276	5,000
14	9,500	78	5,000	132	6,200	205	10,000	281	4,000
15	30,000	79	5,200	138	21,000	208	41,000	289	2,000
16	4,000	80	7,000	139	2,000	209	17,000	294	3,000
17	11,500	81	5,600	140	2,000	210	7,200	301	3,800
18	10,000	82	8,067	145	5,000	212	8,500	304	3,025
19	16,500	84	2,200	147	2,000	213	3,000	315	3,000
20	7,058	85	5,000	151	2,400	214	5,400	323	3,000
21	12,500	86	15,500	160	8,500	215	5,000	324	3,000
23	10,500	87	16,500	161	5,000	216	7,200	326	3,000
24	11,458	88	10,000	162	4,000	217	8,000	327	3,400
25	26,000	91	10,500	163	15,500	218	3,000	329	6,000
27	15,000	92	10,500	164	4,000	219	5,400	330	4,000
28	21,000	94	5,042	166	31,000	220	7,600	331	3,000
31	135,000	95	5,000	167	6,800	221	4,400	332	4,000
32	3,400	96	13,500	168	5,042	222	4,400	333	3,000
33	100,000	97	11,500	169	12,500	223	9,000	334	5,000
35	12,500	98	15,500	171	6,800	224	7,800	336	5,000
36	3,000	99	5,000	172	10,500	225	21,000	339	5,000
38	3,600	100	5,000	173	5,000	228	7,800	340	4,200
39	7,400	101	5,200	174	5,400	229	7,800	341	3,000
40	4,000	102	5,000	175	5,000	230	13,500	342	18,500
42	4,000	103	4,033	176	3,000	231	5,200	343	3,000
43	3,000	104	5,600	177	5,000	232	7,800	344	4,000
44	5,000	105	5,000	178	12,000	233	5,000	347	3,000
45	5,000	106	21,000	180	4,400	234	6,400	350	5,000
46	6,200	107	21,000	182	13,500	235	5,000	351	10,000
47	9,000	108	6,600	183	5,000	236	5,000	352	30,000
49	5,042	109	8,000	184	3,000	237	13,500	353	8,000
51	18,500	110	13,500	185	3,000	238	9,500	354	10,500
52	7,000	111	8,067	186	13,500	239	7,800	355	3,000
53	4,000	112	5,000	187	5,600	240	7,800	358	3,000
54	3,000	113	10,000	188	125,000	241	5,200	360	6,800
55	3,000	115	4,000	190	19,251	242	15,500	363	3,000

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
365	5,000	447	10,500	507	21,000	571	2,000	655	4,000
369	10,000	448	3,400	508	5,200	572	7,000	657	21,000
371	2,400	449	4,913	509	6,400	574	6,000	658	13,500
372	18,500	451	5,000	510	10,000	576	10,000	662	30,000
374	3,000	452	4,600	515	6,000	577	10,000	664	12,100
376	2,200	453	5,042	516	3,000	578	10,000	665	3,000
377	18,500	454	21,000	517	4,200	579	13,000	666	6,000
380	28,000	456	6,000	518	6,800	580	4,000	668	5,000
383	2,600	457	4,000	520	3,000	582	9,500	670	5,000
384	3,800	460	5,271	521	3,000	583	7,800	671	10,000
385	3,200	461	5,271	522	5,000	584	8,500	672	5,000
386	5,400	462	52,000	523	33,000	585	8,000	674	8,500
389	5,000	463	37,000	524	6,600	586	12,000	675	8,000
391	5,200	465	4,600	526	5,000	587	11,000	676	5,200
392	2,400	467	10,500	528	4,000	588	4,000	677	5,400
393	28,000	468	10,500	529	5,000	589	5,000	678	20,000
394	26,000	469	41,000	531	4,033	590	24,000	679	31,000
398	2,400	470	6,050	533	4,400	592	5,000	680	11,500
400	3,200	471	3,000	534	21,000	593	20,000	682	5,200
404	15,500	472	36,000	535	3,000	594	10,500	683	125,000
405	2,000	473	3,025	536	15,500	595	15,500	684	37,000
406	23,000	474	3,600	537	33,000	597	6,600	686	3,000
407	3,600	475	5,000	538	26,000	598	330,000	687	5,000
412	6,400	476	15,500	539	17,500	602	7,000	688	4,600
413	4,400	477	8,000	540	5,000	609	12,500	689	4,000
414	4,125	478	3,000	541	11,500	610	4,000	691	10,500
417	2,400	479	10,000	542	5,800	611	3,000	692	25,000
418	3,000	480	3,600	543	2,000	613	4,800	696	5,000
419	4,000	481	2,000	544	5,400	615	4,400	697	64,000
421	2,017	482	4,800	545	4,800	617	14,000	699	41,000
423	2,600	483	3,000	546	3,025	618	46,000	700	9,000
424	3,000	484	10,500	547	4,800	619	10,000	701	4,000
427	2,000	485	3,000	549	4,600	620	4,400	702	3,000
428	2,000	486	3,000	551	4,000	622	5,200	703	3,400
429	3,000	487	29,000	552	2,017	624	15,000	704	3,000
431	2,000	488	4,000	554	5,000	629	3,000	705	52,000
432	4,400	490	3,000	555	5,000	631	5,000	707	5,000
433	8,000	491	3,000	556	3,600	635	5,000	708	5,600
434	6,000	492	10,000	557	33,000	636	15,500	710	14,000
435	4,000	497	7,800	558	8,000	637	4,200	711	3,600
436	3,400	498	5,000	559	3,208	638	4,000	712	4,800
437	3,000	499	5,000	560	19,000	639	20,000	713	30,000
438	5,000	500	5,000	564	3,200	646	5,000	715	16,500
439	12,000	502	54,000	566	19,000	647	5,000	718	5,000
441	10,500	503	4,000	567	8,500	648	5,600	725	6,200
444	31,000	504	8,000	568	2,400	650	10,500	726	4,000
445	10,000	505	4,200	569	4,800	653	3,400	727	16,500
446	4,000	506	12,000	570	12,100	654	9,000	728	2,000

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
731	27,000	815	105,000	895	3,000	968	100,000	1034	2,000
732	3,000	816	3,000	896	4,200	969	3,000	1035	15,000
734	5,000	817	3,800	897	3,800	970	3,000	1036	6,800
736	4,200	818	5,000	898	6,000	973	3,000	1037	36,000
737	7,200	820	6,200	900	9,500	974	15,500	1038	3,000
739	15,000	821	7,000	901	12,500	976	3,200	1040	7,200
740	9,000	822	2,000	902	10,500	977	7,000	1041	11,500
741	3,000	825	3,025	903	33,000	978	1,800	1043	4,033
742	31,000	826	3,400	906	3,000	979	9,000	1044	2,800
743	3,000	827	3,117	909	4,800	980	16,000	1046	3,000
745	5,000	832	4,800	910	10,500	981	8,500	1051	3,000
746	26,000	833	15,767	911	12,500	982	3,200	1052	8,500
747	3,000	834	5,600	912	52,000	984	12,500	1053	1,800
751	10,500	835	5,600	914	4,200	985	19,000	1054	1,600
752	5,000	836	5,400	915	21,000	986	3,000	1055	31,000
755	10,500	837	4,000	916	3,000	990	5,000	1056	12,500
756	10,000	839	3,000	917	15,500	992	16,000	1057	23,000
757	4,800	840	52,000	918	3,000	993	3,000	1058	12,500
758	5,000	842	115,000	924	3,000	994	12,500	1059	1,000
760	4,400	843	12,500	928	3,000	995	9,000	1060	5,600
761	5,000	845	15,500	929	5,800	996	21,000	1061	9,500
763	54,000	848	10,500	930	1,008	997	3,000	1062	10,500
764	10,500	849	5,400	931	2,017	998	5,800	1063	10,500
767	9,500	850	12,000	932	4,400	1000	7,000	1064	3,000
768	13,000	853	7,000	933	39,000	1002	5,000	1065	6,200
769	56,000	854	10,500	935	3,000	1003	3,400	1067	6,000
772	8,500	855	23,000	937	5,000	1004	4,000	1069	26,000
775	8,000	857	8,500	941	3,000	1005	10,000	1070	4,200
779	5,400	859	6,400	942	3,000	1006	8,000	1071	5,200
780	4,400	860	5,000	943	3,000	1007	8,500	1072	3,000
782	4,000	861	8,000	944	3,000	1008	11,500	1073	3,000
783	2,000	862	5,000	946	3,600	1009	4,000	1074	2,800
784	7,400	864	5,000	948	3,000	1012	6,200	1075	5,400
788	5,000	865	8,500	949	3,000	1013	4,000	1076	2,000
789	16,500	867	10,542	951	8,500	1014	6,200	1077	9,000
790	5,200	868	4,000	953	5,000	1016	3,000	1078	2,000
792	5,000	870	6,600	954	1,000	1017	8,000	1079	3,000
793	4,200	877	12,500	955	6,800	1019	8,500	1080	5,000
796	6,400	879	12,000	956	5,000	1020	7,400	1084	3,000
798	8,500	880	8,500	957	8,500	1022	2,000	1086	3,000
799	54,000	881	8,000	958	3,000	1025	3,000	1087	3,000
801	6,000	882	4,000	959	5,200	1026	5,800	1088	3,000
805	6,000	884	8,000	960	2,000	1027	5,000	1089	3,000
806	5,000	886	9,500	961	3,000	1028	4,000	1090	5,000
810	5,000	891	10,500	963	20,000	1029	7,400	1091	6,000
811	5,000	892	5,000	964	30,000	1030	5,000	1092	8,000
812	5,042	893	21,000	965	20,000	1031	9,000	1093	10,500
814	62,000	894	15,500	967	3,000	1032	7,400	1094	11,500

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
1095	4, 813	1166	3, 000	1257	4, 200	1322	8, 500	1384	3, 600
1096	3, 000	1169	400	1258	10, 000	1323	8, 000	1385	4, 000
1097	20, 000	1170	1, 000	1260	8, 000	1324	10, 000	1386	10, 000
1098	6, 400	1172	12, 500	1268	5, 042	1325	17, 000	1389	10, 000
1099	4, 600	1173	12, 500	1271	12, 000	1326	46, 000	1391	1, 750, 000
1100	19, 500	1174	4, 000	1272	7, 000	1327	58, 000	1392	21, 000
1101	5, 800	1175	3, 600	1273	15, 000	1328	52, 000	1393	165, 000
1102	17, 000	1176	25, 000	1276	5, 000	1329	11, 000	1394	90, 000
1103	4, 800	1177	8, 000	1277	3, 000	1330	120, 000	1395	110, 000
1104	6, 800	1178	30, 000	1278	3, 000	1331	20, 000	1396	110, 000
1105	7, 000	1180	25, 000	1279	3, 000	1333	5, 000	1397	110, 000
1106	14, 000	1182	50, 000	1280	7, 200	1334	165, 000	1398	6, 200
1107	4, 600	1183	10, 000	1281	5, 200	1336	8, 000	1399	23, 000
1108	6, 200	1185	5, 000	1282	5, 200	1337	175, 000	1400	29, 000
1109	3, 400	1187	8, 000	1284	6, 000	1339	5, 400	1401	5, 800
1110	6, 000	1190	3, 000	1285	4, 800	1340	710, 000	1402	3, 000
1111	3, 025	1191	10, 000	1286	5, 000	1341	670, 000	1404	2, 000
1112	6, 800	1192	8, 000	1287	4, 000	1342	10, 000	1405	3, 000
1113	5, 400	1194	10, 000	1288	6, 800	1343	6, 000	1406	3, 000
1114	3, 025	1196	15, 000	1291	8, 500	1344	27, 000	1407	8, 500
1116	10, 000	1198	5, 000	1292	5, 200	1345	155, 000	1408	5, 200
1117	4, 000	1200	6, 000	1293	4, 000	1346	90, 000	1410	2, 800
1118	5, 000	1201	13, 500	1294	5, 000	1347	125, 000	1413	30, 000
1119	5, 000	1202	6, 000	1295	3, 200	1348	3, 000	1414	36, 000
1121	7, 600	1203	8, 000	1296	3, 000	1350	5, 000	1415	15, 500
1124	6, 200	1204	8, 000	1297	7, 800	1352	3, 000	1416	1, 800
1125	3, 025	1205	4, 000	1298	62, 000	1353	6, 200	1417	3, 000
1126	7, 200	1206	8, 000	1299	125, 000	1354	5, 000	1418	10, 500
1128	4, 000	1209	12, 000	1300	125, 000	1355	5, 000	1419	4, 200
1129	3, 000	1212	8, 000	1301	15, 500	1356	44, 000	1420	4, 000
1130	3, 000	1216	10, 000	1302	42, 000	1359	5, 042	1422	4, 200
1133	2, 017	1219	5, 000	1303	78, 000	1360	95, 000	1423	2, 000
1134	5, 000	1220	7, 400	1304	115, 000	1362	100, 000	1424	3, 025
1135	4, 000	1223	4, 000	1305	90, 000	1363	170, 000	1425	3, 600
1140	400	1225	6, 200	1306	76, 000	1364	120, 000	1426	14, 000
1141	4, 400	1228	30, 000	1307	52, 000	1366	135, 000	1427	4, 800
1143	3, 000	1229	6, 200	1308	10, 000	1367	5, 042	1428	3, 000
1146	3, 000	1235	4, 000	1309	31, 000	1369	80, 000	1429	3, 000
1151	4, 000	1237	20, 000	1311	21, 000	1372	7, 000	1430	3, 025
1153	4, 600	1238	8, 000	1312	10, 000	1375	5, 000	1431	3, 000
1154	5, 000	1240	5, 200	1313	3, 000	1376	7, 400	1432	3, 000
1156	3, 200	1242	8, 500	1314	140, 000	1377	21, 000	1433	3, 400
1157	4, 000	1246	5, 000	1315	15, 000	1378	3, 400	1434	3, 400
1159	1, 600	1247	15, 000	1316	20, 000	1379	5, 000	1435	3, 000
1160	3, 000	1251	5, 000	1317	44, 000	1380	4, 000	1436	5, 600
1161	3, 000	1254	5, 000	1318	155, 000	1381	6, 200	1437	15, 000
1163	3, 000	1255	17, 500	1319	170, 000	1382	9, 000	1438	3, 600
1164	3, 000	1256	3, 000	1320	10, 000	1383	5, 400	1439	5, 000

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
1440	3,000	1494	3,400	1551	3,000	1602	7,200	1671	40,000
1441	2,000	1495	8,500	1552	35,000	1603	9,500	1672	3,000
1442	3,000	1496	3,200	1553	15,000	1604	1,400	1673	4,000
1443	6,600	1497	4,200	1554	5,000	1605	16,000	1674	3,000
1444	3,000	1498	36,000	1556	10,083	1606	6,000	1675	3,000
1445	7,600	1499	40,000	1557	7,600	1607	30,000	1678	4,000
1446	7,600	1500	5,600	1558	33,000	1608	7,000	1679	10,000
1447	15,000	1501	10,500	1559	6,600	1609	6,000	1681	5,000
1448	7,200	1502	8,000	1560	6,000	1610	8,000	1682	20,000
1449	3,600	1503	4,600	1562	10,000	1611	7,000	1683	7,800
1450	18,000	1504	8,500	1563	3,025	1612	5,000	1684	8,000
1451	4,000	1505	2,000	1564	13,000	1613	4,400	1686	3,200
1452	1,600	1506	2,000	1565	9,000	1614	5,000	1687	25,000
1453	14,500	1507	4,000	1566	52,000	1615	5,200	1688	13,500
1454	1,400	1509	3,000	1567	13,000	1616	4,000	1690	5,200
1455	5,000	1510	3,025	1568	85,000	1617	5,400	1693	3,025
1457	3,000	1511	3,000	1569	10,000	1618	3,000	1694	3,025
1458	3,400	1512	3,600	1570	8,000	1621	5,000	1695	3,000
1460	3,400	1513	5,400	1571	8,000	1623	10,000	1697	3,025
1461	40,000	1514	3,400	1572	5,729	1624	18,000	1698	3,025
1462	5,800	1515	3,200	1573	30,000	1625	9,000	1699	3,000
1463	66,000	1516	7,600	1574	29,333	1626	15,000	1700	3,000
1465	10,500	1518	13,000	1575	20,000	1627	3,000	1701	3,000
1466	5,400	1519	40,000	1576	3,400	1628	21,000	1702	4,000
1467	37,000	1520	5,600	1577	30,000	1629	3,200	1705	5,000
1468	6,050	1521	3,200	1578	3,000	1630	5,000	1706	34,000
1471	12,000	1522	8,000	1579	14,000	1631	3,200	1707	4,000
1472	10,500	1523	10,500	1580	3,400	1632	3,000	1708	3,600
1473	3,000	1524	10,000	1581	5,000	1633	4,200	1709	4,000
1474	7,400	1526	3,025	1583	12,500	1634	15,000	1712	5,000
1475	3,000	1528	3,025	1584	15,500	1637	21,000	1713	29,000
1476	5,000	1529	7,000	1585	5,000	1638	6,000	1714	5,800
1477	6,600	1530	10,500	1586	12,000	1639	15,000	1715	10,000
1478	35,000	1531	3,000	1587	3,000	1641	21,000	1716	12,000
1479	15,000	1534	10,083	1588	5,000	1643	15,000	1717	10,083
1480	20,000	1537	4,000	1589	10,500	1644	5,000	1718	27,000
1481	6,000	1538	3,025	1590	4,200	1648	9,000	1720	8,000
1483	6,800	1539	1,008	1591	21,000	1652	6,200	1721	20,167
1484	21,000	1540	12,000	1592	8,500	1653	10,000	1722	12,000
1485	9,000	1541	4,033	1593	3,000	1656	5,000	1723	3,400
1486	4,000	1542	9,000	1594	3,800	1658	8,000	1724	5,000
1487	3,000	1543	12,100	1595	5,042	1660	3,200	1725	8,000
1488	3,000	1544	5,042	1596	4,600	1663	8,000	1730	8,000
1489	6,400	1545	4,200	1597	15,000	1665	10,500	1731	5,000
1490	5,000	1546	5,280	1598	31,000	1666	21,000	1732	3,000
1491	20,167	1547	11,500	1599	5,000	1667	5,000	1734	4,000
1492	1,400	1548	3,208	1600	3,000	1668	5,000	1735	5,000
1493	6,000	1549	41,000	1601	15,500	1670	23,000	1736	5,000

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
1737	21,000	1806	3,400	1859	21,000
1739	8,000	1807	9,500	1860	5,000
1740	8,000	1808	5,000	1862	3,200
1741	22,000	1809	31,000	1864	1,400
1742	8,000	1810	8,500	1865	1,000
1743	18,000	1811	6,000	1866	3,000
1746	6,200	1812	7,200	1869	5,800
1747	5,000	1813	8,500		
1750	4,000	1814	39,000		
1752	21,000	1815	4,000		
1753	3,000	1816	24,000		
1754	9,000	1817	5,600		
1755	7,000	1818	25,000		
1756	3,200	1819	7,200		
1758	6,000	1820	5,200		
1759	12,500	1821	10,500		
1760	8,000	1822	10,500		
1761	10,500	1823	10,500		
1763	3,800	1824	7,000		
1766	2,000	1825	3,000		
1769	5,800	1826	4,200		
1770	15,500	1827	12,500		
1771	590,000	1828	10,083		
1772	6,000	1829	600		
1773	12,000	1830	3,000		
1774	5,042	1831	10,000		
1775	15,125	1832	7,200		
1776	165,000	1833	6,800		
1777	4,400	1834	3,000		
1778	5,000	1835	4,000		
1779	3,200	1836	4,000		
1780	60,000	1837	6,400		
1781	20,167	1838	8,500		
1782	25,000	1840	10,500		
1783	5,042	1841	3,800		
1785	2,000	1842	10,500		
1786	2,000	1843	4,000		
1787	7,200	1844	3,000		
1788	3,000	1845	2,400		
1789	5,000	1846	1,000		
1790	5,000	1847	12,500		
1792	5,042	1848	3,000		
1793	15,000	1850	3,025		
1794	4,800	1851	2,017		
1795	7,200	1855	3,400		
1797	3,000	1856	4,000		
1800	4,200	1857	3,200		
1801	74,000	1858	21,000		

成約品数 : 1288 点
 成約率 : 69.0%
 成約総額 : 20,483,905 円
 事前入札者 : 302 人
 一点以上落札 : 253 人
 フロア来場者 : 36 人

スタンペディアオークション 今後の開催予定

10/2	19 回セール
10/29	秋の文献セール
2022/1/8	20 回セール
2022/1/28	冬の文献セール
2022/4/2	21 回セール
2022/4/28	春の文献セール

予定が変更になる場合は、ホームページ及び通常セールのカタログで案内します

2021 年春の文献セール (2021.5.25 メール)

最終落札結果

成約品数 : 246 点
成約率 : 100%
成約総額 : 427,847 円
事前入札者 : 97 人
事前入札点数 : 581 ビッド

Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値
1			100	31	2		3,000
2	3		1,300	32	1		1,400
3	1		5,000	33	2		1,000
4	4	*	5,500	34	1		3,000
5	5		12,600	35	5		7,900
6	3		3,000	36	4		1,300
7	2		700	37	1		600
8	4		1,700	38	3		1,300
9	1		3,500	39	4		2,900
10	2		3,000	40	5		1,700
11	1		3,000	41	6		2,700
12	2		3,500	42	1		600
13	5		1,700	43	2		2,000
14	1		1,200	44			100
15	2		700	45	1		500
16	2		700	46	1		800
17	2		700	47			220
18	5		1,700	48	3		6,300
19			440	49	1		800
20	1		1,000	50	5		3,600
21	1		1,000	51	1		600
22			697	52	2		1,500
23			688	53	1		1,000
24	4		1,600	54	2		3,600
25	3		900	55	4		1,600
26	2		1,300	56	4		2,100
27	3		1,900	57			100
28	4		900	58	4		1,300
29			100	59			100
30			100	60	10		8,600

Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値
61	5		1,600	99	3		900
62	5		2,700	100	3		2,000
63	5	*	2,000	101			560
64	3		1,300	102			2842
65	2		1,100	103	2		900
66	2		1,700	104	8		3,600
67	2		1,500	105	4		2,400
68	1		1,400	106	2		700
69			100	107	3		3,100
70	2		700	108	3		1,700
71	2		600	109	2		1,200
72	4		1,300	110			688
73			450	111	1		1,000
74			1925	112	2		1,500
75	2		1,100	113	1		800
76	2		800	114	1		1,000
77	2		900	115	4		1,700
78			550	116			352
79			2017	117	3		1,500
80	2		3,000	118	2	*	800
81	1		1,000	119	3		1,500
82	3		3,100	120	2		1,400
83	1		1,000	121	4		2,200
84	3		1,700	122	1		1,200
85	5		3,700	123	2		500
86	1		700	124	1		800
87	4		3,500	125	1		800
88	6	*	2,000	126	1		1,000
89	7		3,700	127			569
90	2		3,000	128			660
91			1192	129			550
92	2		700	130			100
93	4		2,300	131	1		1,000
94	2		1,200	132	1		1,000
95	2		5,100	133			440
96	5	*	2,000	134	1		1,500
97			206	135	1		1,000
98	4		1,500	136	1		1,000

Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値
137	1		1,500	175	6		3,600	213	3		3,300
138	3		3,600	176	3		2,300	214	6		2,100
139	3		4,300	177	5		1,900	215	3		2,100
140			1018	178	3		1,300	216	4		1,700
141	1		1,000	179	1		1,000	217	3		2,100
142	2		600	180	2		3,300	218	6		2,100
143	6		1,200	181	3		3,000	219	2		8,400
144	1		1,000	182	4		1,700	220	1		400
145	6		2,700	183	8		1,300	221	2		1,600
146	1		800	184	3		900	222	2		2,100
147	2		1,100	185	3		2,500	223	1		2,000
148	11		3,700	186	3		1,600	224	3		1,300
149	3		3,600	187			344	225	5		3,600
150	1		1,000	188	1		1,100	226	1		2,000
151			100	189	3		1,900	227	2		800
152	3		1,600	190	1		400	228	1		1,000
153	2		1,100	191			352	229	8		3,600
154	1		1,000	192	5		4,100	230	10		1,800
155	1		300	193	1		1,000	231	3		700
156	6		1,900	194	3		1,600	232	1		2,000
157			550	195			550	233			352
158			550	196			715	234	1		500
159	2		9,600	197	1		800	235	2		500
160			550	198	7		1,600	236	5		1,200
161	7		14,100	199	2		500	237	4		1,600
162	3		3,700	200	1		700	238	2		900
163	1		800	201	3	*	900	239	2		700
164			100	202	3		700	240	2		600
165	1		500	203	3		900	241	9	*	3,600
166	3		4,900	204	1		500	242	7		3,200
167			1650	205	1		600	243	4		1,300
168			100	206	2		4,100	244	3		1,100
169	1		1,000	207	4		1,300	245	1		800
170	1		600	208	1		1,000	246	2		1,500
171	1		3,000	209	5	*	1,200	落札手数料を除く金額。「複」は事前入札数。「*」は同値事前入札あり。WD（出品取り消し）なし。			
172			500	210	4		1,600				
173	1		800	211			550				
174	2		2,300	212			220				

2021 年夏の文献セール (2021.7.29 メール)

最終落札結果

成約品数 : 136 点
成約率 : 100%
成約総額 : 274,120 円
事前入札者 : 64 人
事前入札点数 : 323 ビッド

Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値
1			100	31			176
2	4		4,100	32	2		1,100
3	2		6,700	33	2		1,600
4	6		30,100	34			344
5			100	35	3	*	800
6	3		12,600	36	1		500
7	3		5,100	37			100
8	2		3,100	38	1		500
9	3		4,300	39			550
10	2		1,700	40	1		500
11			176	41	2		1,900
12	2		1,200	42			100
13	1		1,000	43			100
14	3		4,600	44	4		1,300
15	1		4,000	45			330
16	2		600	46	5		1,500
17	1		400	47	6		2,100
18	2		1,700	48	7		2,100
19	4		1,600	49			600
20	3		1,100	50			704
21	4		1,100	51	2		2,600
22	4		1,300	52	2		700
23	6		1,700	53	3		2,100
24	4		1,300	54			300
25	2		400	55	2		1,300
26			200	56	4		2,300
27	3		1,000	57	2		1,100
28	2		900	58	2		700
29	1		500	59	4		6,200
30	2		900	60	5		12,600

Lot	複	*	落札値	Lot	複	*	落札値
61	2		2,300	101	5		2,100
62	3		1,600	102			825
63	1		1,000	103	1		800
64	1		800	104	2		1,400
65	2		800	105	6		2,500
66	6		1,700	106	2		700
67	5		700	107	4		2,600
68	5		700	108			697
69	1		500	109			165
70	2		500	110			440
71	3		10,400	111	5		1,200
72	5		4,300	112	4	*	700
73	9		8,100	113			514
74	7		2,600	114			1,430
75	2	*	800	115			100
76	3		800	116	2		300
77	5		1,600	117	3		600
78	2		1,600	118	2		1,200
79	2		600	119	1		1,000
80	3		1,300	120			165
81			440	121	8		2,100
82	8		3,100	122			176
83	1		500	123	1		500
84	2		1,100	124	2		1,300
85			206	125	2		1,300
86			294	126	1		800
87			468	127	1		500
88	3		1,100	128	2		900
89	1		500	129	3	*	1,000
90	2		1,600	130	3		900
91	3		800	131	2		1,700
92	2		800	132	2		1,300
94	2	*	700	133			220
95	4		4,700	134	1		500
97	4		1,600	135	1		500
98	2		2,600	136			100
99	5		1,300	137	1		300
100	4		9,600	138	8		26,100

取扱書籍のご案内

送料込以外の商品について、「スタンペディア日本版」会員は何冊注文しても送料は一律 300 円です。会員以外に直販は行っておりません。注文締切：2021/11/15



郵便切手等に関する右大臣布告 府県庁模刻写真集

明治初期の切手・ステーションナリーの発行にあたり、右大臣布告等が発せられ、府県庁に送付されました。府県庁ではこれを模刻し管轄地域内の市区町村に配布し、その一部が市場に出回っています。複製方法は様々であり、全容があらわされることは少なかったものです。この機会に是非、お手元に資料としてお持ちください。

書籍名：郵便切手等に関する右大臣布告 府県庁模刻写真集
著 者：古川 博
発 行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
体 裁：A4判 約70ページ、フルカラー、オフセット印刷
価 格：990円（消費税込、送料別）
発行日：2021年11月15日 予約販売



PHILANIPPON 2021 グランプリ受賞作品 プロイセン 伝統郵趣コレクション

プロイセンは、明治維新の日本とも縁が深い国ですが、その切手コレクションを国内で見る機会はありません。

著者が日本国際切手展 2021 に出品した内容を全リーフカラー日本語解説で紹介する単行本です。

書籍名：プロイセン 伝統郵趣コレクション
著 者：吉田 敬
発 行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
体 裁：A4判 約132ページ、フルカラー、オフセット印刷
価 格：777円（消費税込、送料別）
発行日：2021年10月1日 予約販売
「スタンペディア日本版」会員は、2021年9月25日までにご注文いただいた場合、送料無料でお届けします（会員特典特別先行予約）。マイスタンペディアからご注文、もしくは郵便振替などでご連絡ください。



国際展金賞受賞の郵趣雑誌 Stampedia Philatelic Journal 2021

8月に開催された横浜アジア展でも金賞を獲得。日本のフィラテリーを世界にバイリンガル・フルカラーで発信します。

掲載内容は発売までの秘密。国際展出品者を中心とする執筆者からの初公開の記事を掲載。（左の表紙は昨年のものです）

書籍名：Stampedia Philatelic Journal 2021
発 行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
体 裁：A4判 128ページ、フルカラー、オフセット印刷
販売価格：1100円（消費税込、送料込）
発行日：2021年11月11日

「スタンペディア日本版」会員は、2021年10月31日までにご注文いただいた場合、送料無料でお届けします（会員特典特別先行予約）。マイスタンペディアからご注文、もしくは郵便振替などでご連絡ください。

マイスタンペディア、電子メールでのご注文以外は、郵便振替（P.163に掲載）をご利用ください。

発行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

スタンペディアが年一度お届けする Quality Paper 第 11 号となる 2021 年版を本日より予約受付します



無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
ご予約方法は、160 ページをご覧ください。

1. 機関誌「フィラテリストマガジン」のお届け

機関紙通常号本誌（付録含まず）を 3/25, 6/25, 9/25, 12/25 前後にお送りします。

* 受け取る冊子の判型を『A5 判(年会費 3,980 円)』『A4 判(年会費 7,980 円)』より選択できます。

2. 機関誌「フィラテリストマガジン」2022 年新刊のダウンロード権利 (PDF)

2022 年は通常号 4 回と号外 3 回を計画しています。冊子のお届けに先立ちご案内します。

3. 新企画 機関誌「フィラテリストマガジン」バックナンバー全てのダウンロード権利 (PDF)

過去に発行された「フィラテリストマガジン」の本誌および号外の全てのダウンロード権利 (PDF) を在籍期間中付与します。(発行から 3 年を経過した機関紙の一般公開 [詳細次頁] に伴う措置です)

4. 書籍「日本郵趣記事索引 2022」のお届け

フィラテリストマガジン等の郵趣記事索引を掲載した書籍(冊子)を 2023 年 3 月頃にお届けします。

5. 単行本販売時の優先取り扱い

当社発行書籍等を、非会員より優遇条件で販売する場合がございます。オンラインからの注文に関しては、マイスタンペディアにてワンクリックでお申込みいただける仕組みも導入しております。

5. 提携先の「スタンペディアオークション株式会社」の優待サービスを受けられます

スタンペディアオークション株式会社(以下、同社)より「スタンペディア日本版」会員向け優待サービスが提供されており、同社が利用停止した方を除く全ての当会会員が利用できます。

- (1) 毎回のセールカタログを、当会機関紙の郵送時に、同梱して受け取ることができます。
- (2) 入札や下見にあたり、同社への会員登録の申し込みは不要で、当会会員の資格で参加できます。
- (3) 事前入札において同値の場合、当会会員の取り扱いが優先されます。
- (4) 一定条件を満たす事前入札(セールカタログに記載)に対して、入札確認通知を郵送します。

会費有効期間 2022 年 1 月 1 日 - 12 月 31 日

ご入会案内

1. まず、お受け取りになる冊子のサイズを『A4 判』か『A5 判』か、お決めください。
年会費は A5 判の場合 3,980 円、A4 判の場合 7,980 円 です。
2. 該当する金額を次ページ「送金先」欄のいずれかの方法でご送金ください。
3. ご連絡先(郵送先・電子メールアドレスのいずれか、もしくは両方)を当社にご連絡ください。
ご連絡先が分からない場合は、当社からはサービスの提供を開始できません。

ご寄稿案内

当誌は 2013 年 12 月に創刊された、総合郵趣雑誌(季刊)です。

フルカラー約 150 ページの紙面をフィラテリーに関する寄稿記事に最優先に割り当てています。「このような内容は掲載できるかな?」「他の郵趣雑誌ではページ数や編集の都合でうまく書けない/掲載できない」「連載で書きたい」「これまで寄稿を郵趣雑誌にしたことはないけれどぜひ書いてみたい」といったフィラテリストの情報発信を本誌への寄稿記事で実現してみませんか?

「マテリアルは持っているのだけど、記事を書くまでではない」といった方には、『私の発見・私の報告』や『切手コレクションの紹介』への掲載のご相談も承ります。

- (1) ご寄稿にあたり、お送りいただきたいものは、テキストと画像です。画像については、200dpi のスキャナーやスマホカメラで撮影した写真を添付ファイルとしてお送りください。
- (2) (1) のような手段のない方はカラーコピーをご郵送ください。なお、お送りいただいた原稿、カラーコピーほか資料は返却しません。送付はなるべく USB メモリをご活用ください。
- (3) いただいた原稿は、編集部で判断の上、編集して掲載いたします。手書き原稿もお引き受け可能ですが、キャパシティに上限がありますので、長文の場合は事前にご相談ください。

連絡先: tpm@stampedia.net

郵送先: 102-0083 海事ビル内郵便局留 スタンペディア 宛て

次号へのご寄稿締切日は、2021 年 11 月 15 日です

あとがき

肌を感じる風は日に日に涼しく、常に聞こえていたセミの声も今では小さくなり秋を感じる今日この頃。今号も読書の秋にふさわしい楽しい内容となっています！特に PHILANIPPON2021 の受賞者の喜びの声をどこよりも早く（多分）お届け。受賞者の方々にはその熱気冷めやらぬままご寄稿頂き掲載しております。ぜひ本誌を秋の夜長のお供に！

暑く、熱い夏が終わりました。Thailand2018 のリベンジをここ日本で！その目標をかかげ駆け抜けて来ました。結果は、、、LV（86）目標達成！！スタンペックスジャパン 2021 に出品しアドバイスをいただき、前向きな気持ちで PHILANIPPON2021 に臨む事ができました！本当に嬉しい！

競争展初出品から 6 年。やっとここまで来れたかと感慨深いものが。その間、本当にたくさんの方々にお世話になりました。展示マテリアル、展示構成、どれを見てもお世話になった方々の顔が見えて来ます。自作にこれほど人の縁を感じる事ができるとは、本当にありがとうございました。

私の挑戦は今回の目標達成で終わりではありません。

『マテリアルに語らせる』この RDP の言葉を胸に、次回は 8 フレームで国際展出品を目指します！（菊地）

大金銀賞受賞者 左から菊地、重山、若桑、伊藤、江村、岩崎、山田
マスク慣れて上手く笑えない菊地。まんまるアンパンマン。お手持ちと同じ画像ありましたら是非小顔に画像加工をお願いします（必死の乙女心）。(笑)



今号はご寄稿が多く「今更聞けないフィラテリー」「南方占領地のフィラテリー」「会員からのおたより」など一部の記事が次号まわしとなりました。お楽しみになられておられた皆様、ご了解ください。

書 名：スタンペディア日本版機関誌「フィラテリストマガジン」	
号 数：第 32 号（2021 年秋号）	
発行日：2021 年 9 月 30 日	
価 格：1,500 円（消費税込）	
発行部数：700 部	
発行者：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社	
発行人：吉田敬	
編集部：菊地恵実、北川朋美	
Name of the magazine:	The Philatelist Magazine
Number:	32nd (2021 Autumn issue)
Date of issue:	Sep. 30th 2021
Price:	1,500 Yen
Number of printing:	700 copies
Publisher:	Stampedia, inc. Takashi Yoshida
Editor:	E. Kikuchi, T. Kitagawa

連絡先

- (1) 郵便 〒102-0083
海事ビル内郵便局留置
スタンペディア
- (2) F A X 03-6700-1585
- (3) 電子メール tpm@stampedia.net

送金先

- (1) ゆうちょ銀行 10060 14016181
(2) 楽天銀行 ロック支店 普通 7027345
(3) ゆうちょ振替口座 00100-4-515137
(4) Paypal order@stampedia.net

* 加入者名はいずれも『無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社』です。

スタンペディアオークション株式会社
〒102-0083 千代田区麹町4-7 パークハウス麹町プレイス803
FAX: 03-6800-5384 auction@stampedia.net
<http://auction.stampedia.net>